



とんがり帽子の
アトリエ
ごめんね、お

ATELIER OF WITCH HAT
ATELIER OF WITCH HAT

自浜 鴎

KAMOME SHIRAHAMA

8

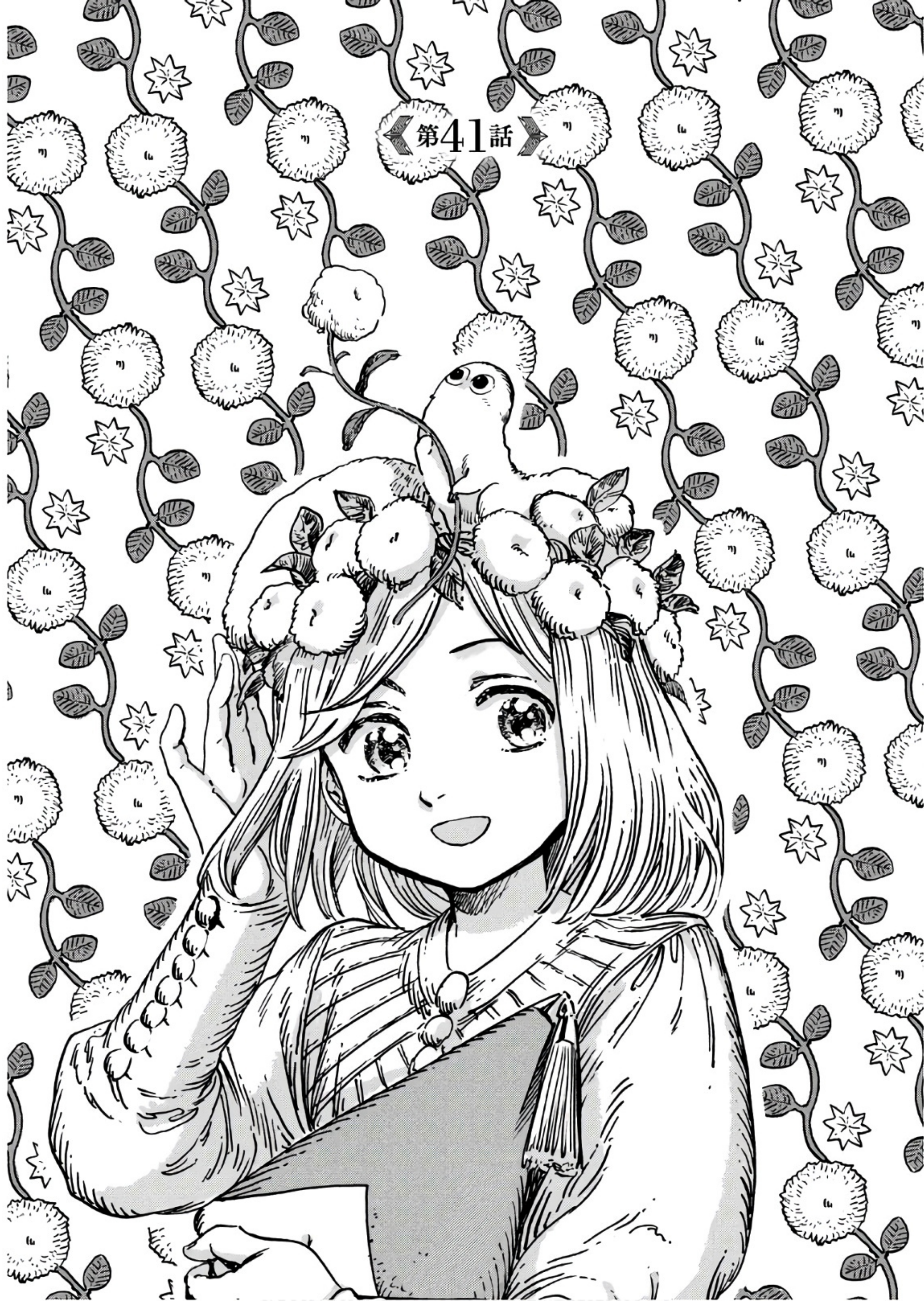




ATELIER OF WITCH HAT

◆
KAMOME
SHIRAHAMA

第41話





俺と一緒に
銀夜祭で

魔法のお店
出さないか？

お店屋
さん…!?

魔法の








元々は魔法器を
貴族や領主に
買ってもらった
ためや

王家に召し抱えて
もらうために
技を披露する場
だったんだけど

それを一目見ようと
集まった市井の人々が
城下街で宴をはじめて



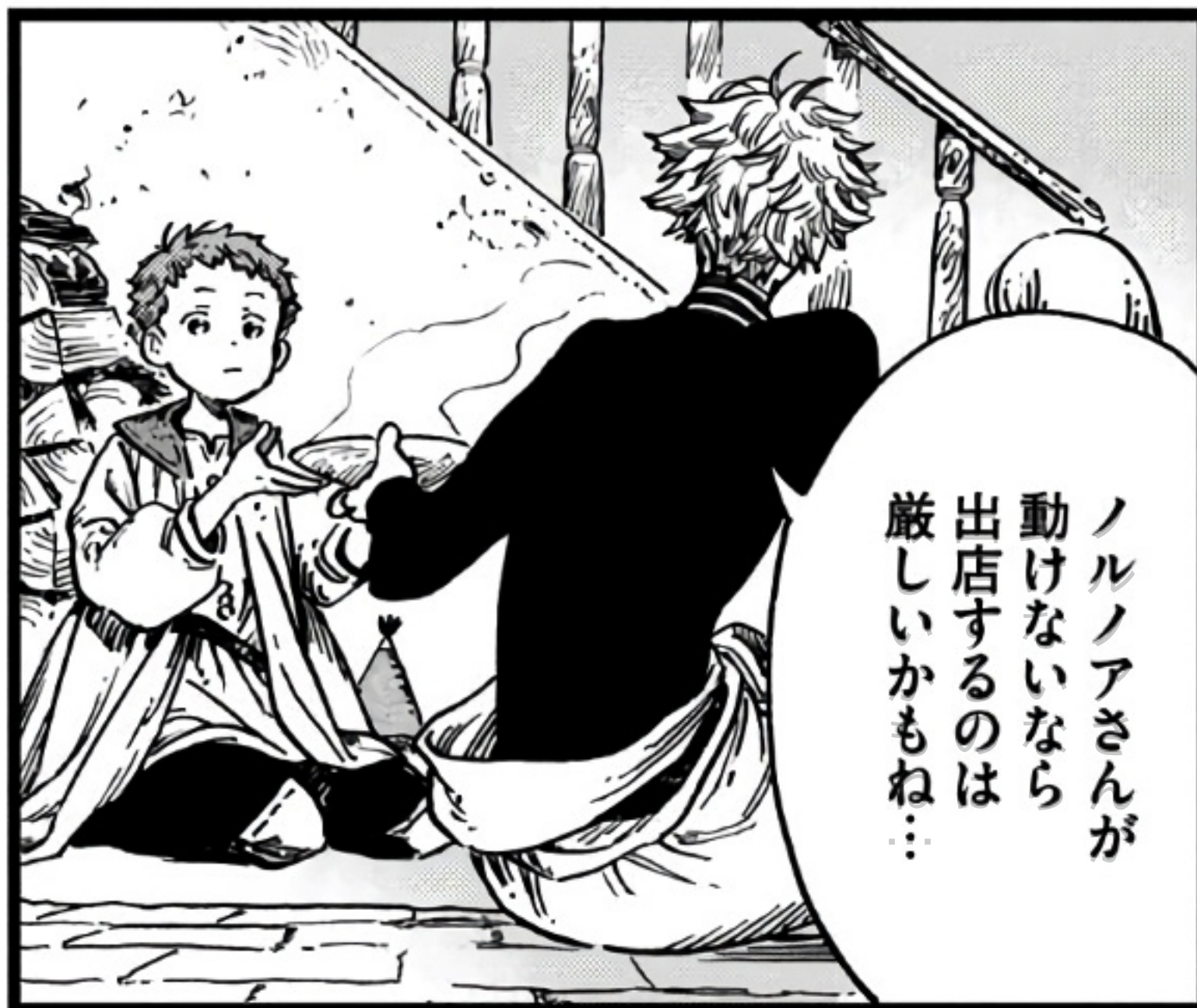


いつしか
本物のお祭りに
なっちゃったのが
銀夜祭！

大勢の魔法使いが
自慢の魔法を
披露したり
作った魔法器を
展示したり…

売買したり
交換したり…

色とりどりの
テント
天幕が立ち並ぶ
とても賑やかな
祭り市なんだ！



ノルノアさんが
動けないなら
出店するのは
厳しいかもね…



4日間ある
お祭りの間は
各地から大勢の
人が集まるから



天幕の場所は
抽選なんです
けど

今年はすげえ
いい場所が
当たったんです



祭りの中心地の
城門前広場…

あそこにうちの店の
天幕が出せるんだって
じいちゃんすごく
張り切ってたから

できれば
辞退せず
出店させて
あげたくて…

アッ…





俺たちの天幕
半分貸します!

タダとは
言いません!



魔法使いの
知り合いも全然
いないから...

俺...まだ
自分の先生も
決まってるから...



タタタ
くん...

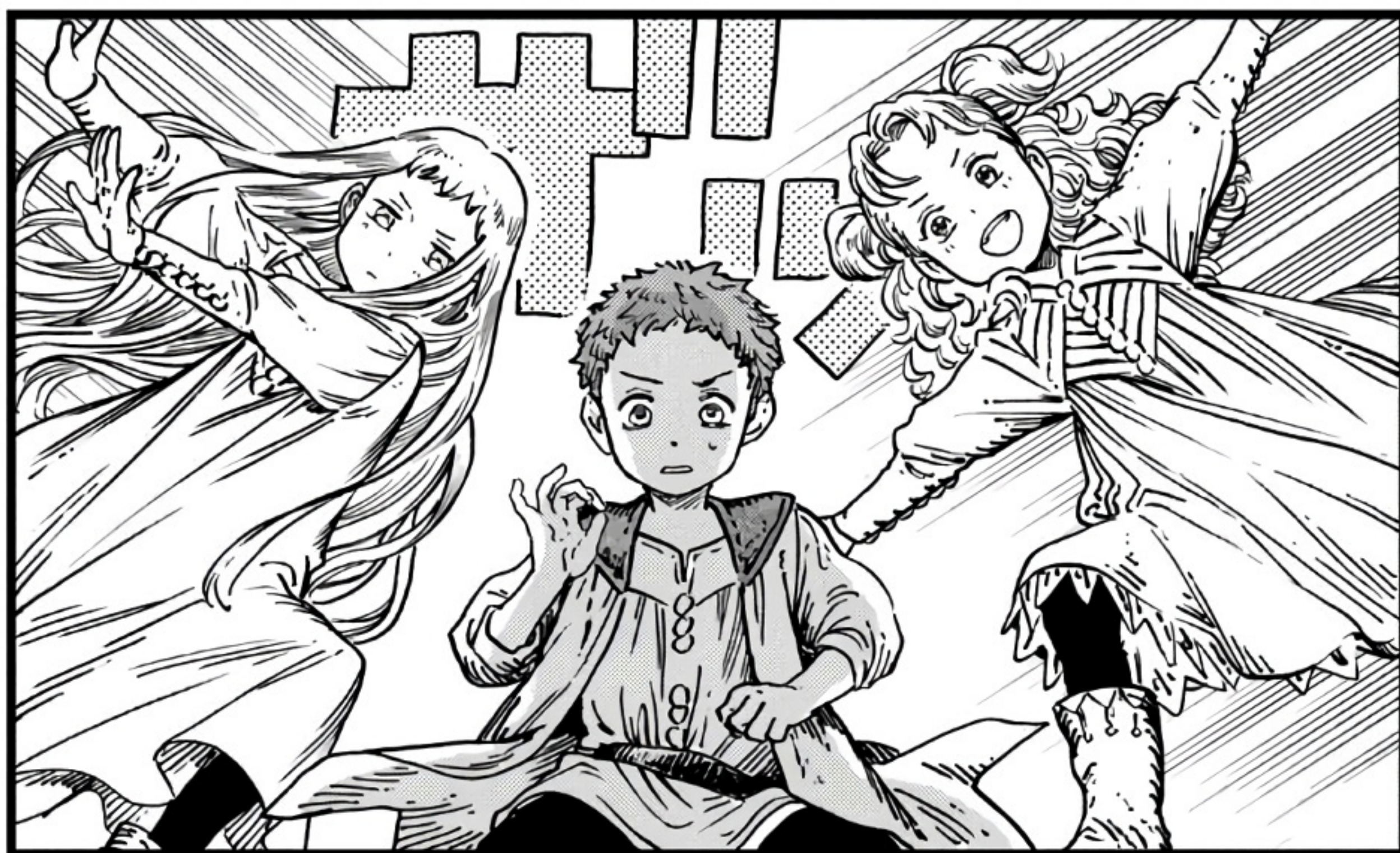


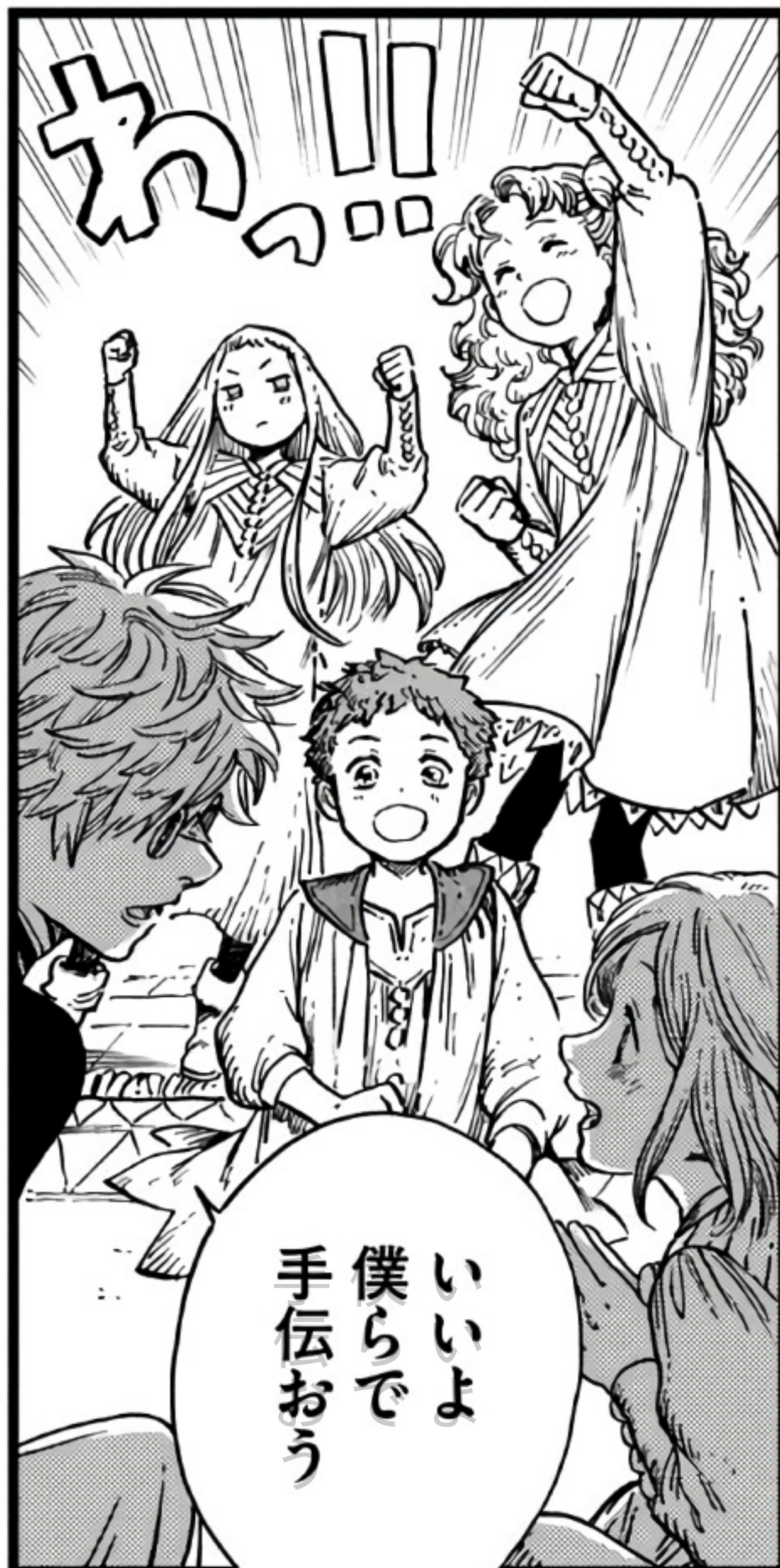
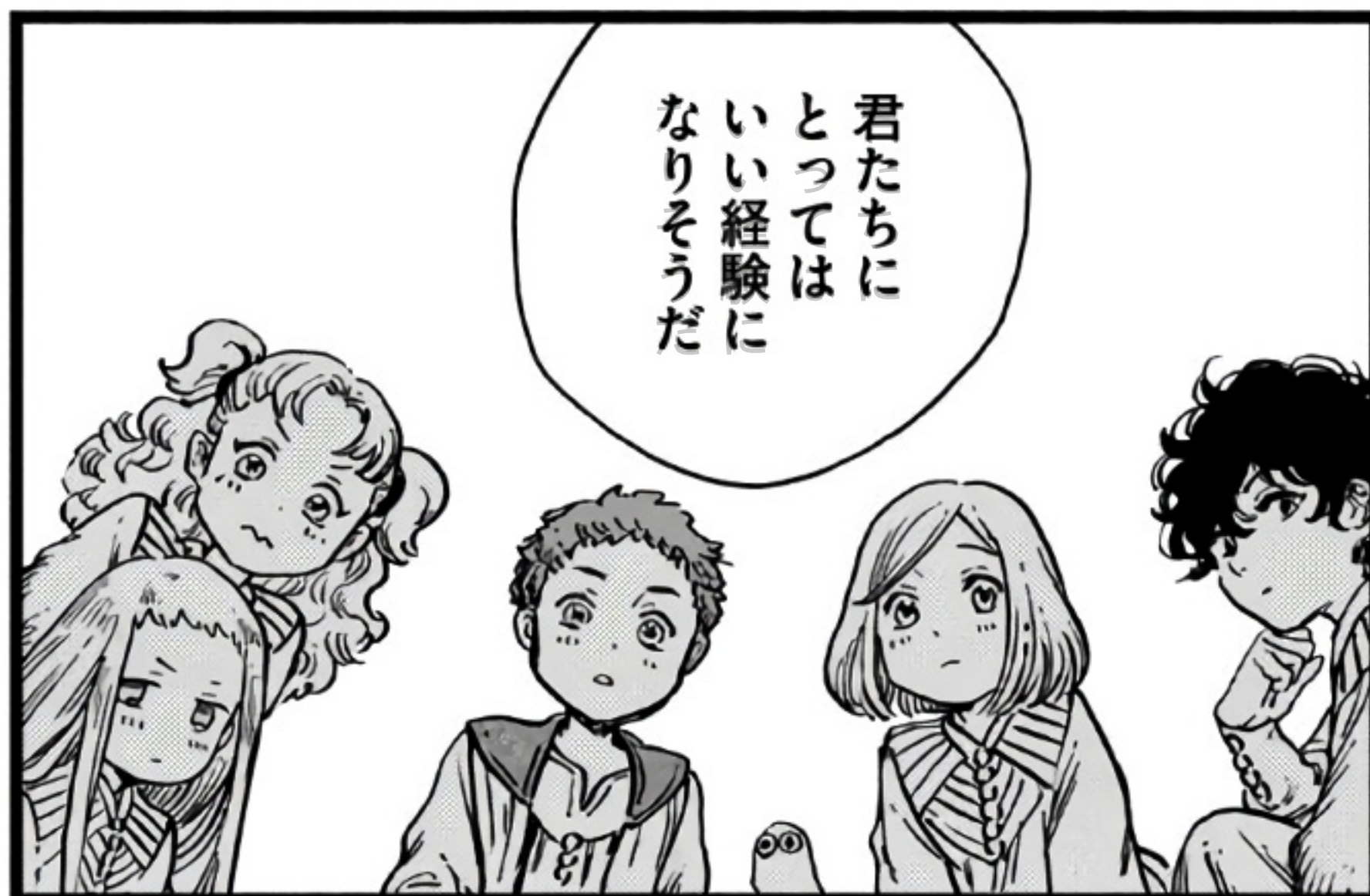
それに
ココは
はじめての
銀夜祭だろ?

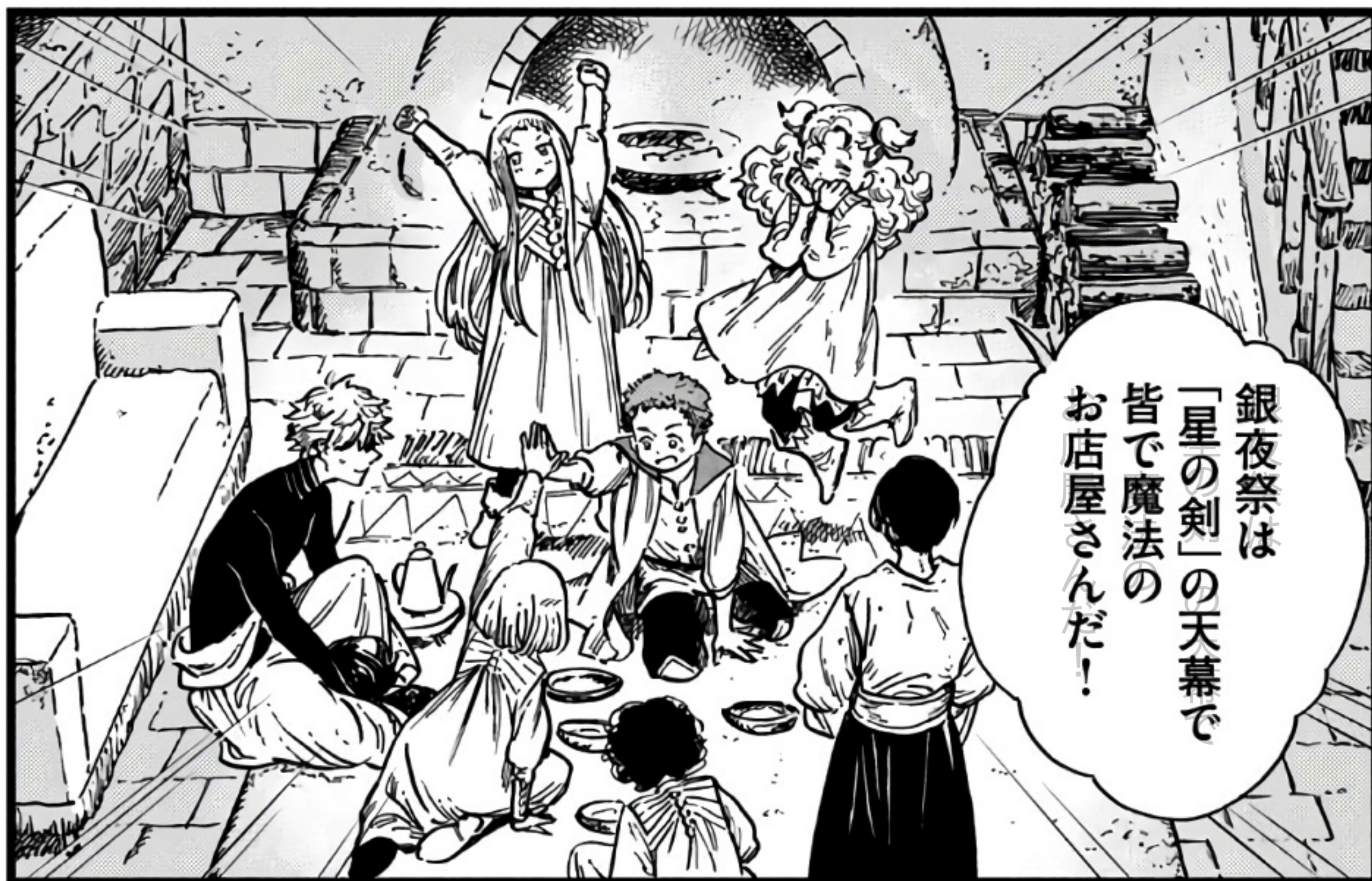


休憩所に
してもいいし
作った魔法器を
飾ったり売ったり
自由に使って
かまいません

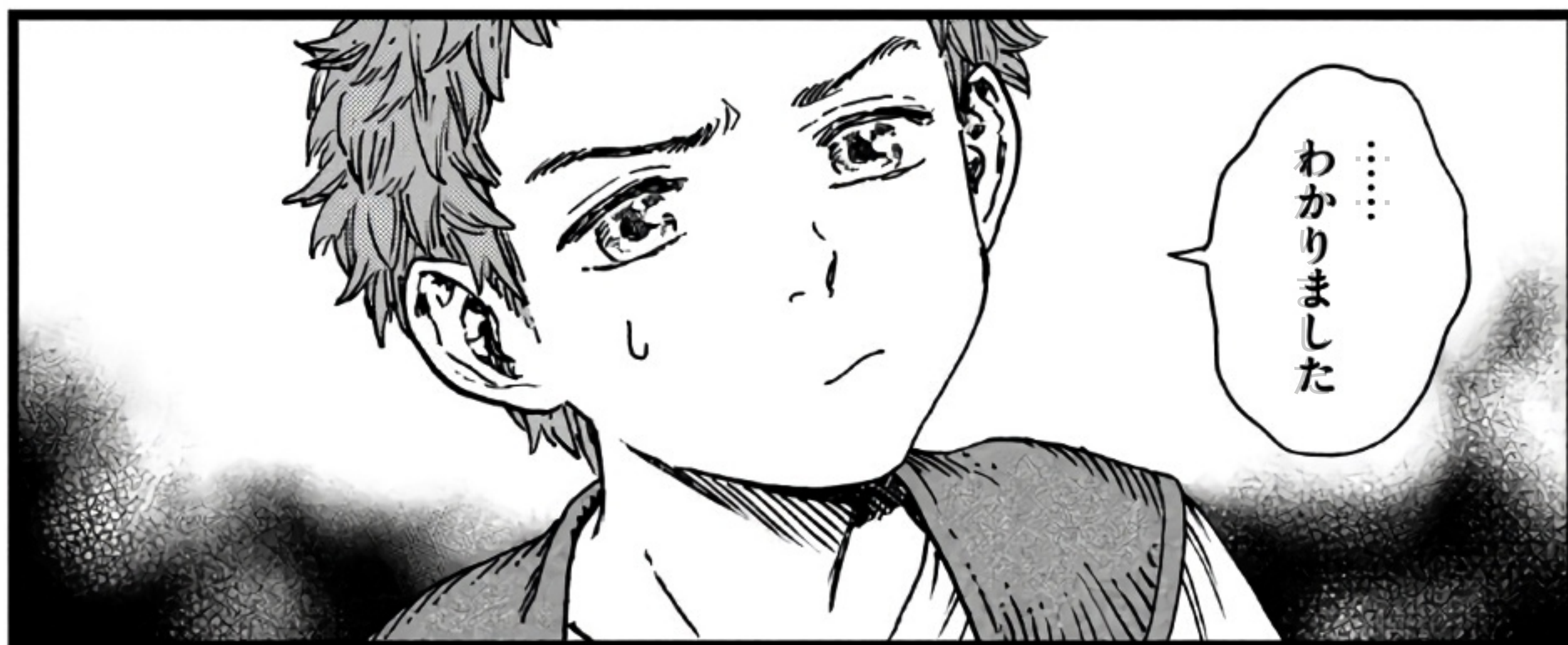
場所がいいから
パレードとかも
見やすいはず...



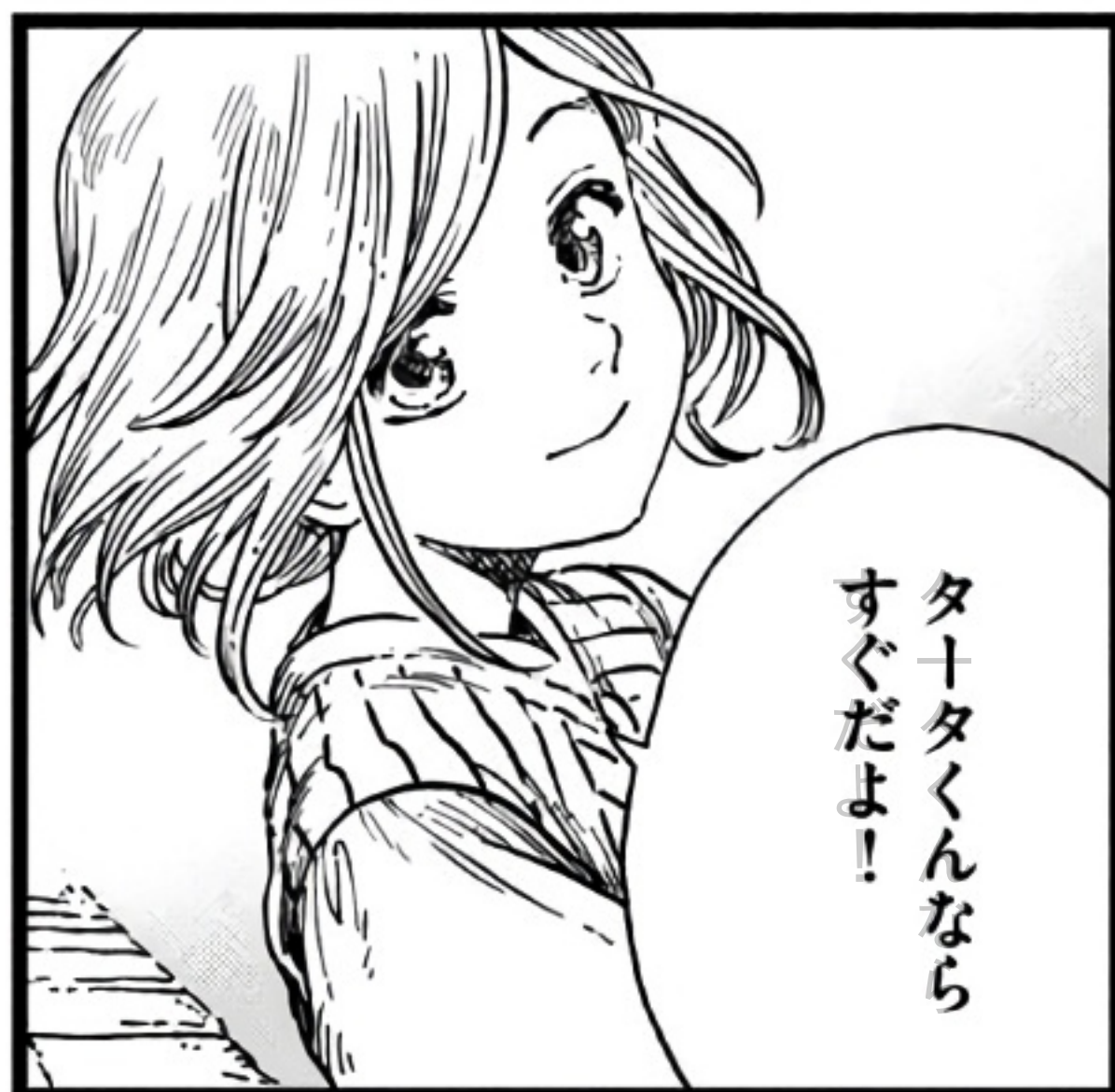


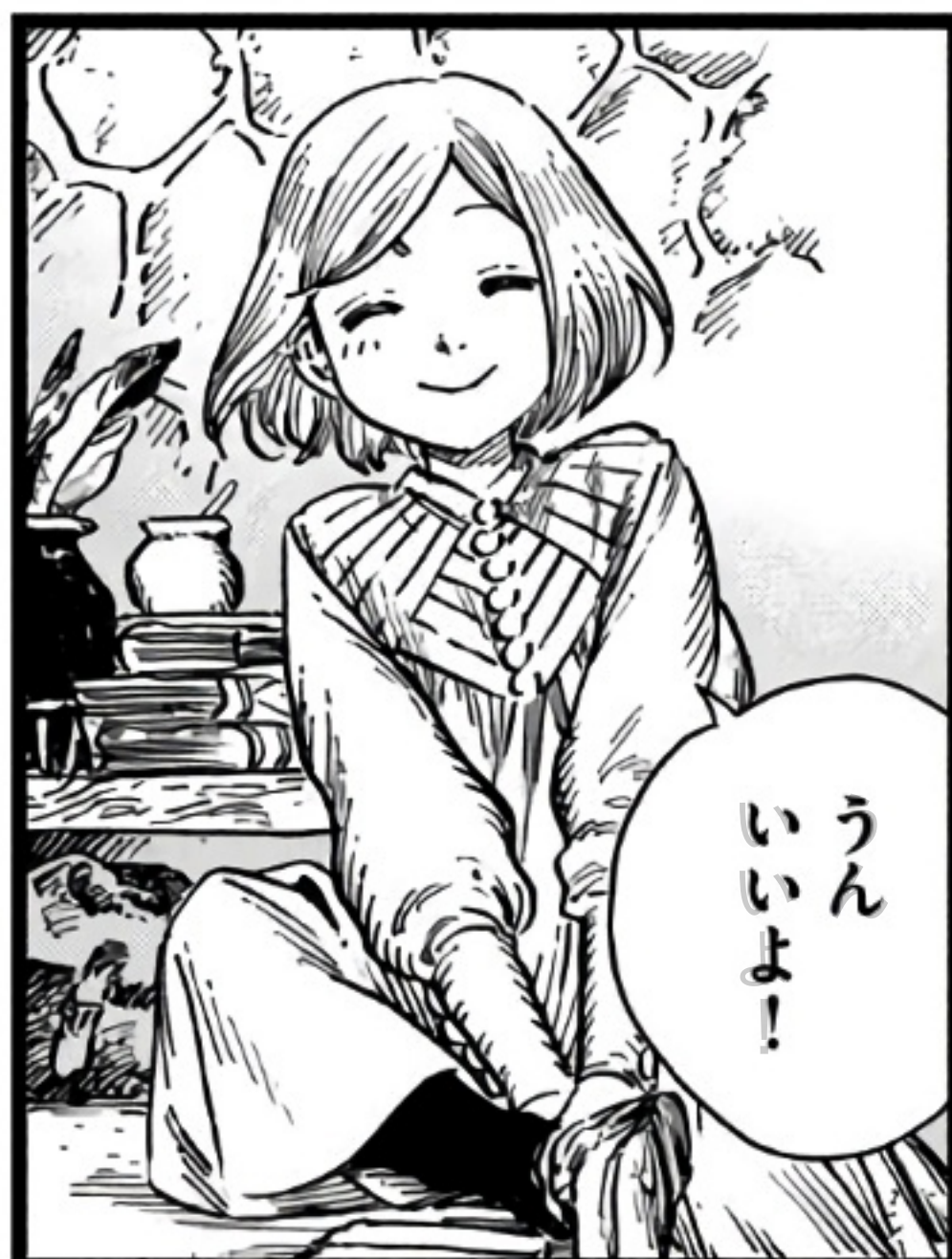












うん
いいよ！



魔法陣を
描く時と
同じ感じで

俺のひとさし指
握ってみてくれ



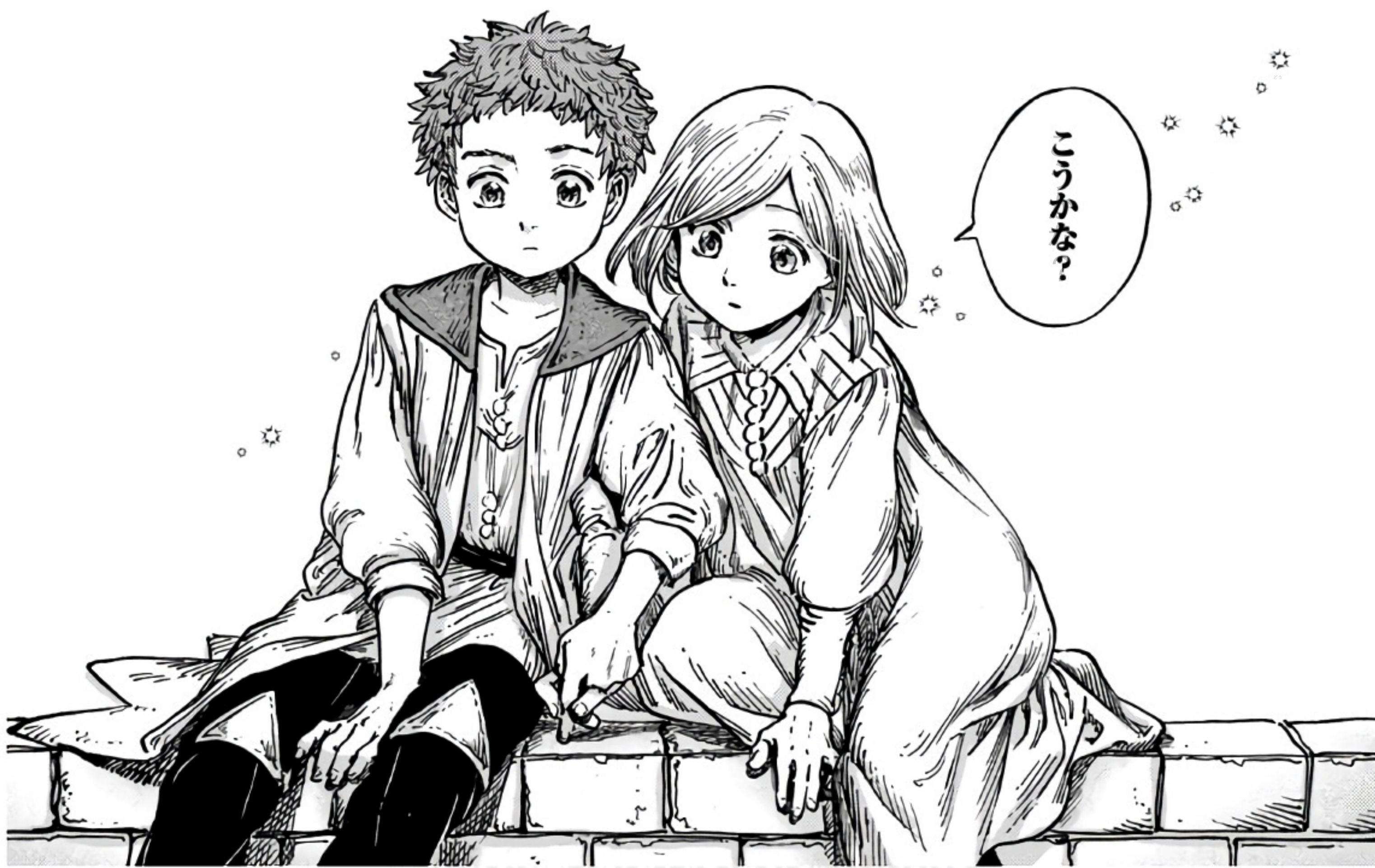
えーと
利き手が
右だから
こう？

あれ？

あー
待って

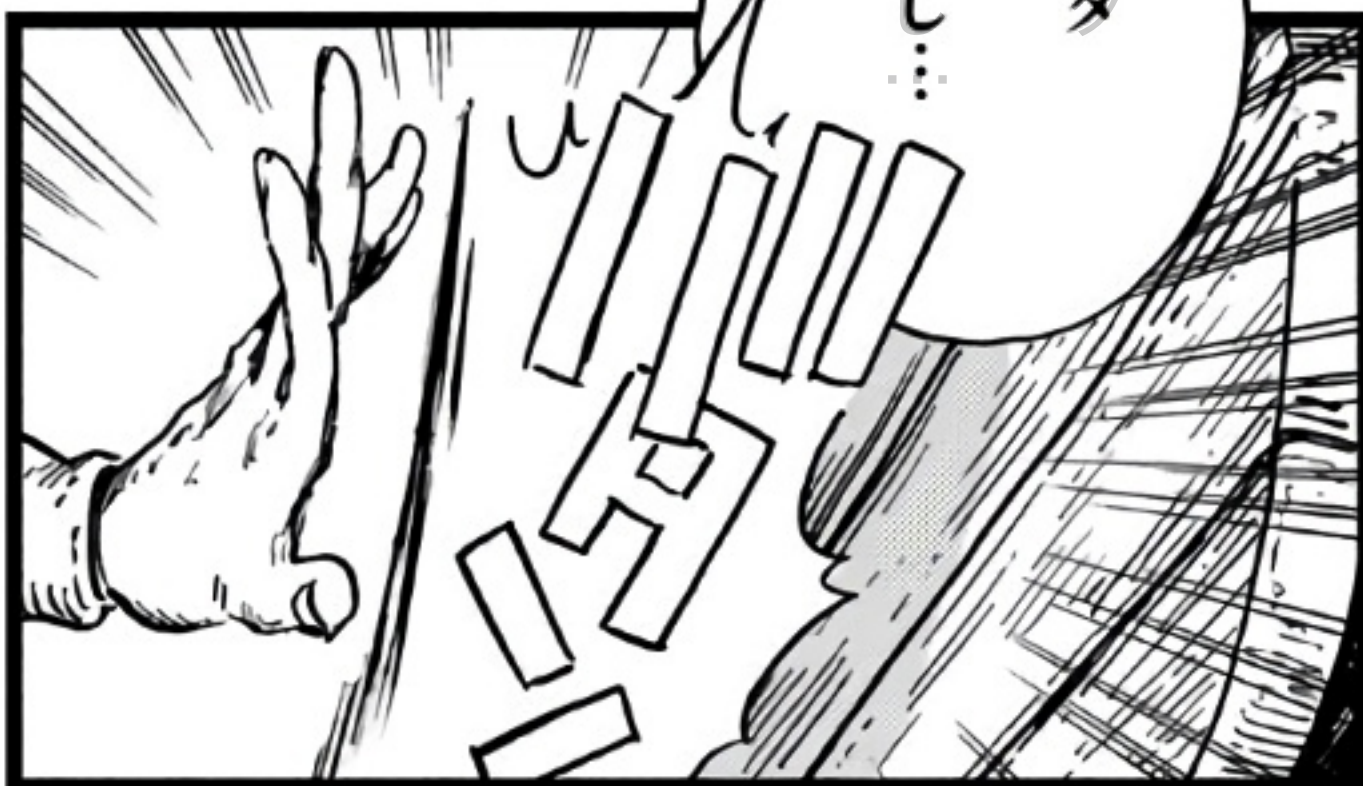
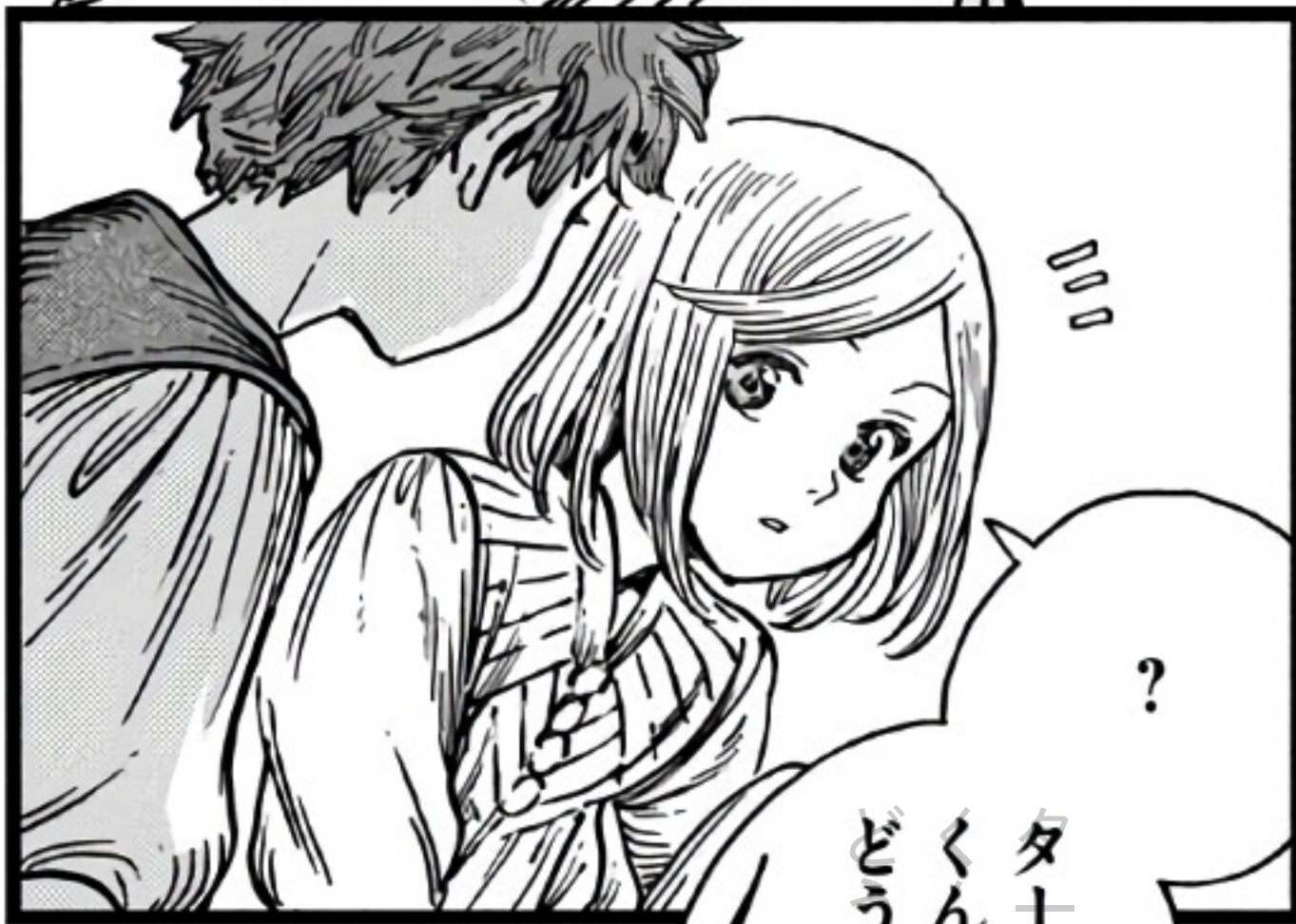
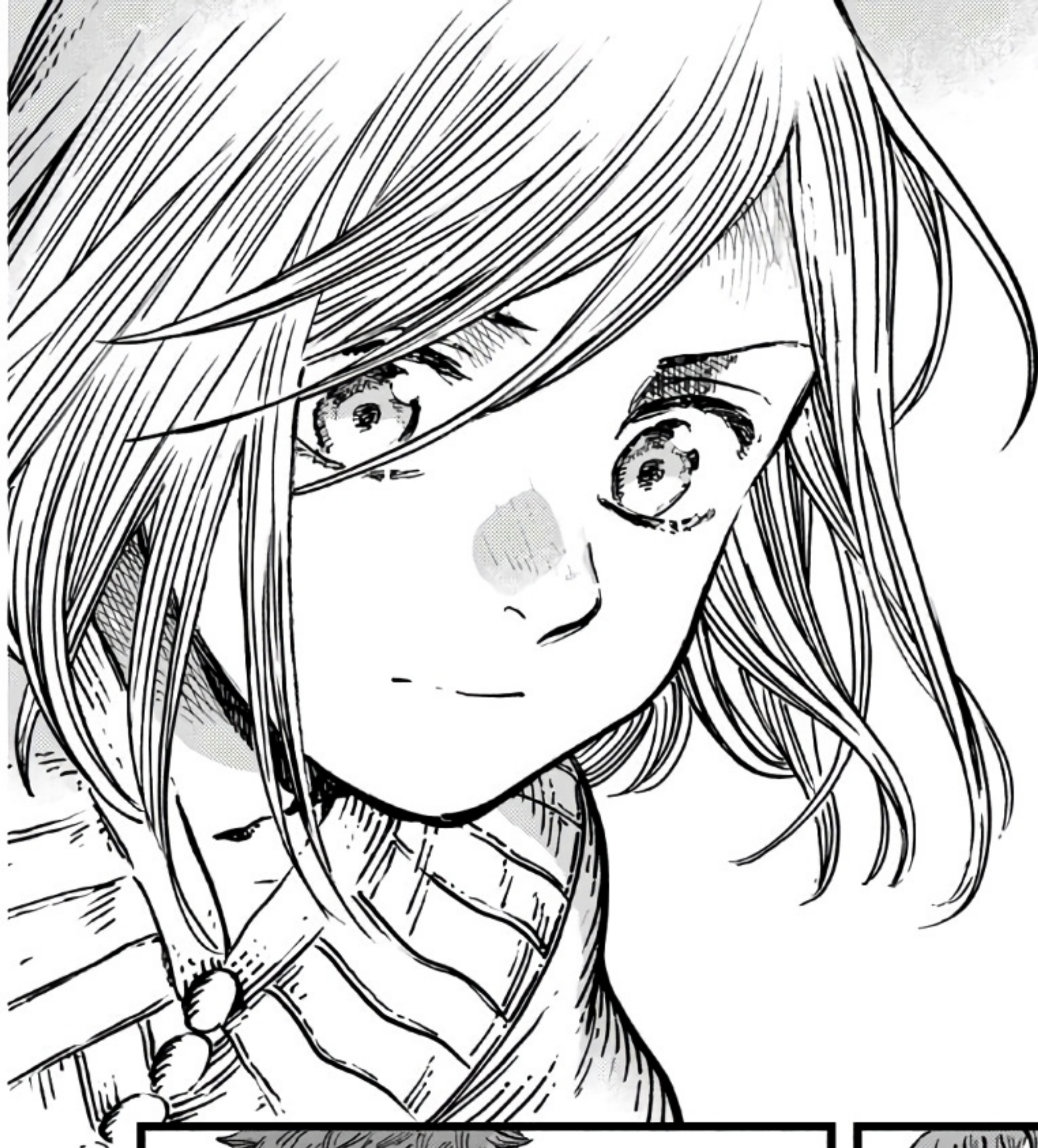
こっちの方が
いいかな
確認しやすく
て…

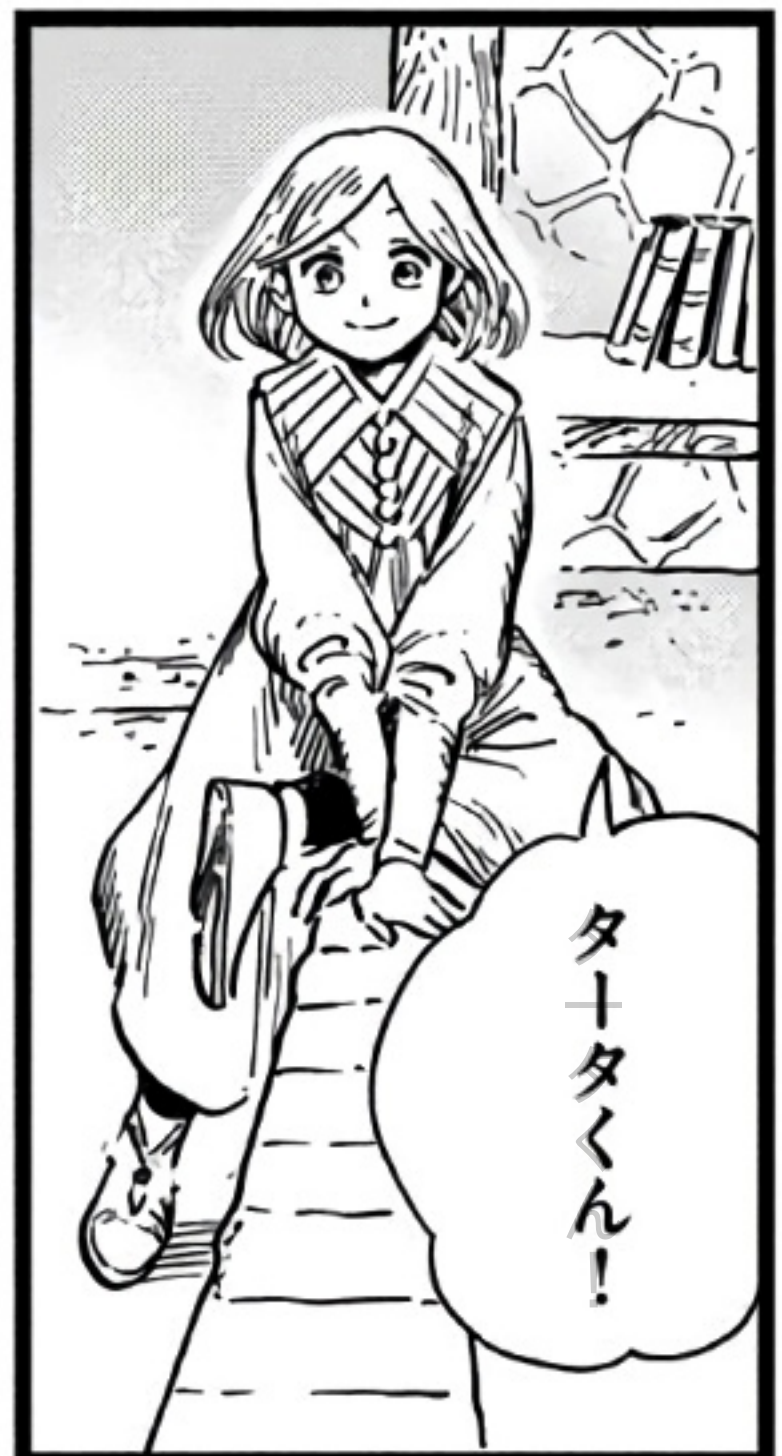
えつと…

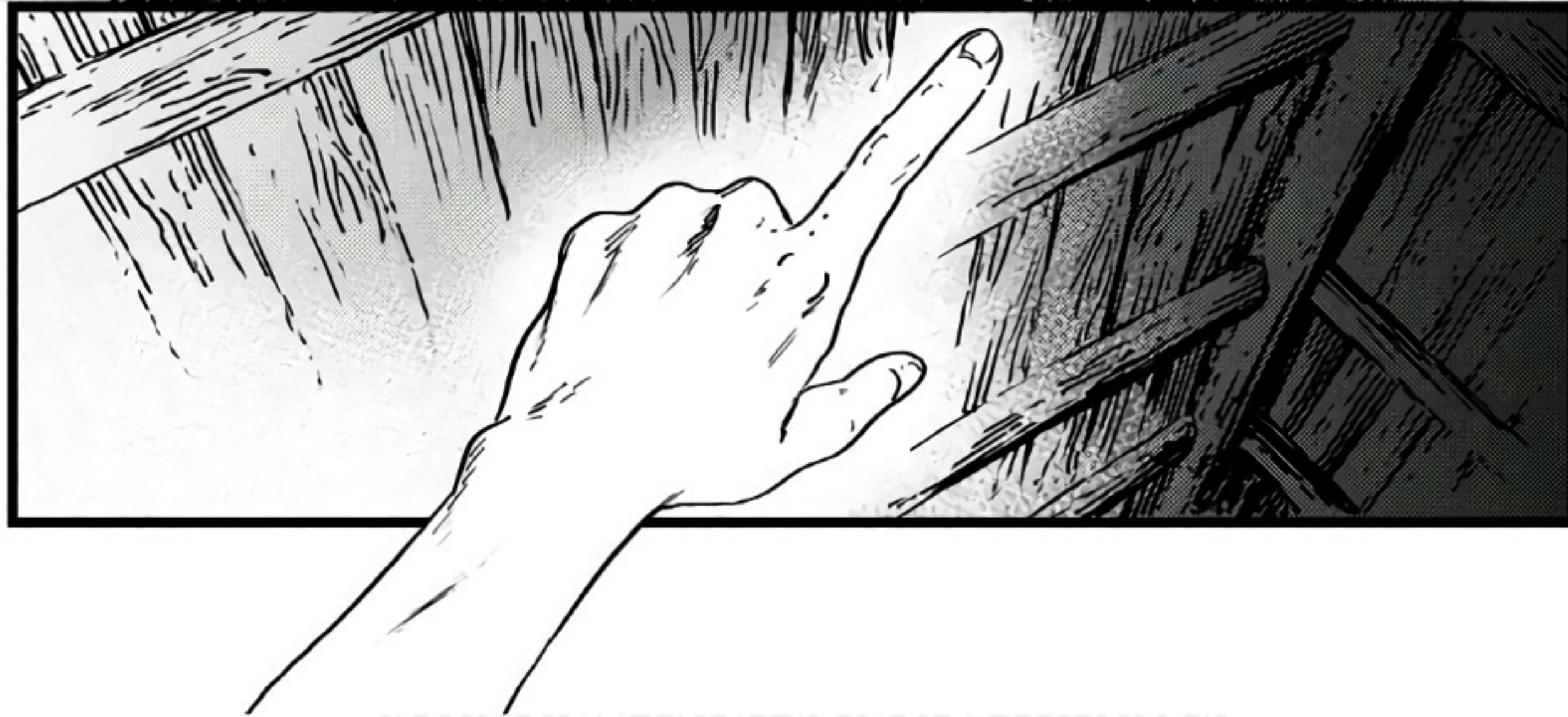
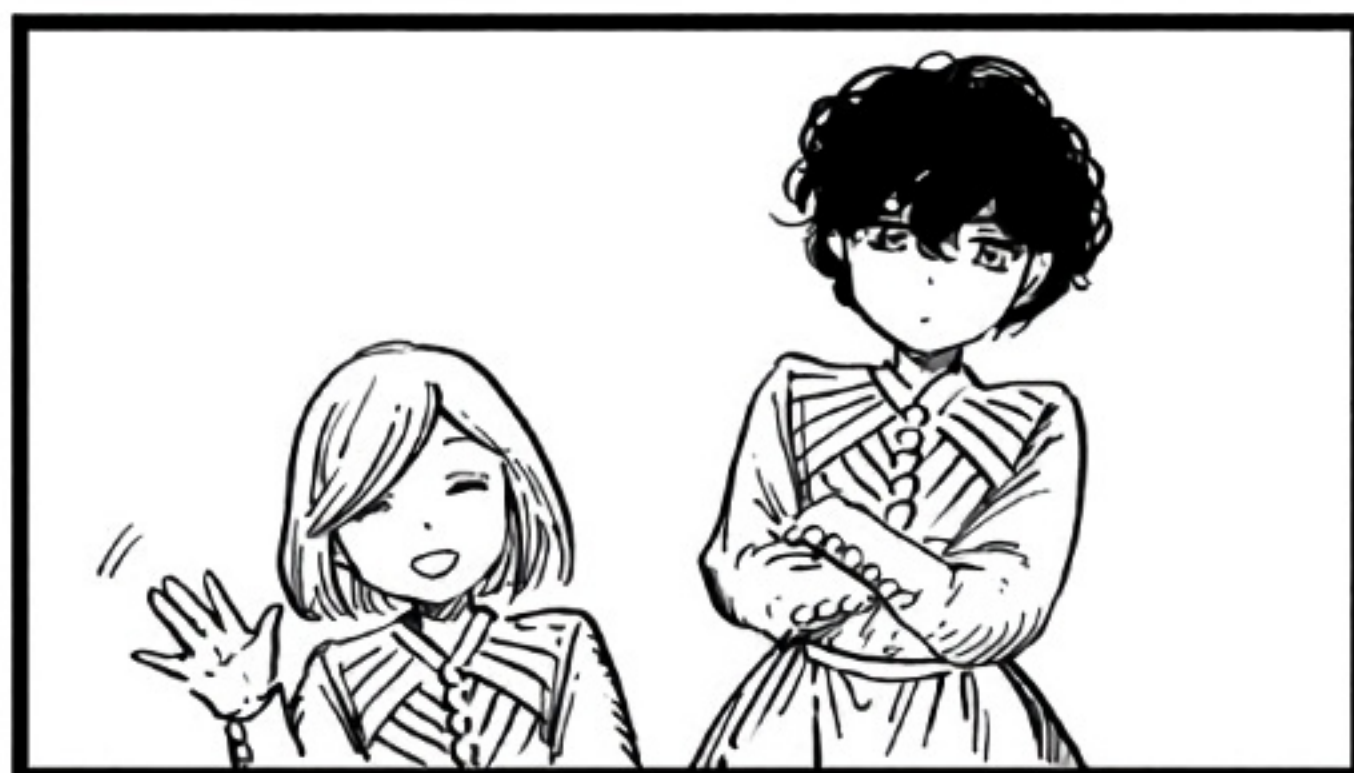


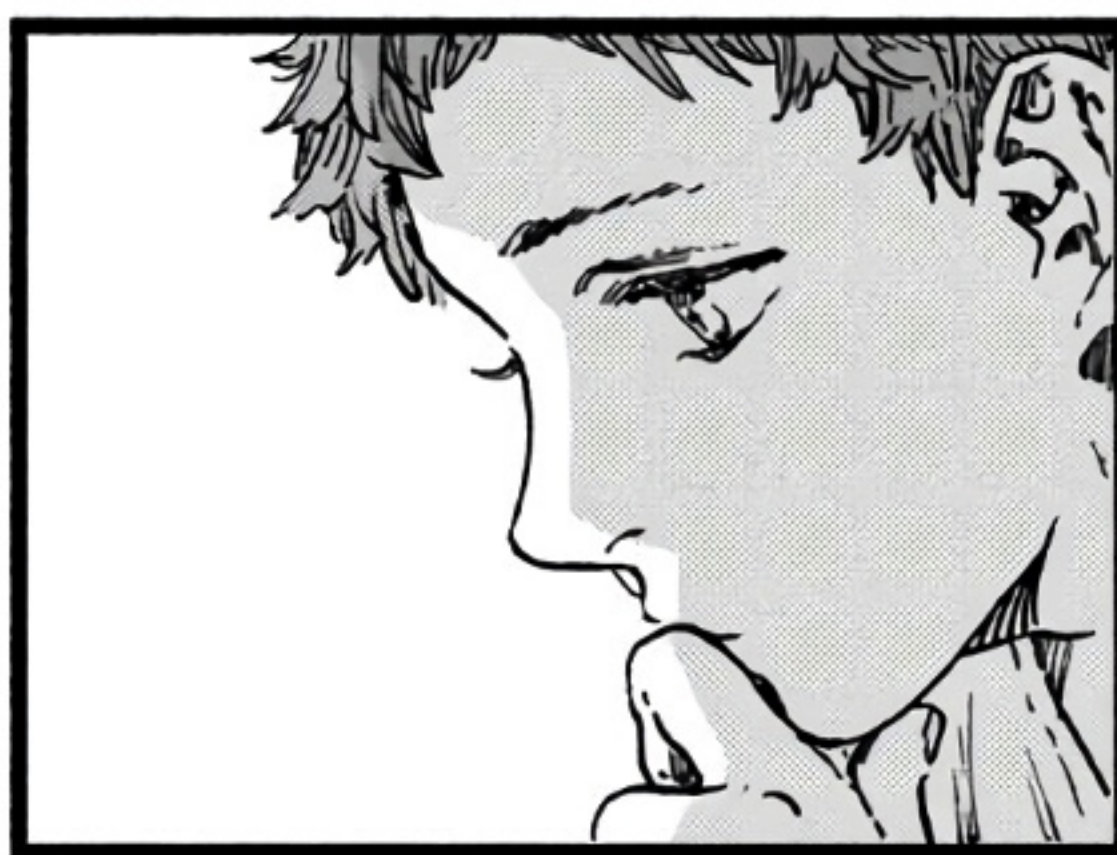
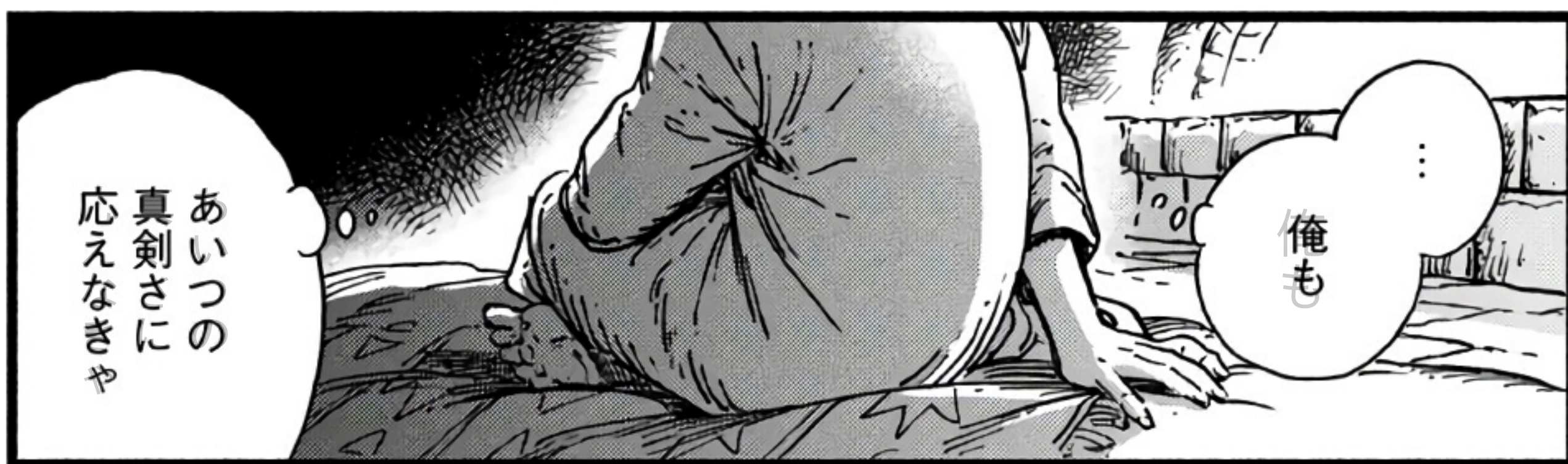
こうかな？

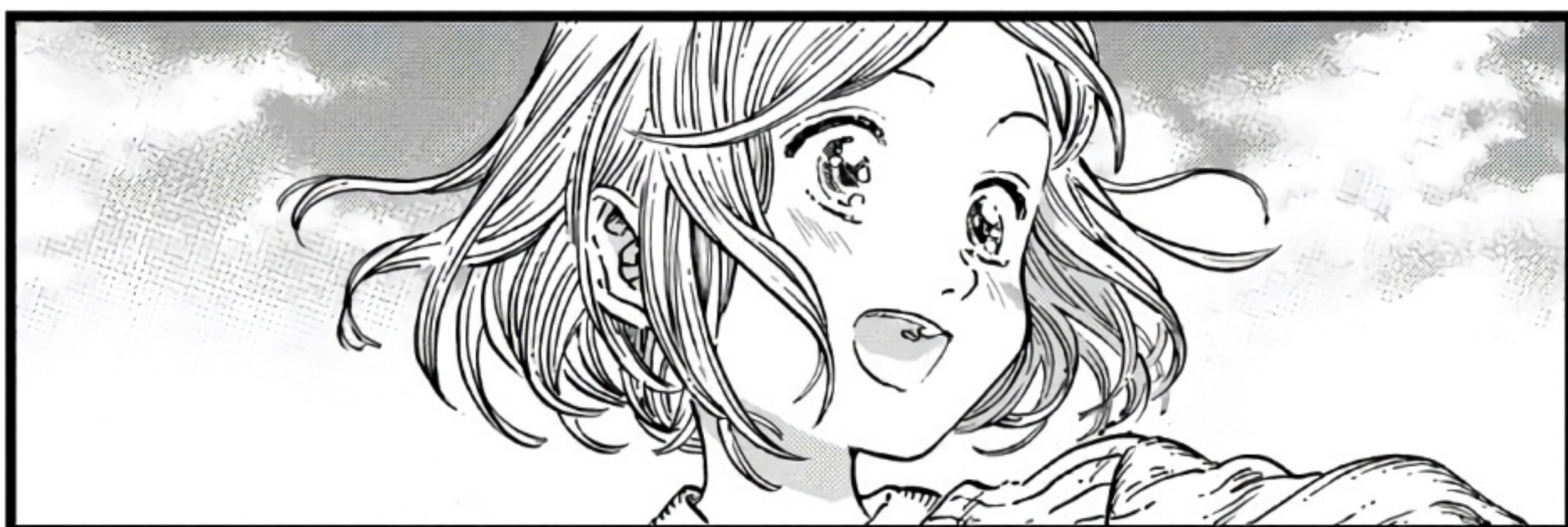












昨晚星が
渡ったからな。

きっと
大地が
喜んでるんだ。



たった
一晩で
すごい花の数！

千々...

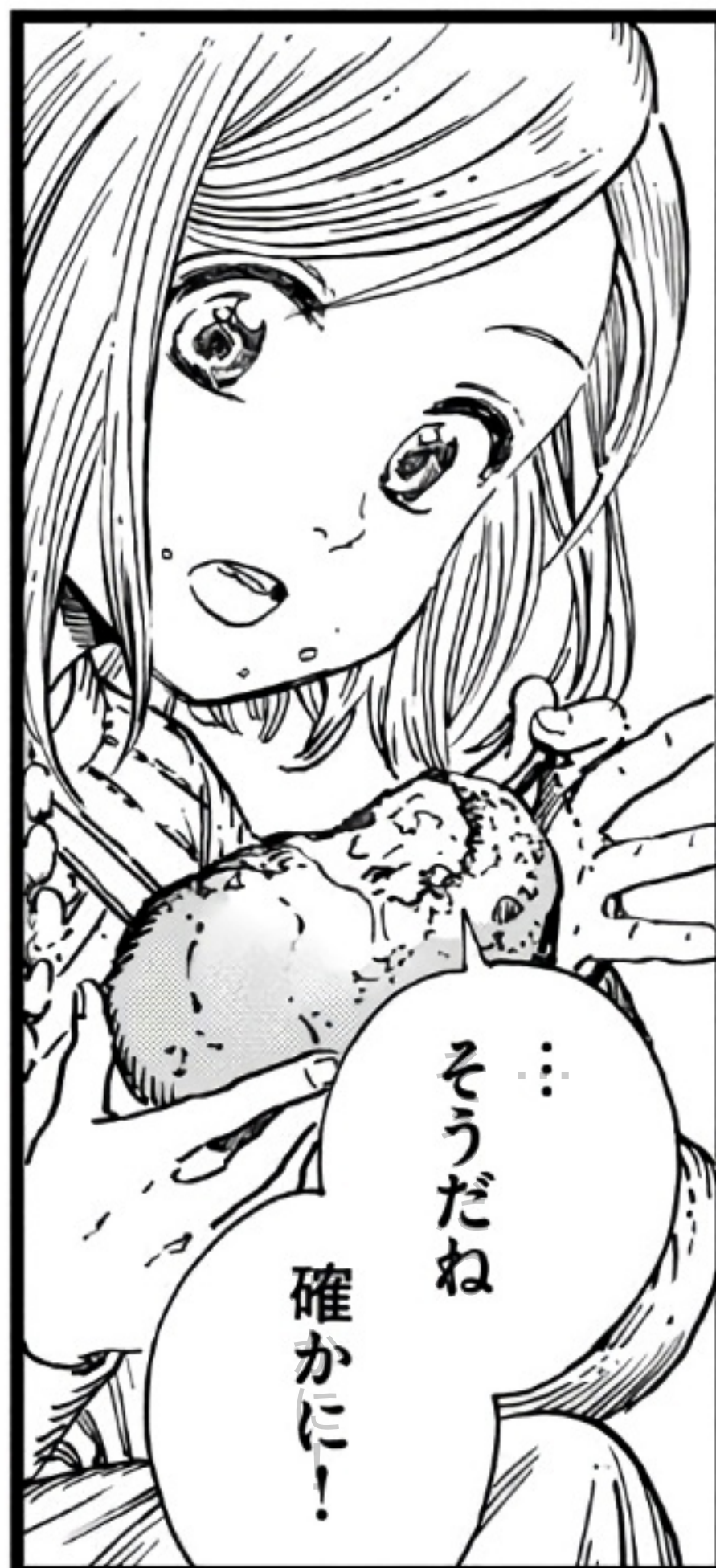
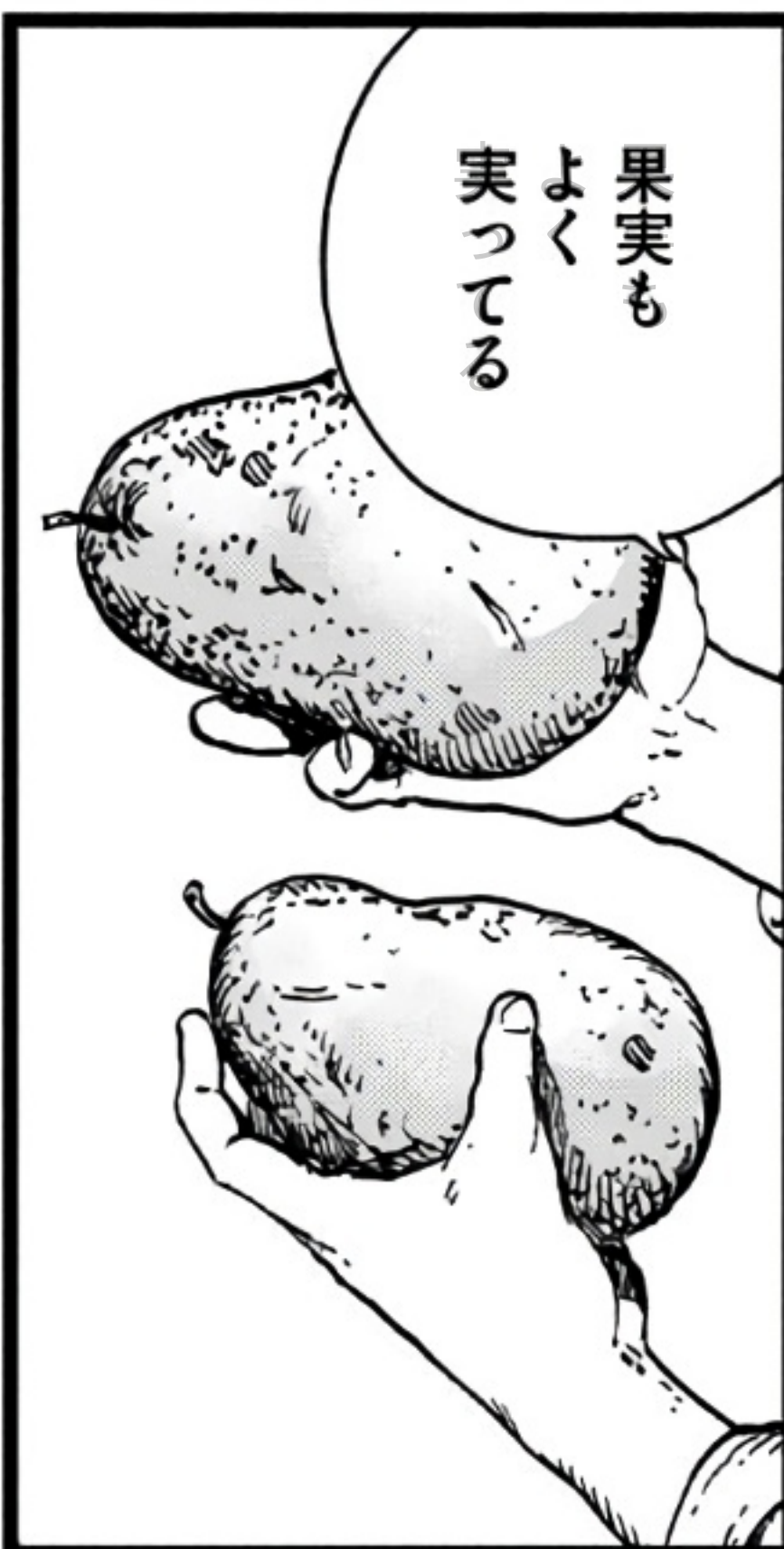
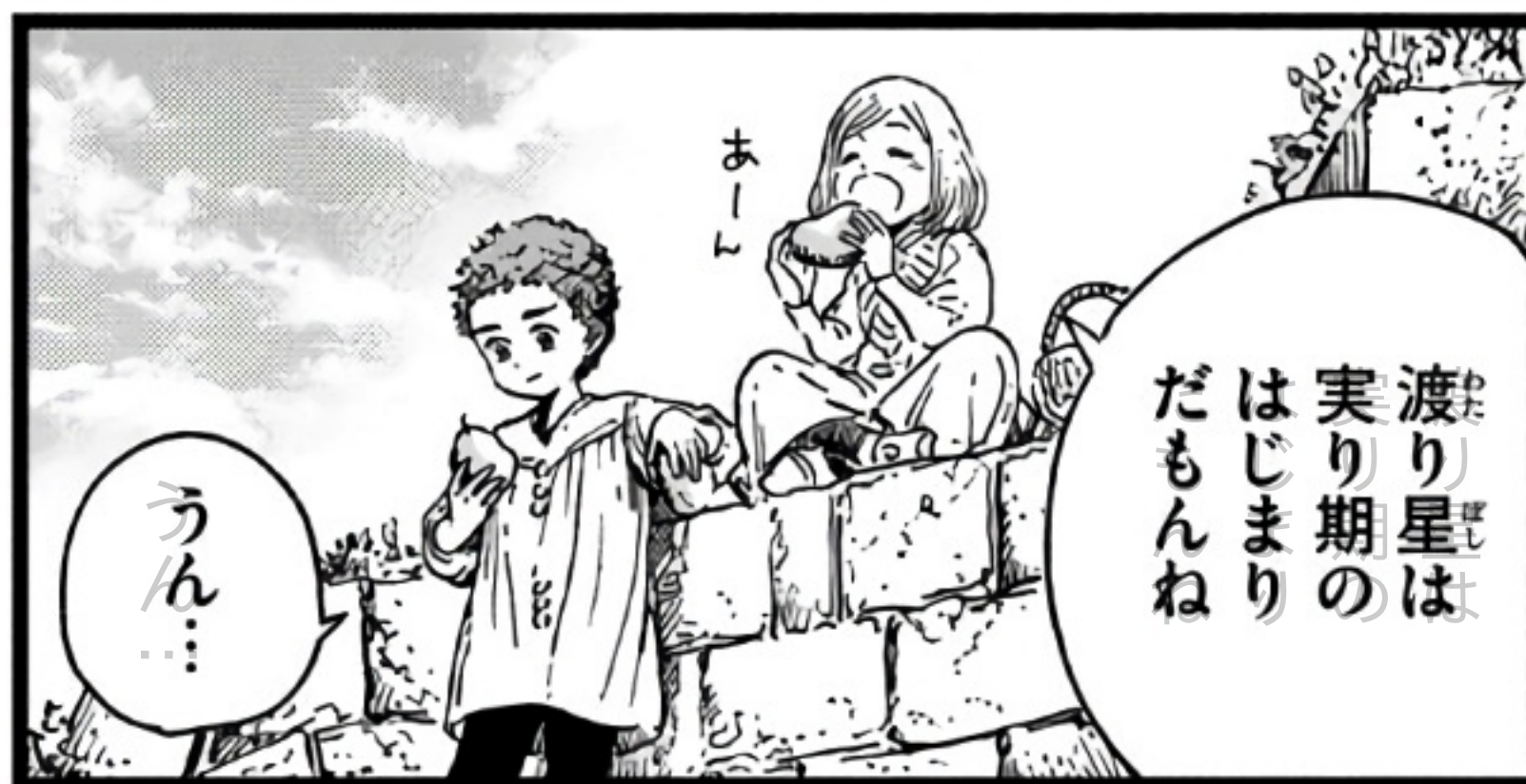
おはよう
タータくん！

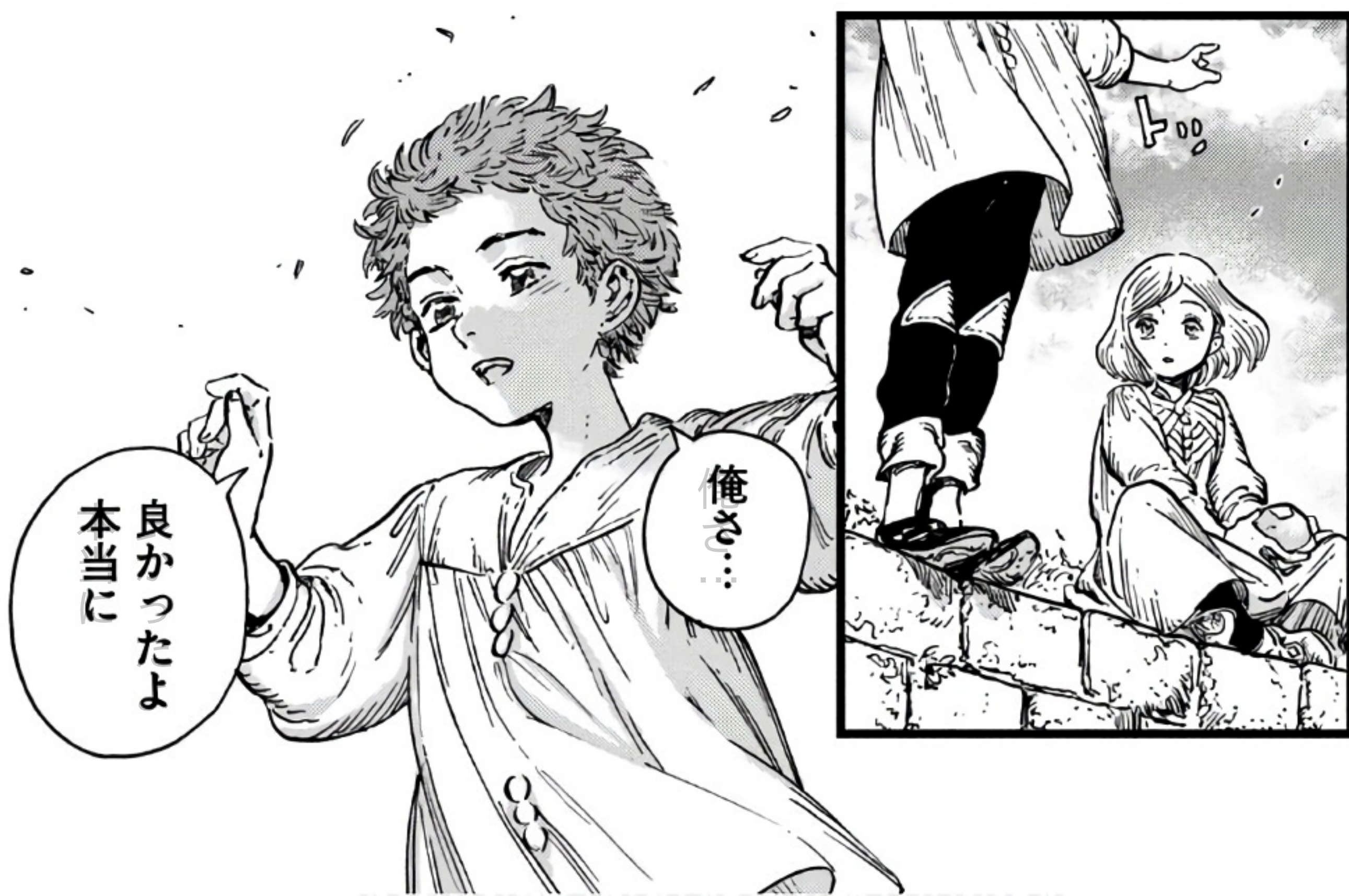
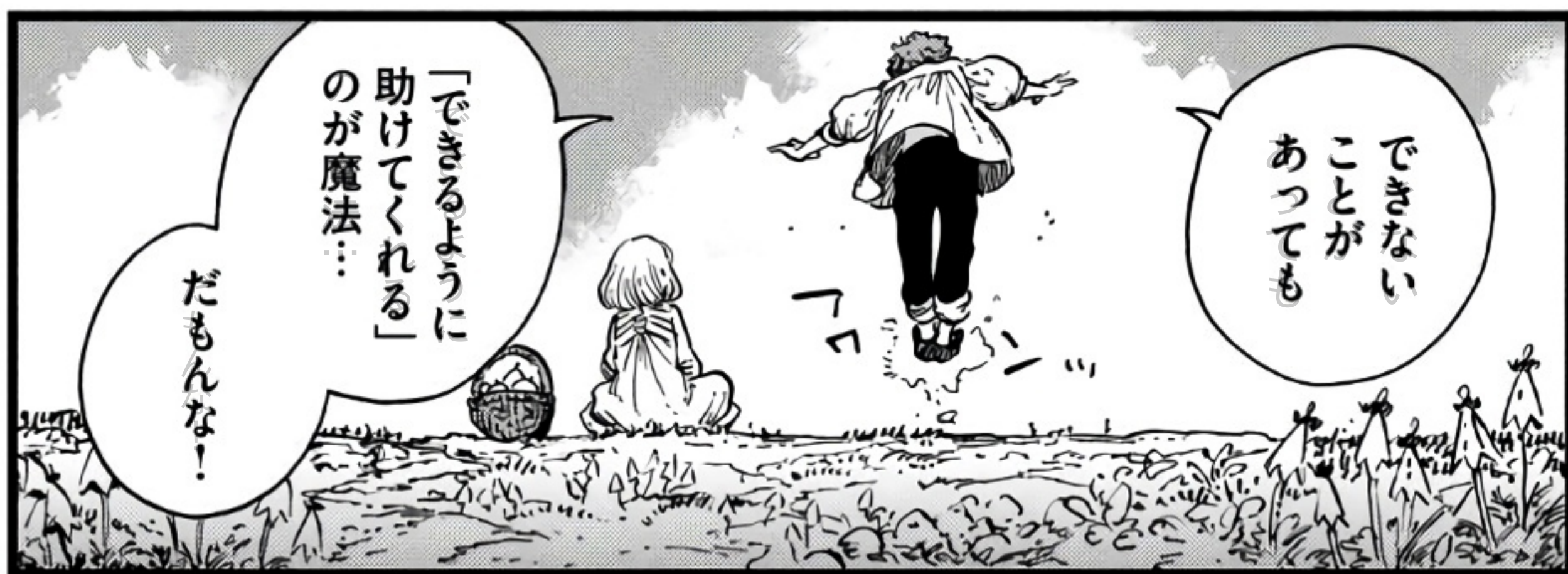
おはよう
ココ！！

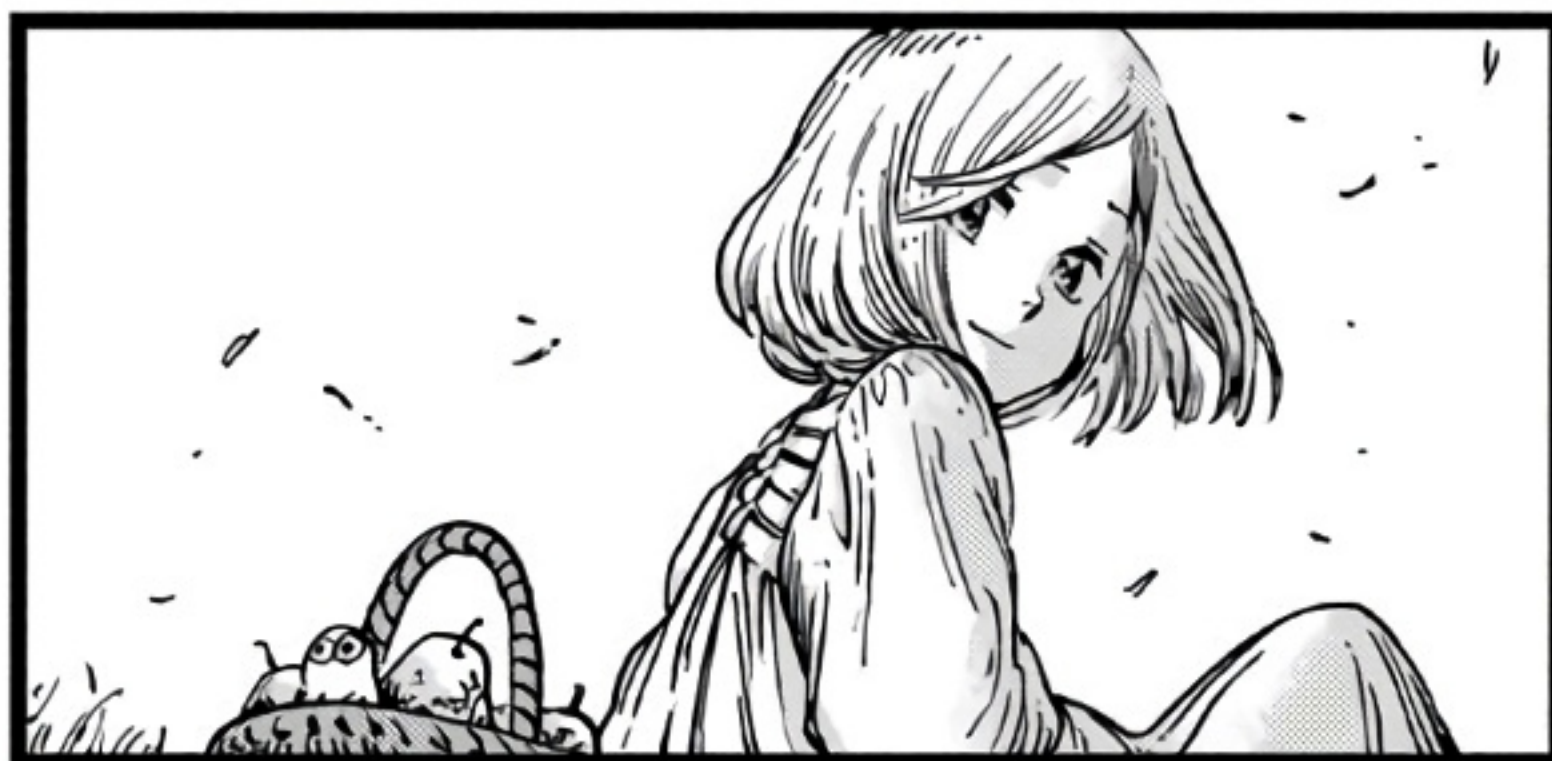
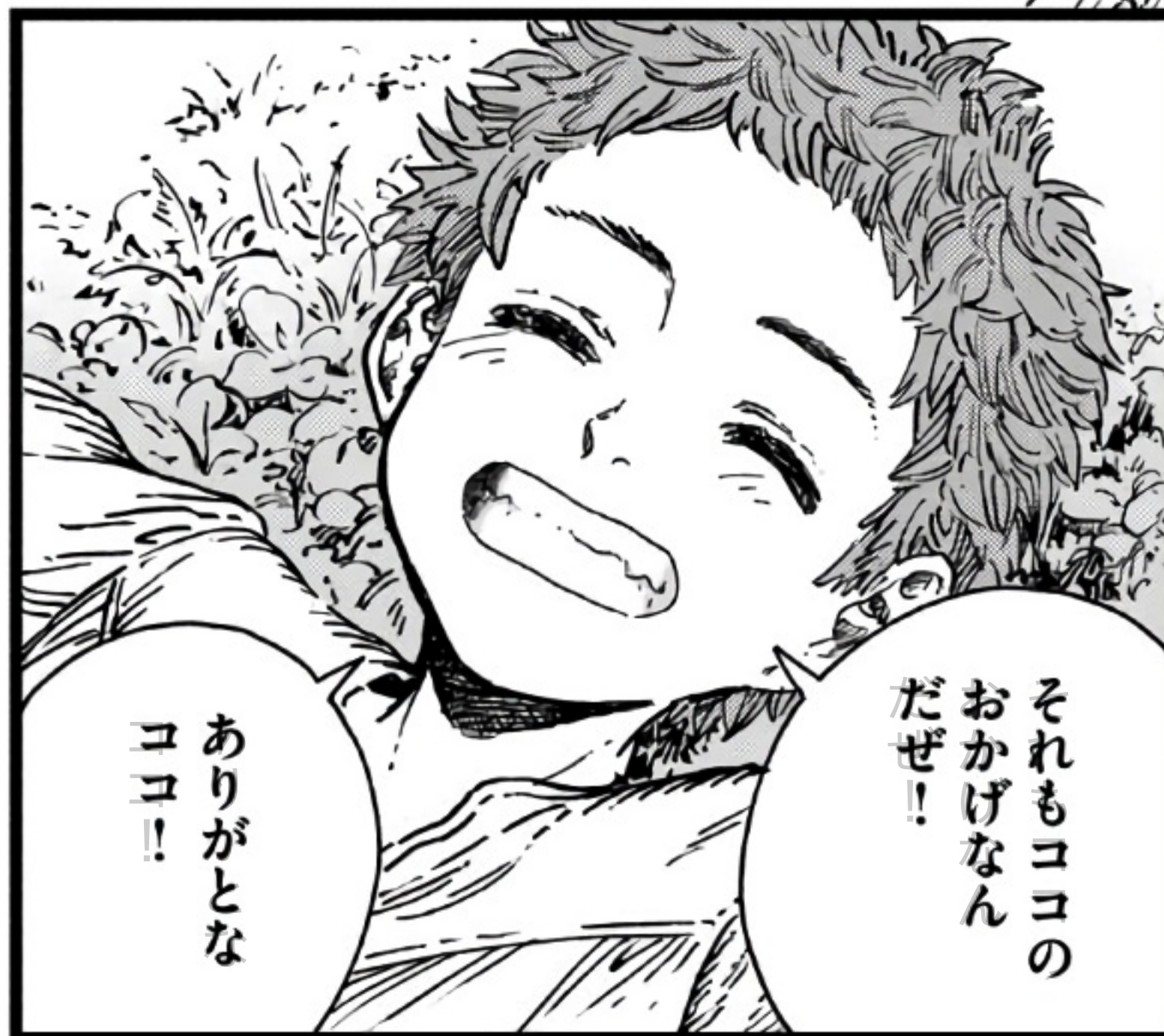


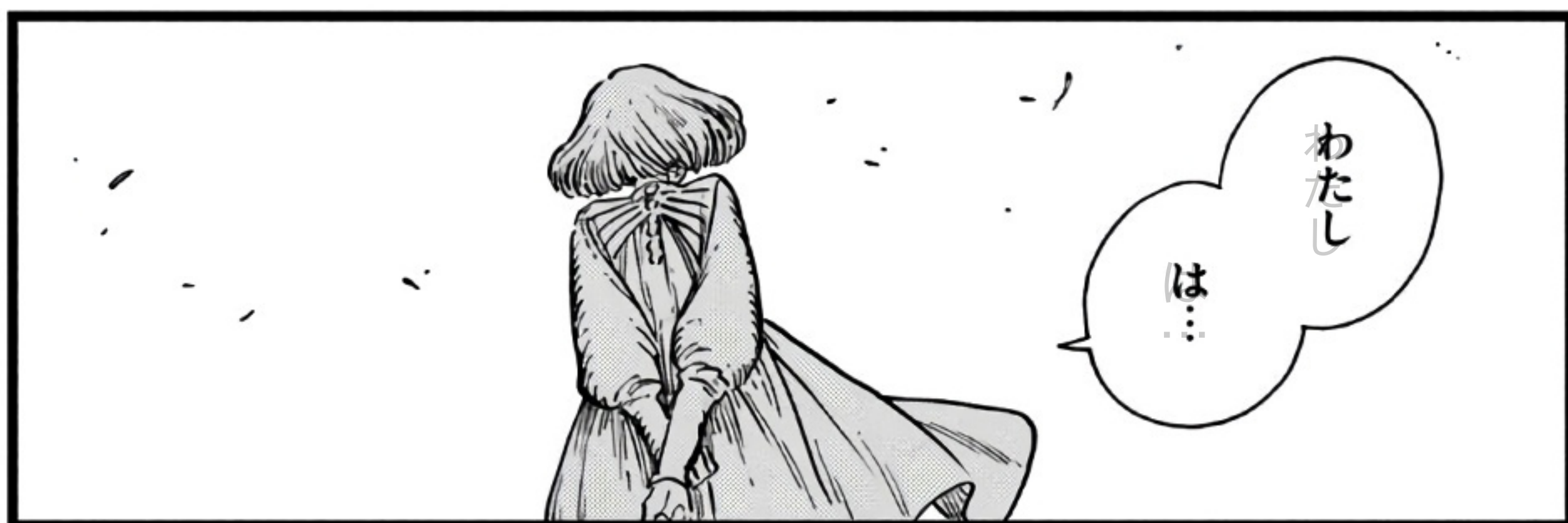
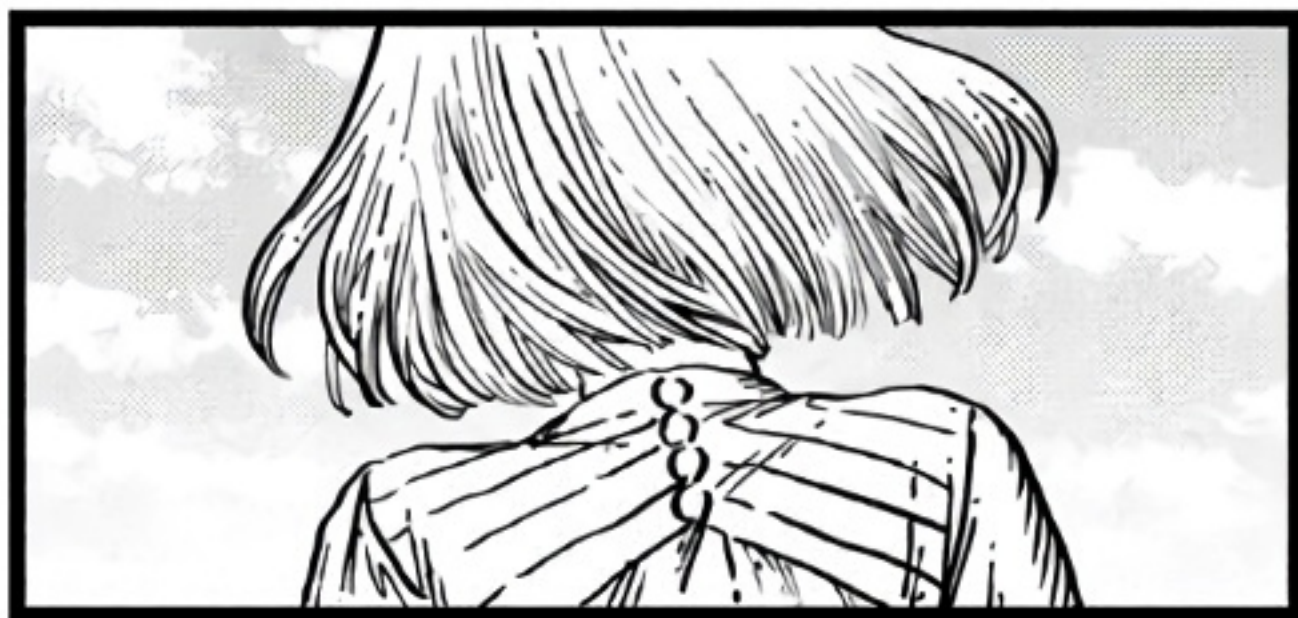
《第42話》

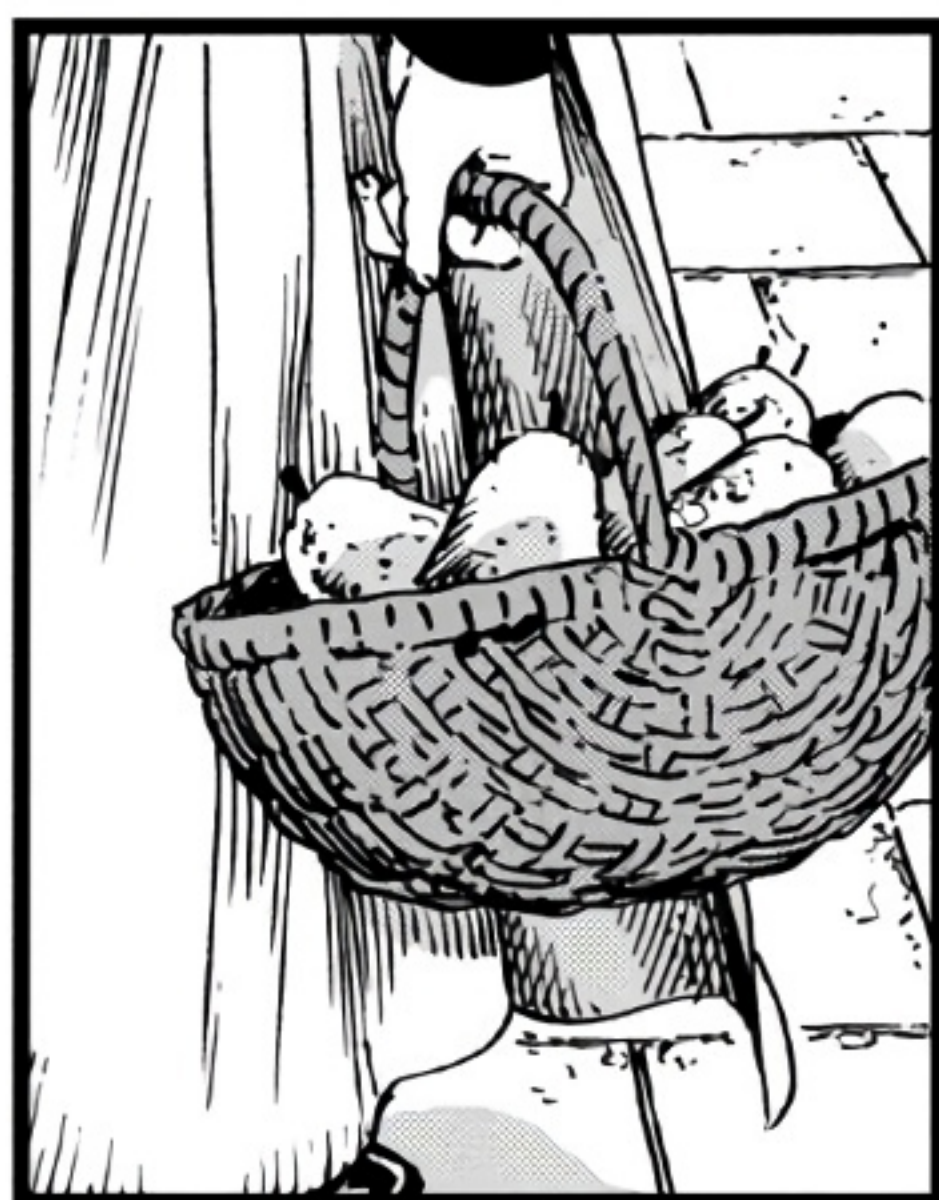
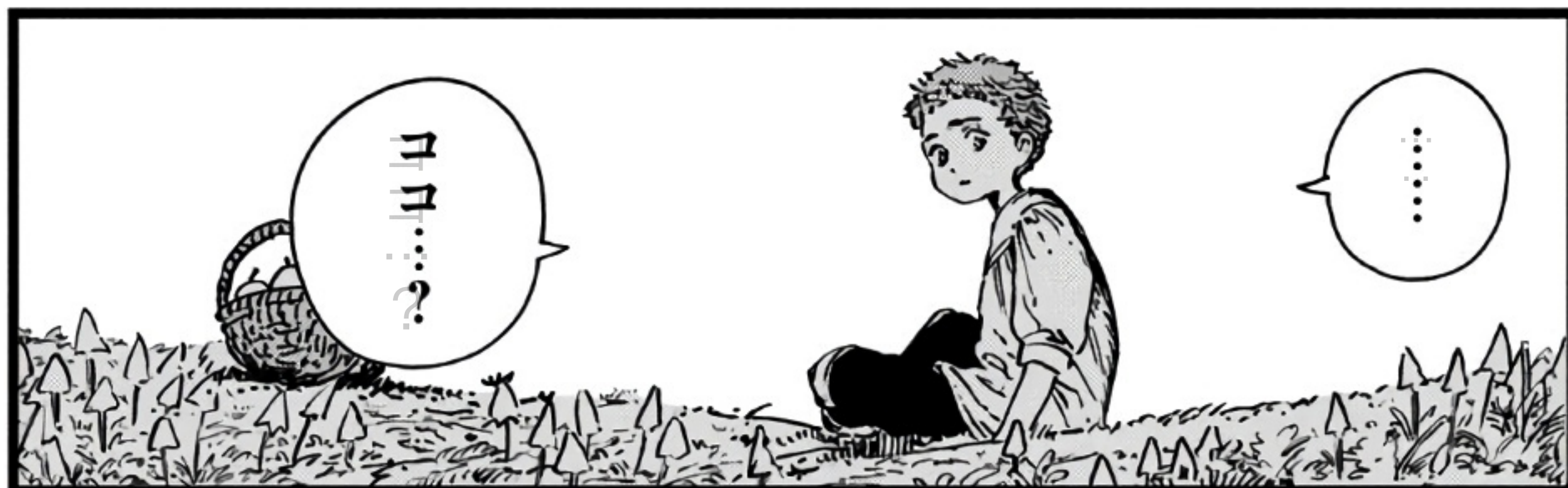




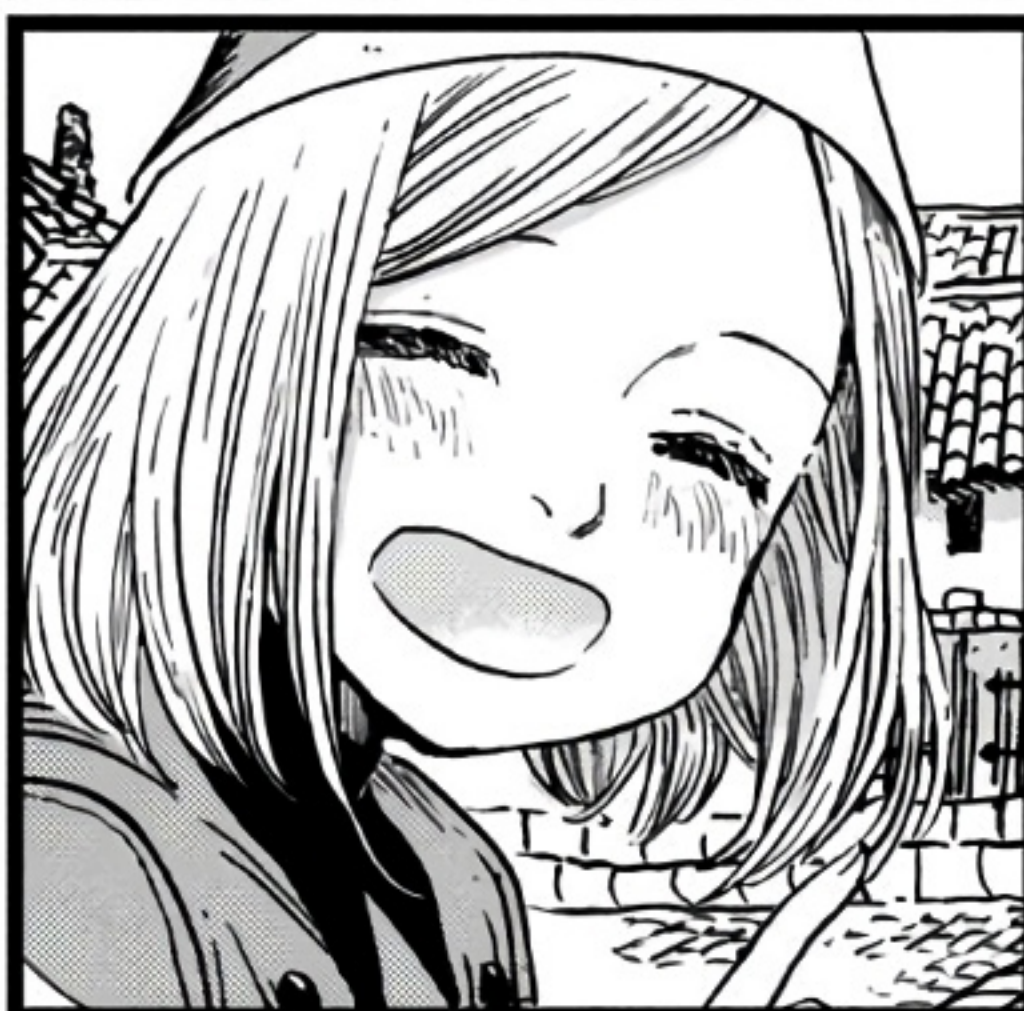
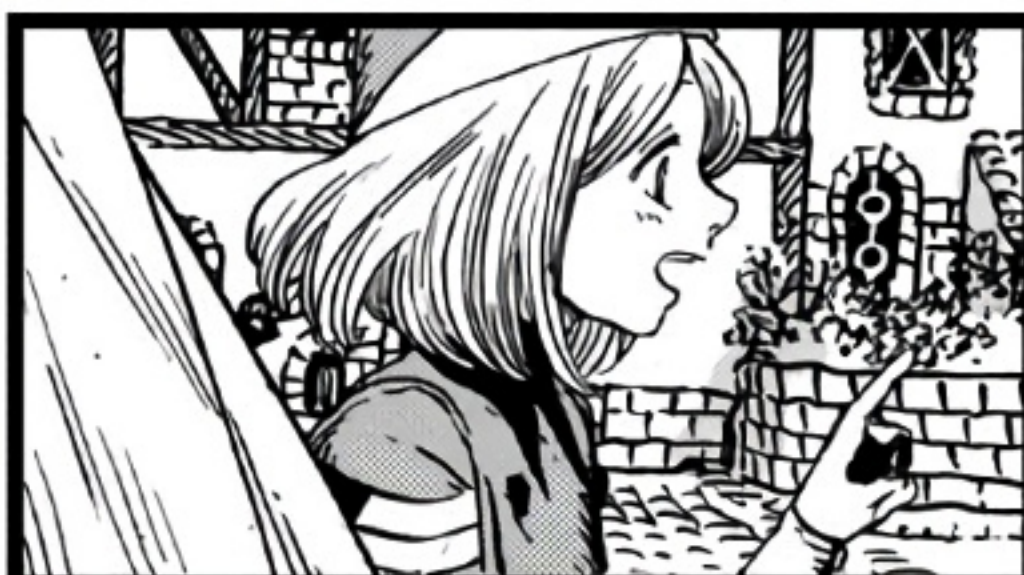
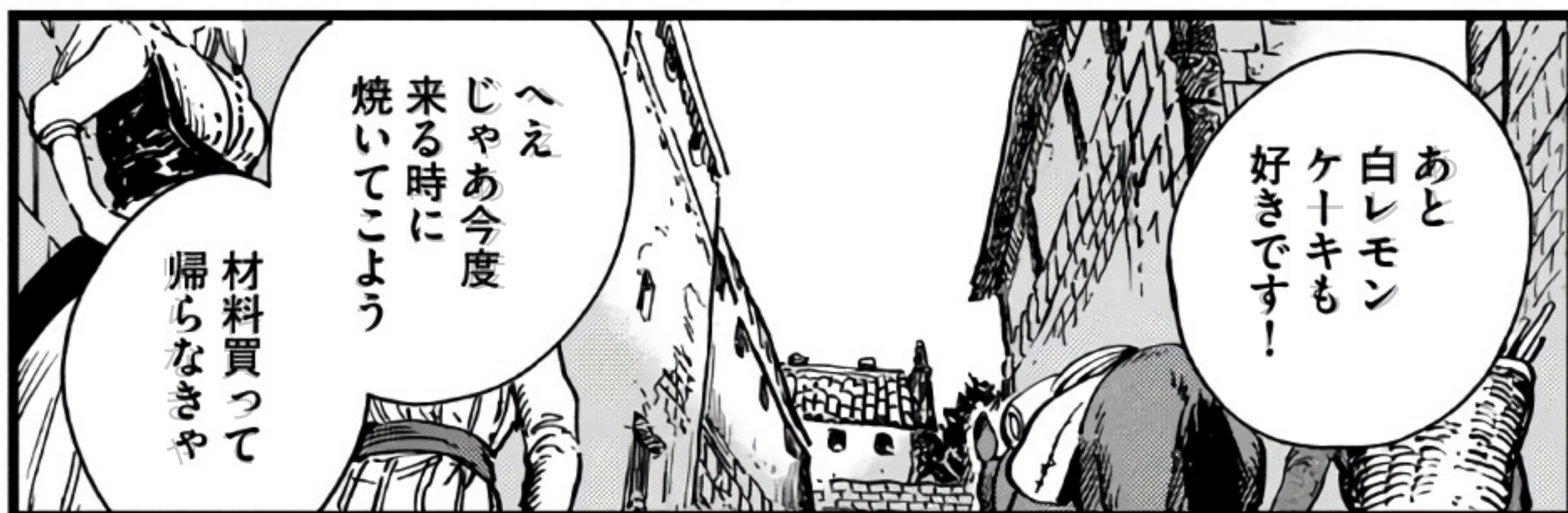


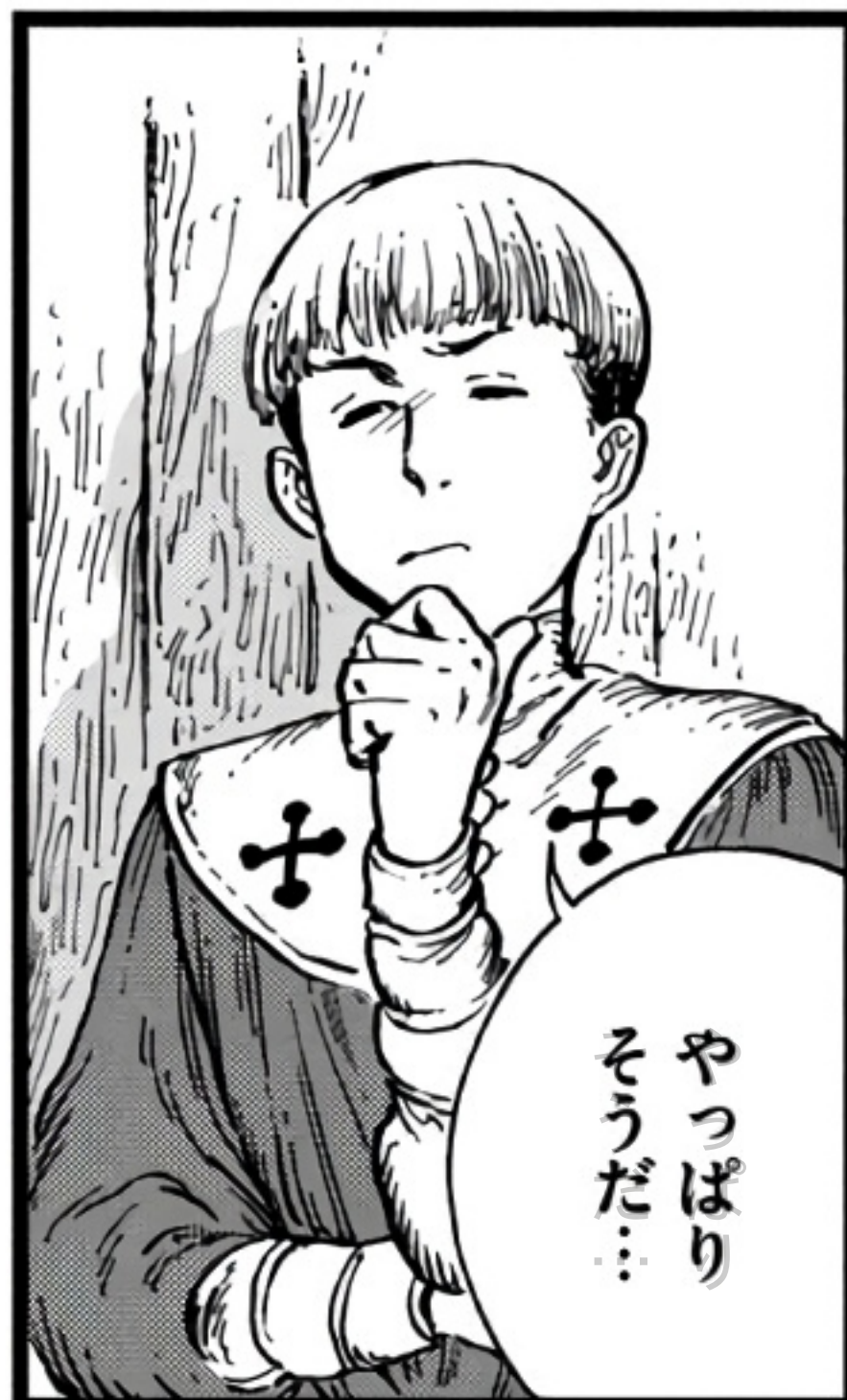
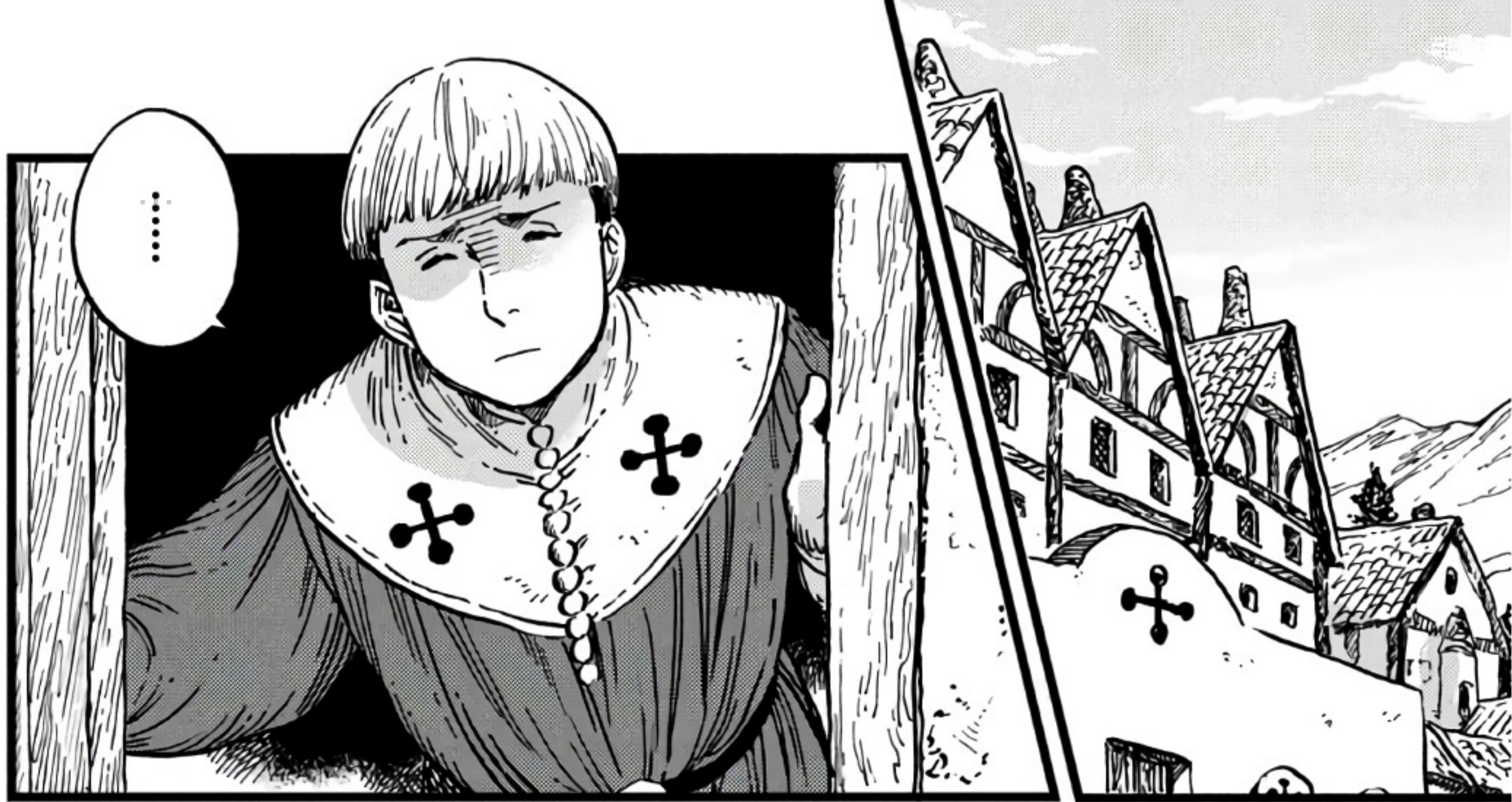


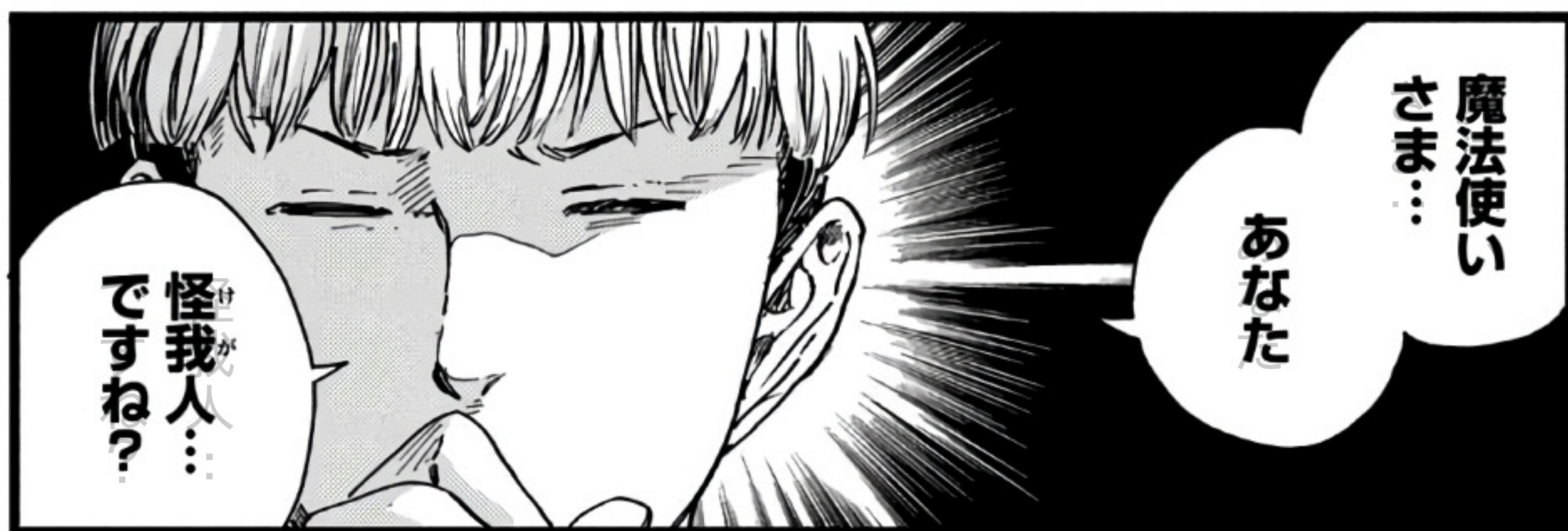


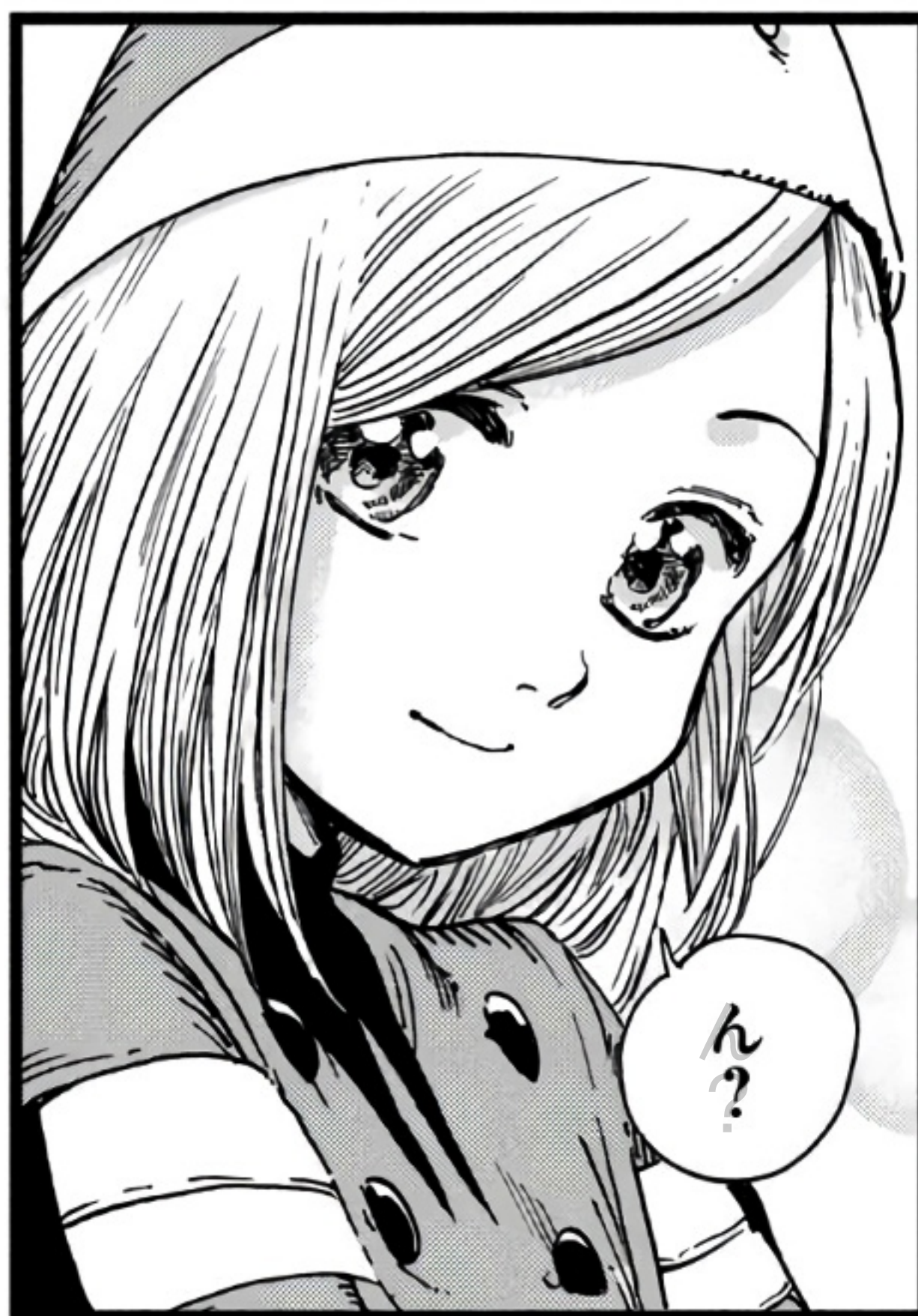
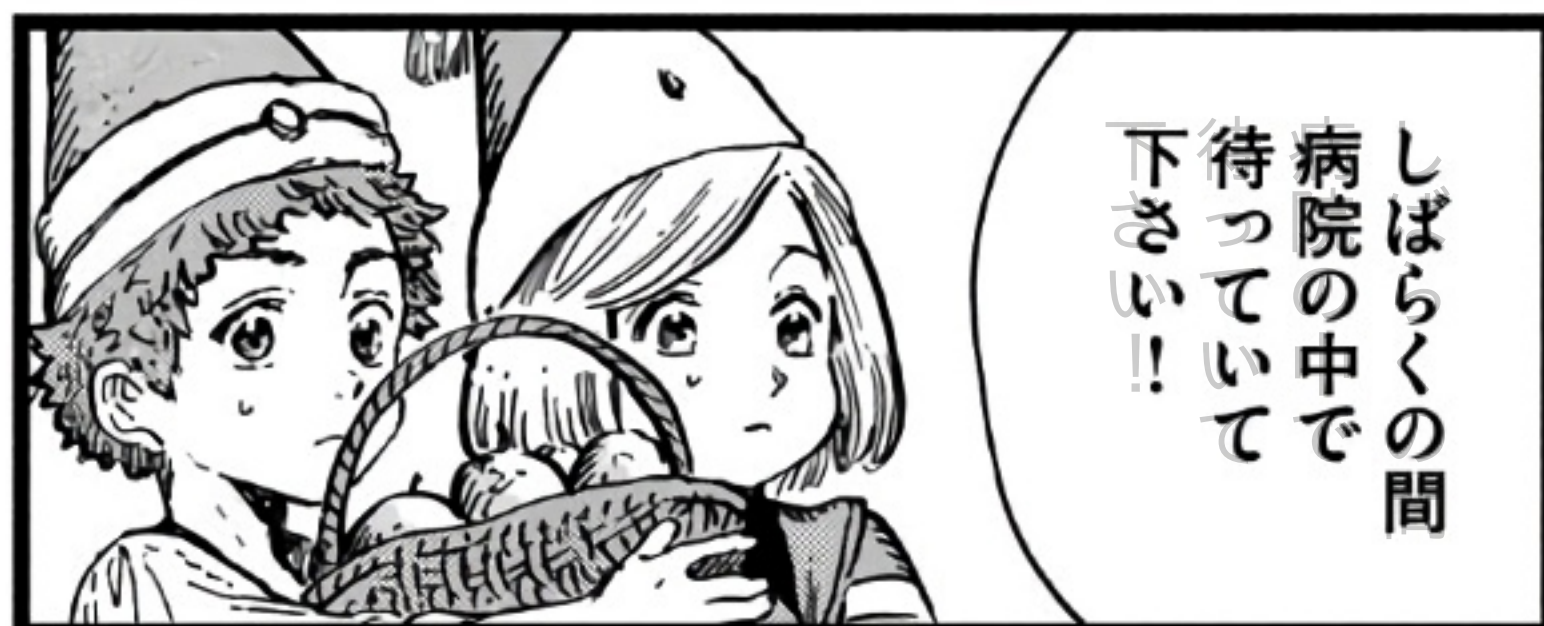


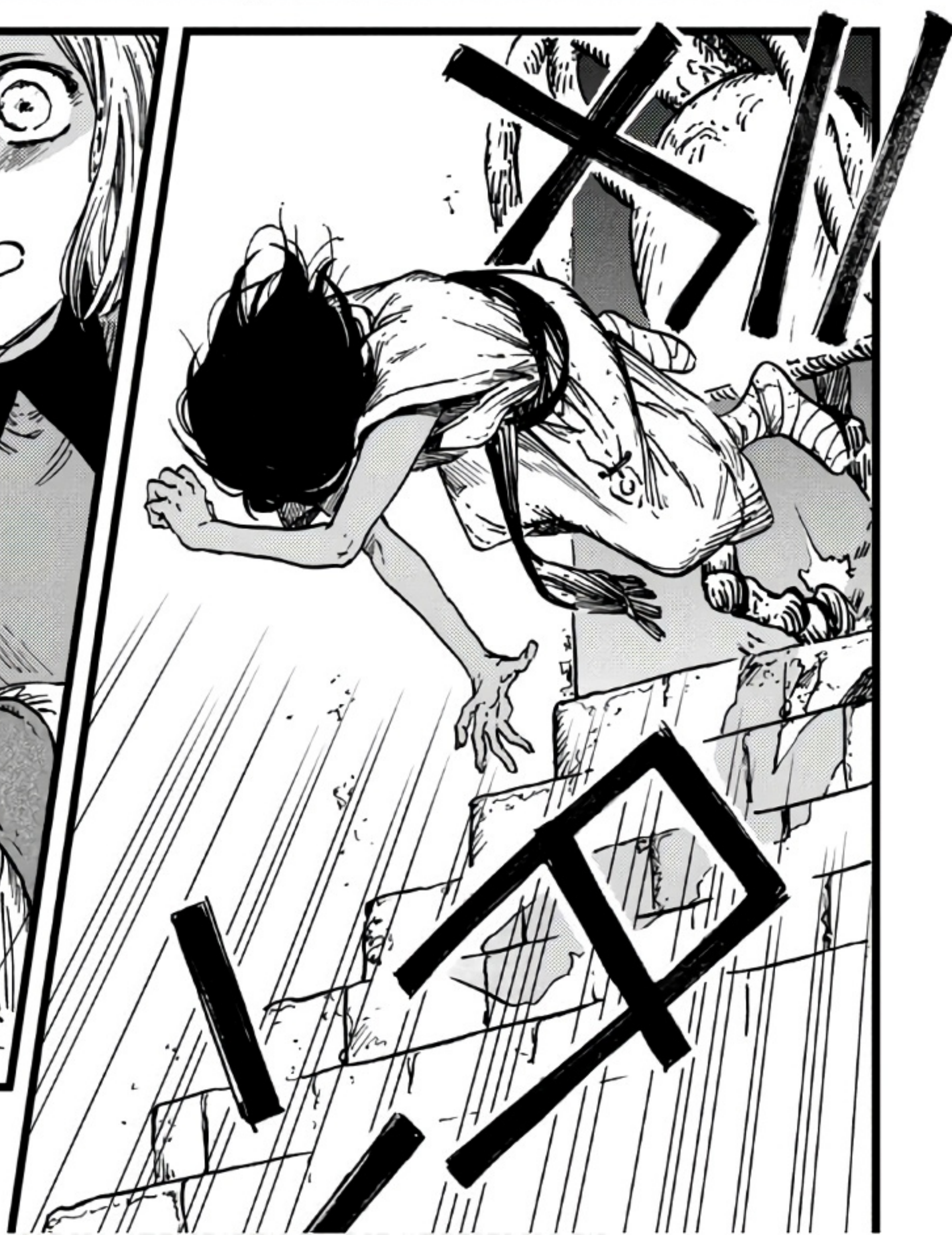






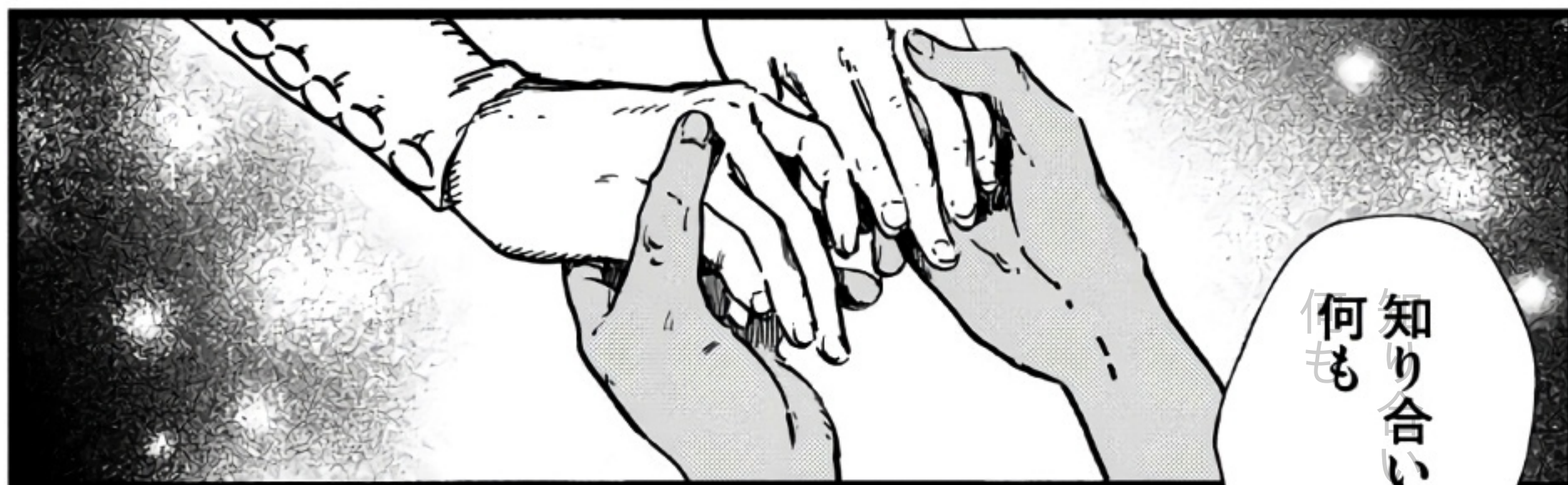












知り合いも
何も

ココは俺の
命の恩人の
魔法使いだ



そして今

また
助けられた！

あんたは

俺の
運命か？



待てよ！
何言ってるんだ
お前!!



助けたの
俺もだけ
ど!!



そーじゃなくて
人助けは
魔法使いの…

ああもう!

お前も俺の
運命その2だよ
妬くな
よな

嫉妬
すんなって
タタ!



ちよつ…
クスタス!

何事です!?

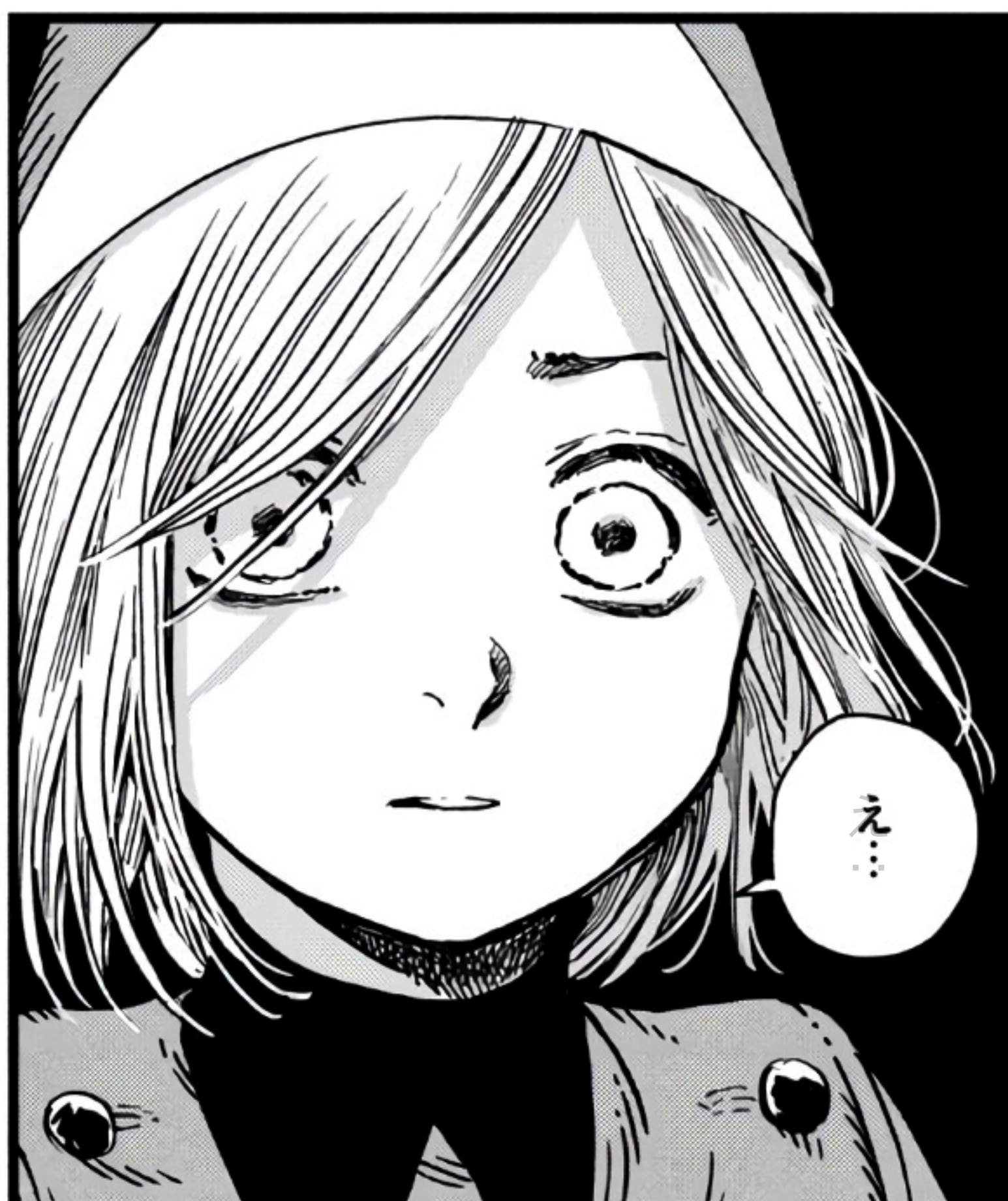
あそう
こいつが…



二人とも
仲良いんだね
知らなかった!

ここで
知り合った
の?





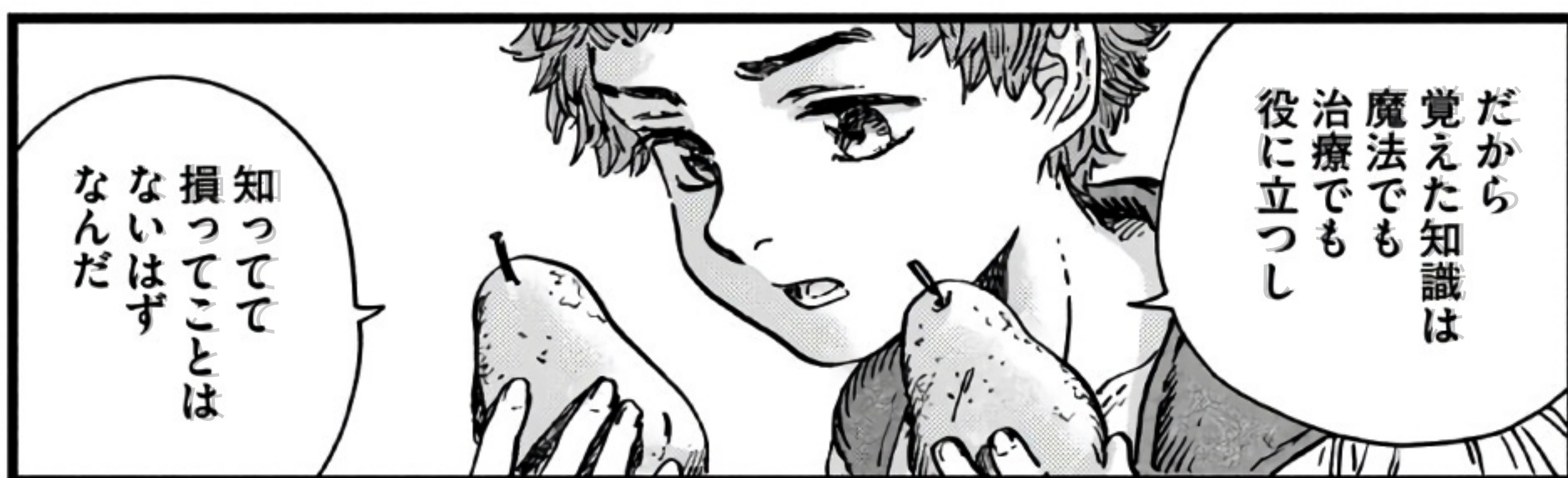




魔材と同じ
種類の材料を
使うことが
多いんだ
組み合わせ
方とか…
加工の仕方が
違うだけ



…薬って
面白くてさ



だから
覚えた知識は
魔法でも
治療でも
役に立つし

知ってて
損ってことは
ないはず
なんだ



俺がここで
学んでること

知ってる
魔法使いは
ココが初めてだ



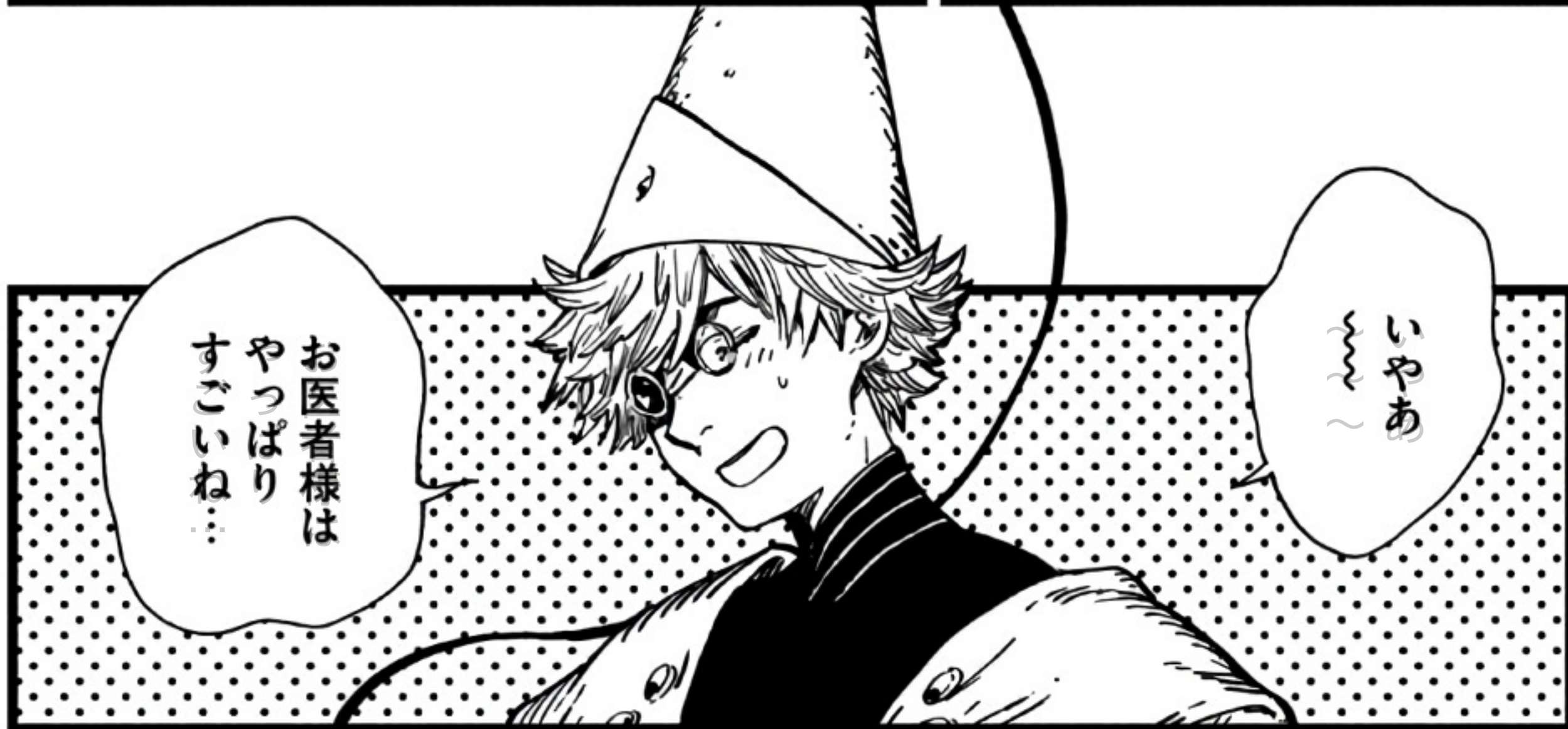
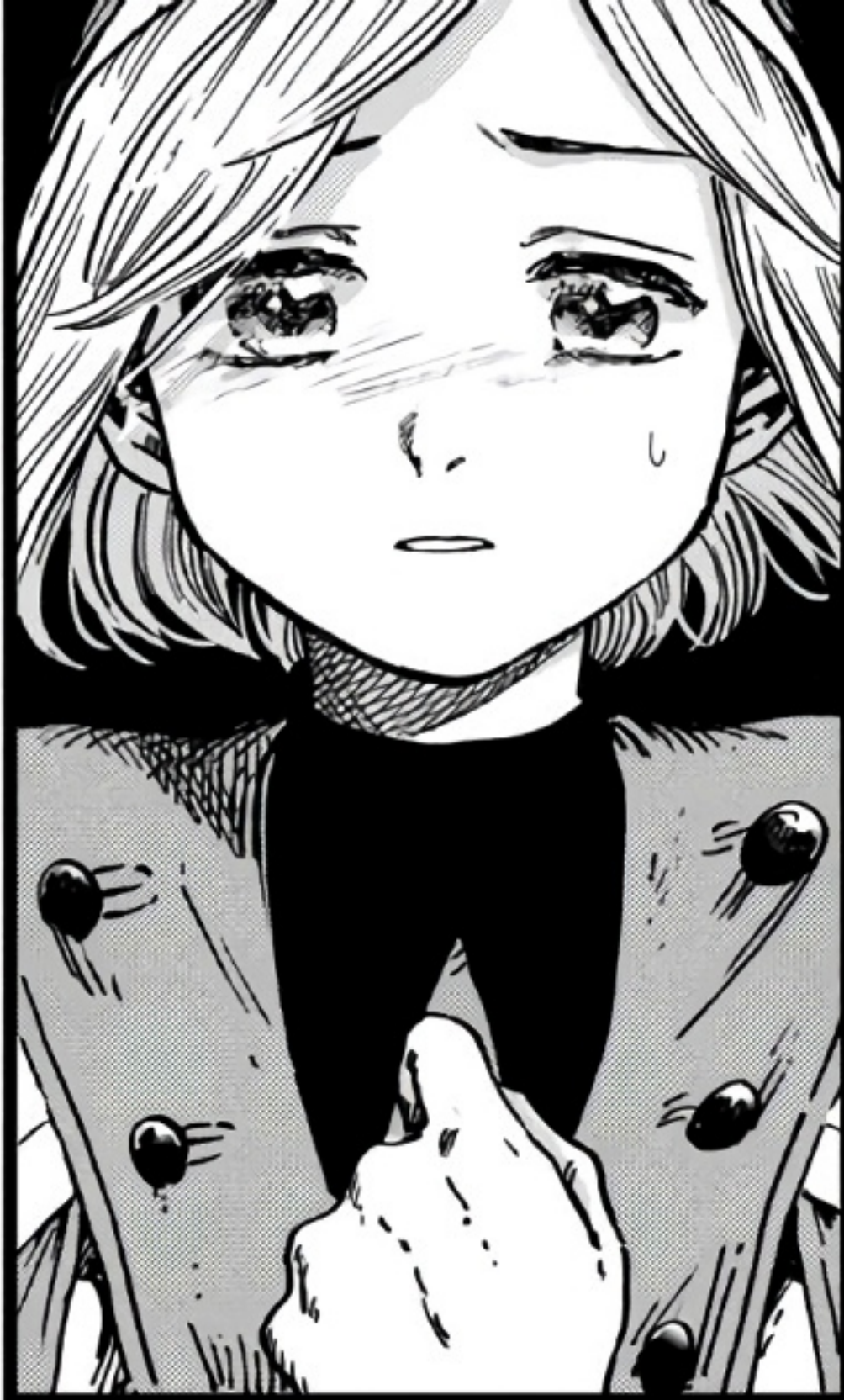
ノルノア
さんは…

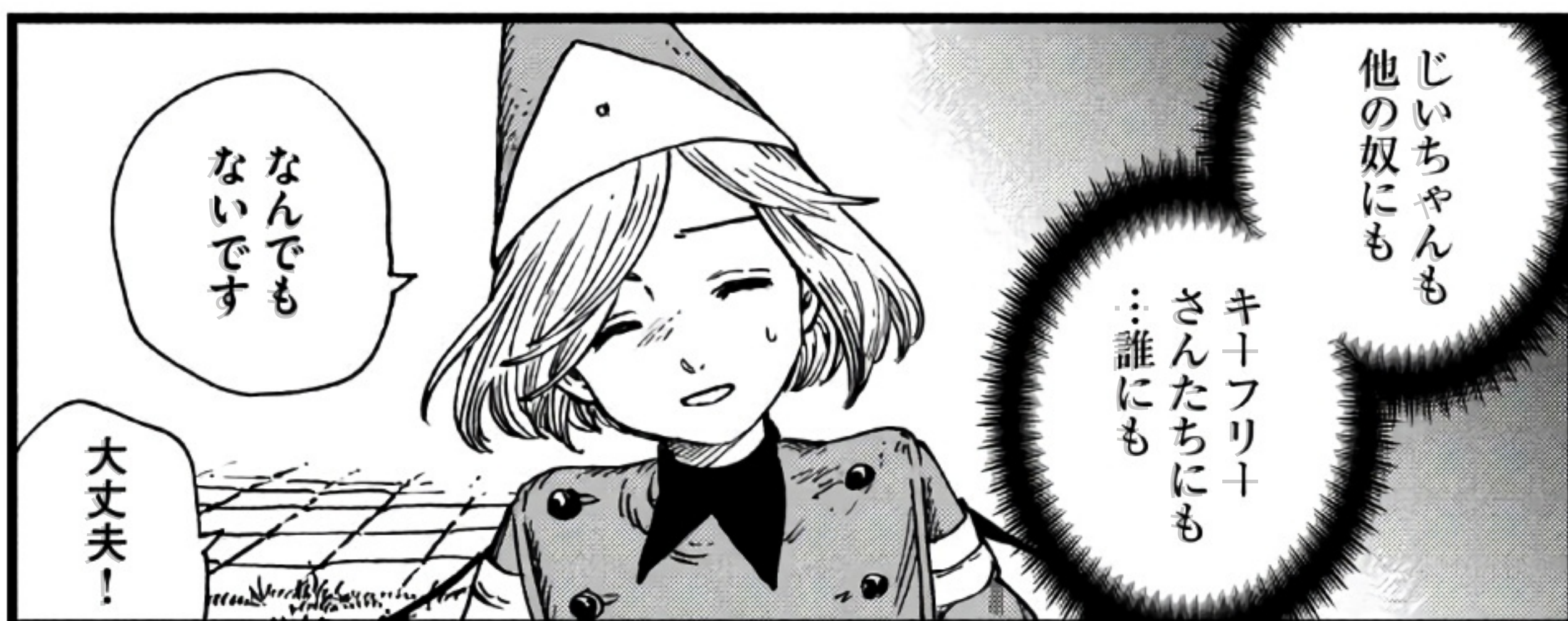
このこと…

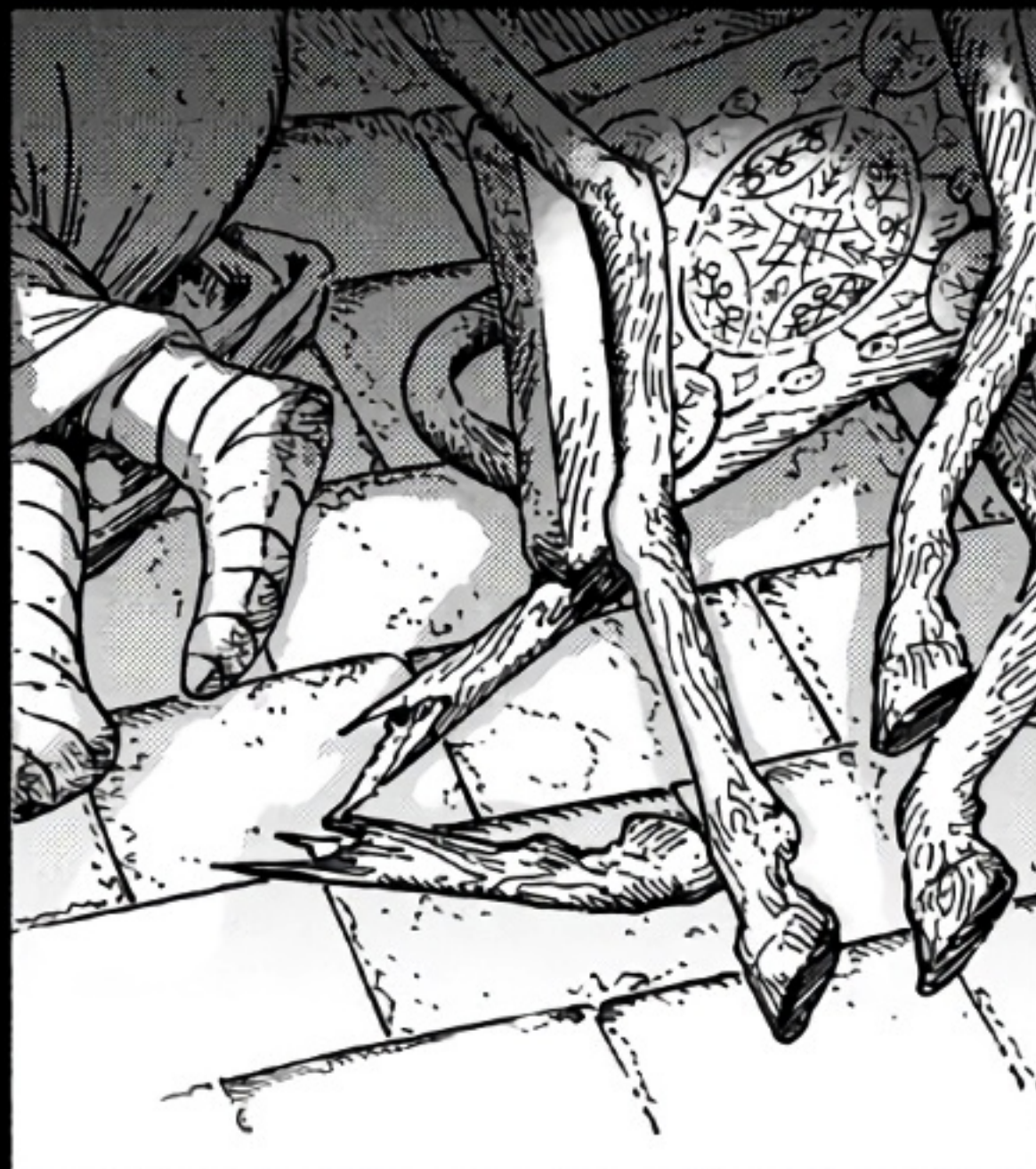


…じいちゃんは
何も知らない







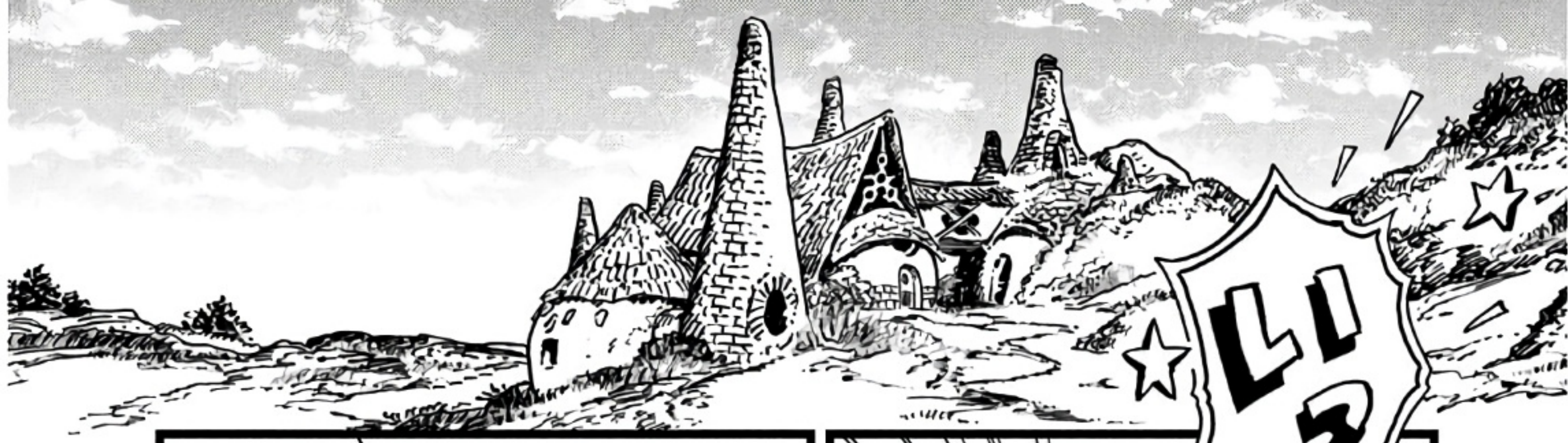












★
レ
タ
★



あーっ
もう
先生つてば！

たあ
おあ



いやあ
でも…

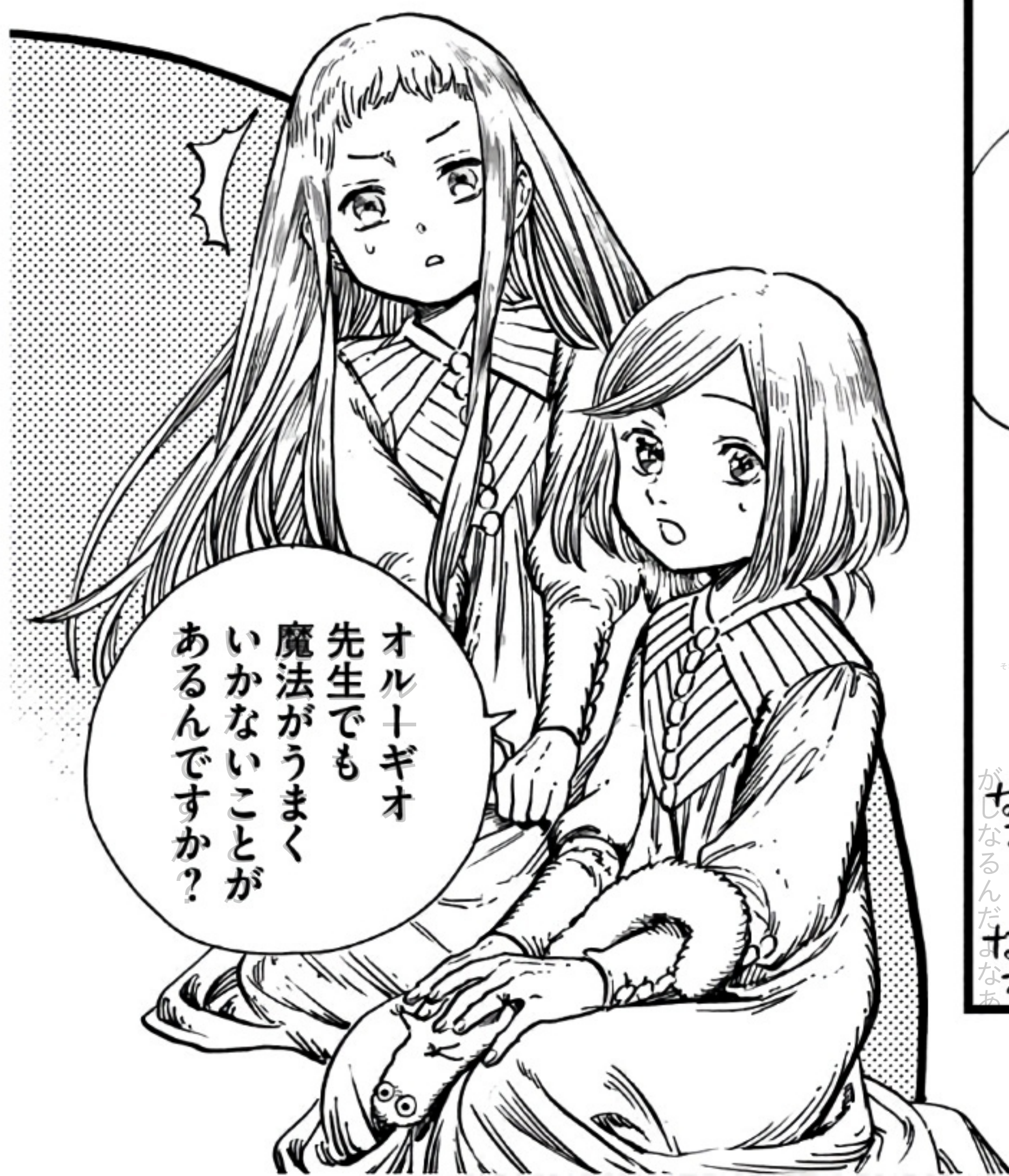
そうだぞ
キーフリー

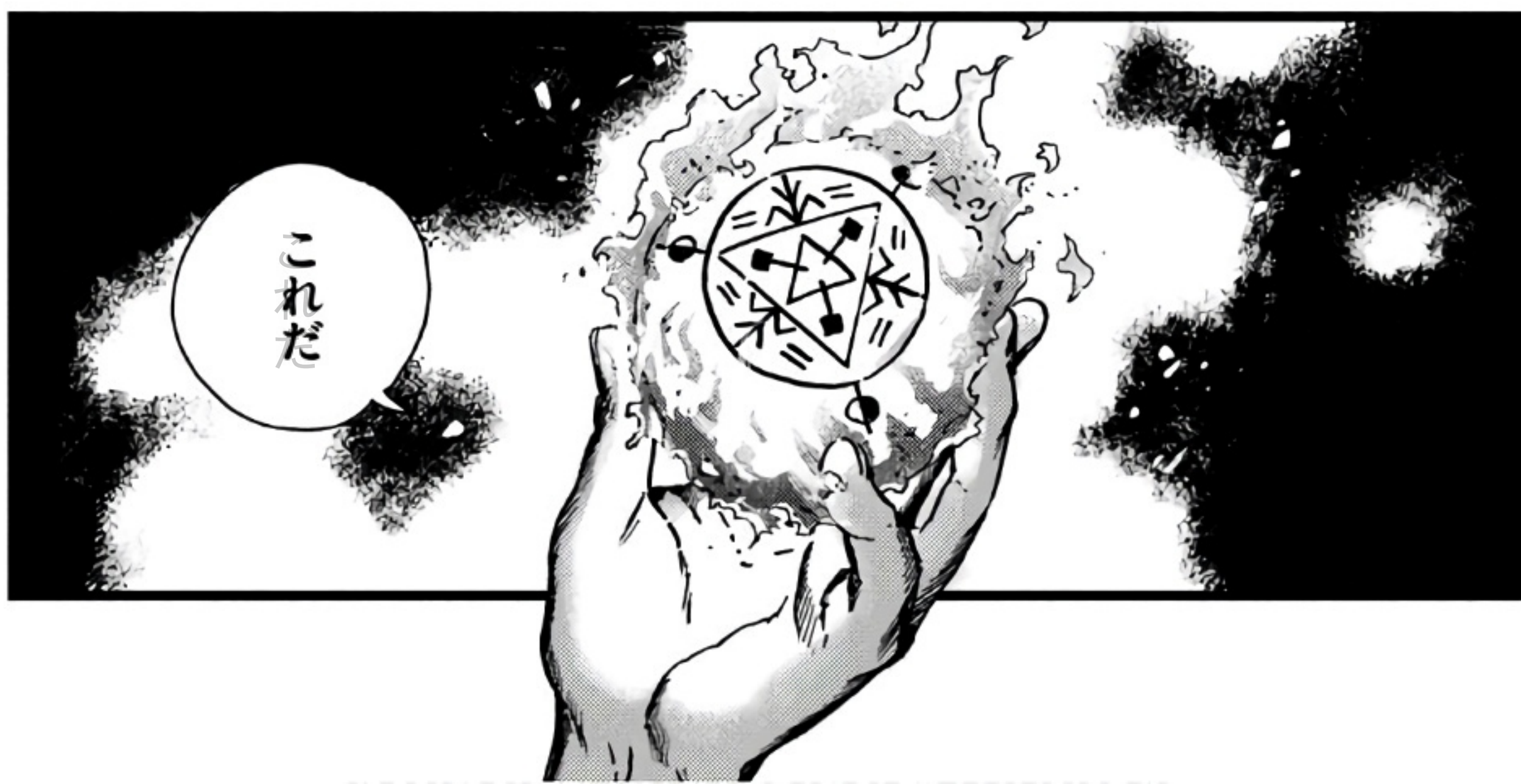
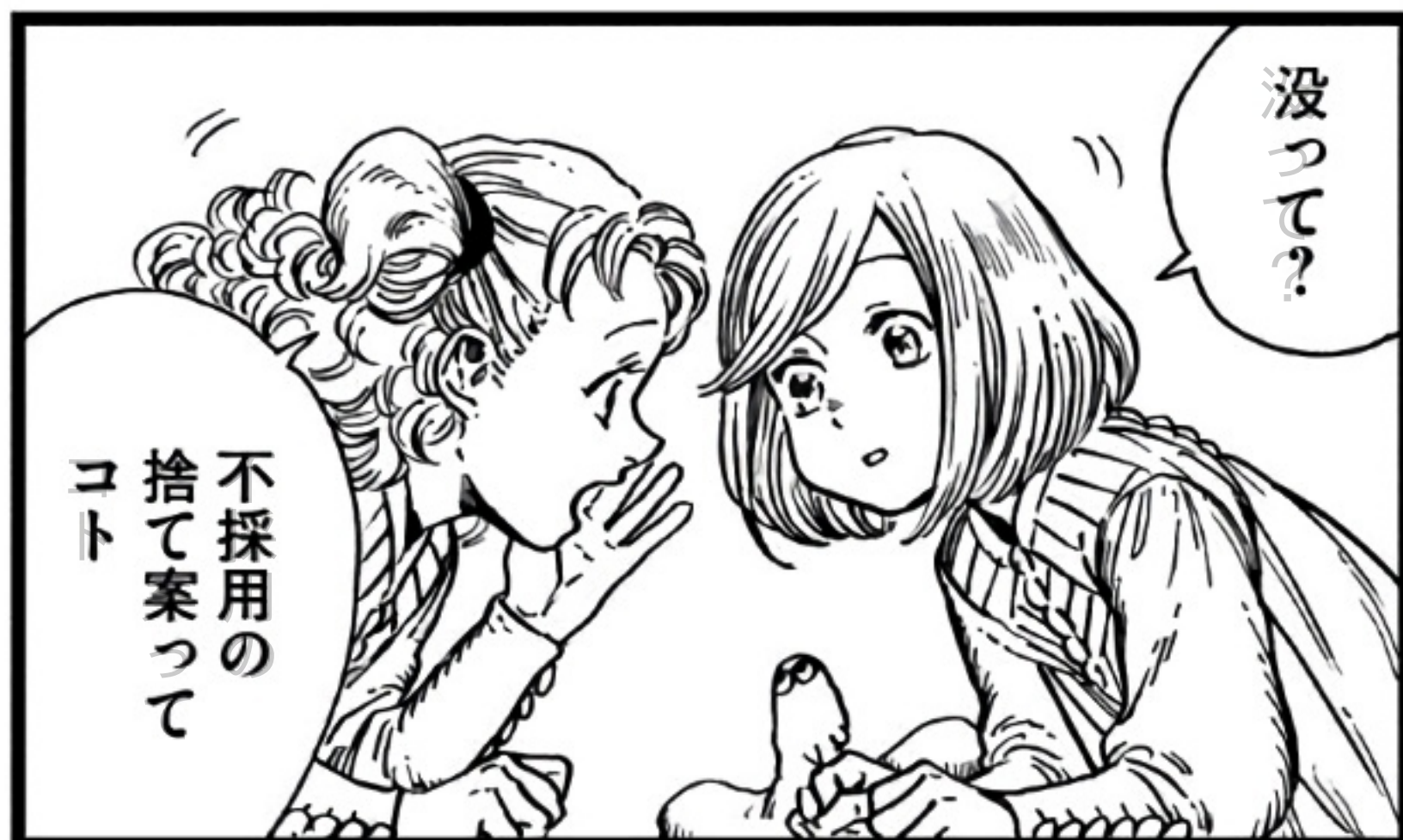
貸せ
俺がやる

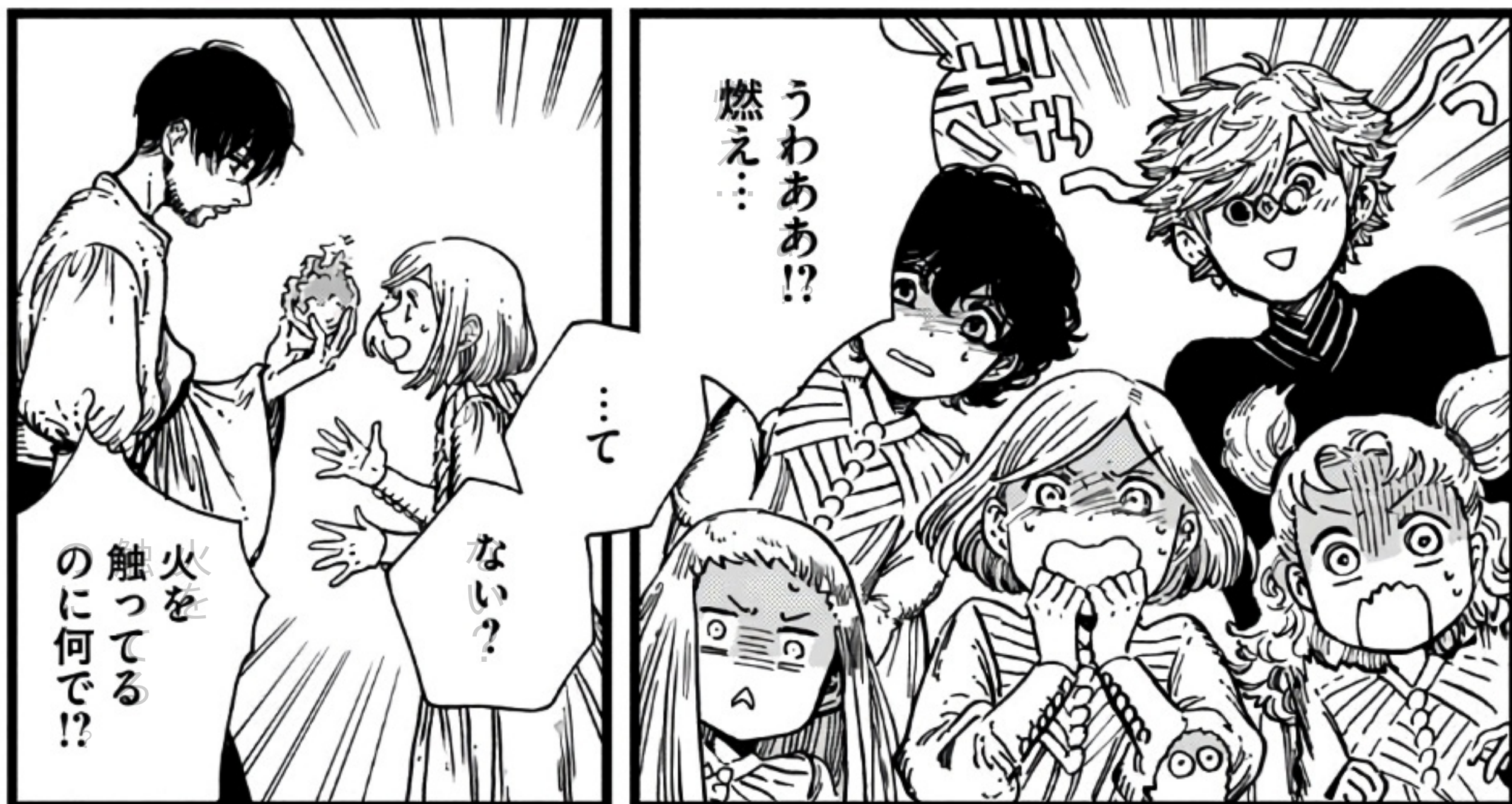
右腕はあまり
使われないでって
言われてた
のに

ダメじゃ
ないですか
キーフリー
先生













本物の火を
これと同じように
扱おうとしたら？

炎はこういう
ものなんだと
思い込んで

暖炉^{だんろ}にいきなり
手を突っ込ん
だら？



作り物と現実の
炎は違うって
大人がちゃんと
教えればいいん
です



でも…
それって

先生の
魔法のせいじゃ
ないのでは？



当然のように
危なくないものと
して扱う大人が

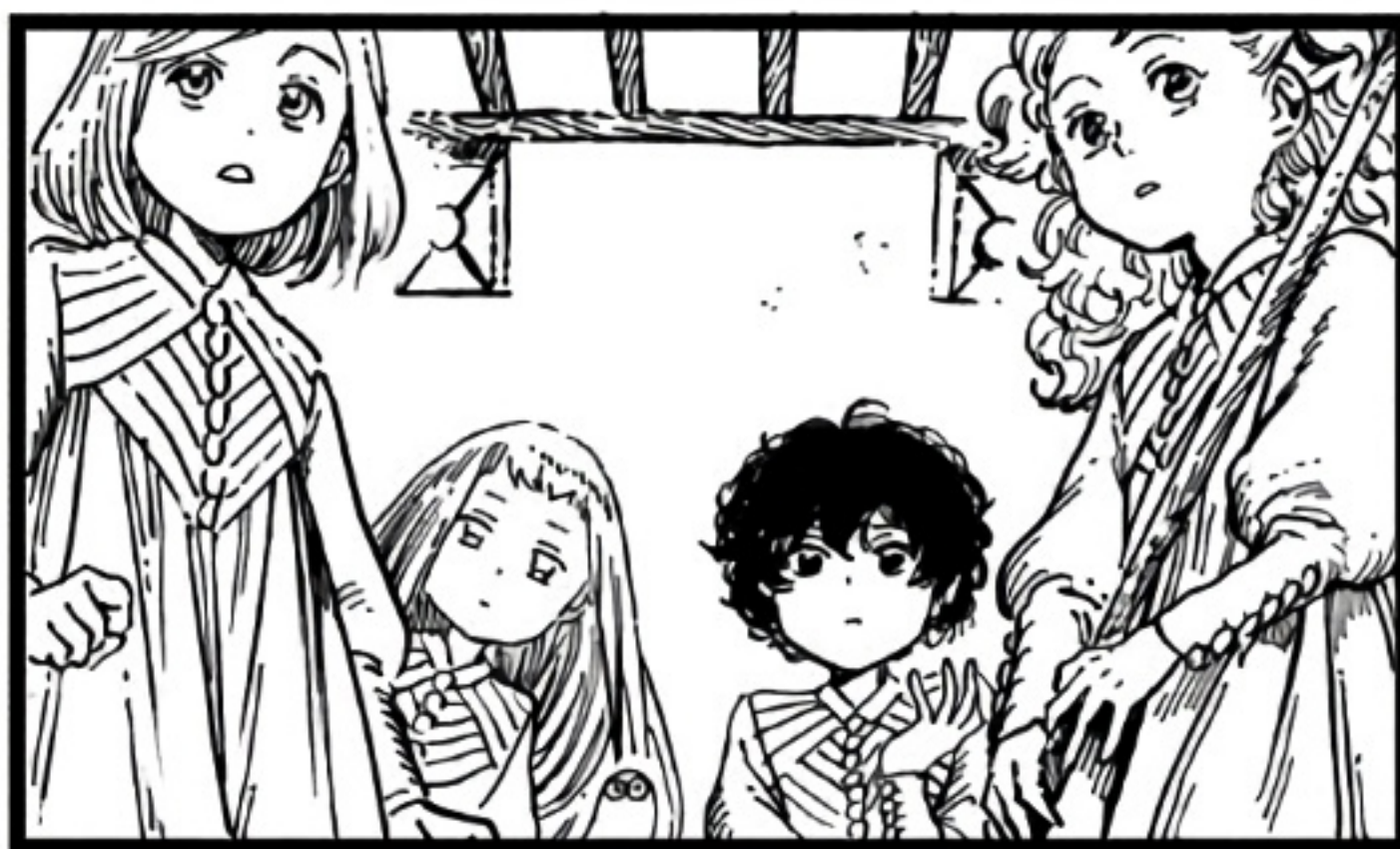
両方存在
することになる



そしたら
そいつの
周りには

火を危険だと
注意する大人と





銀夜祭で売る
魔法器を
作る時は

君たちにも
しっかりと
魔法が世界に
もたらす影響に
ついて

たくさんの…
あらゆる可能性を
考えてほしい

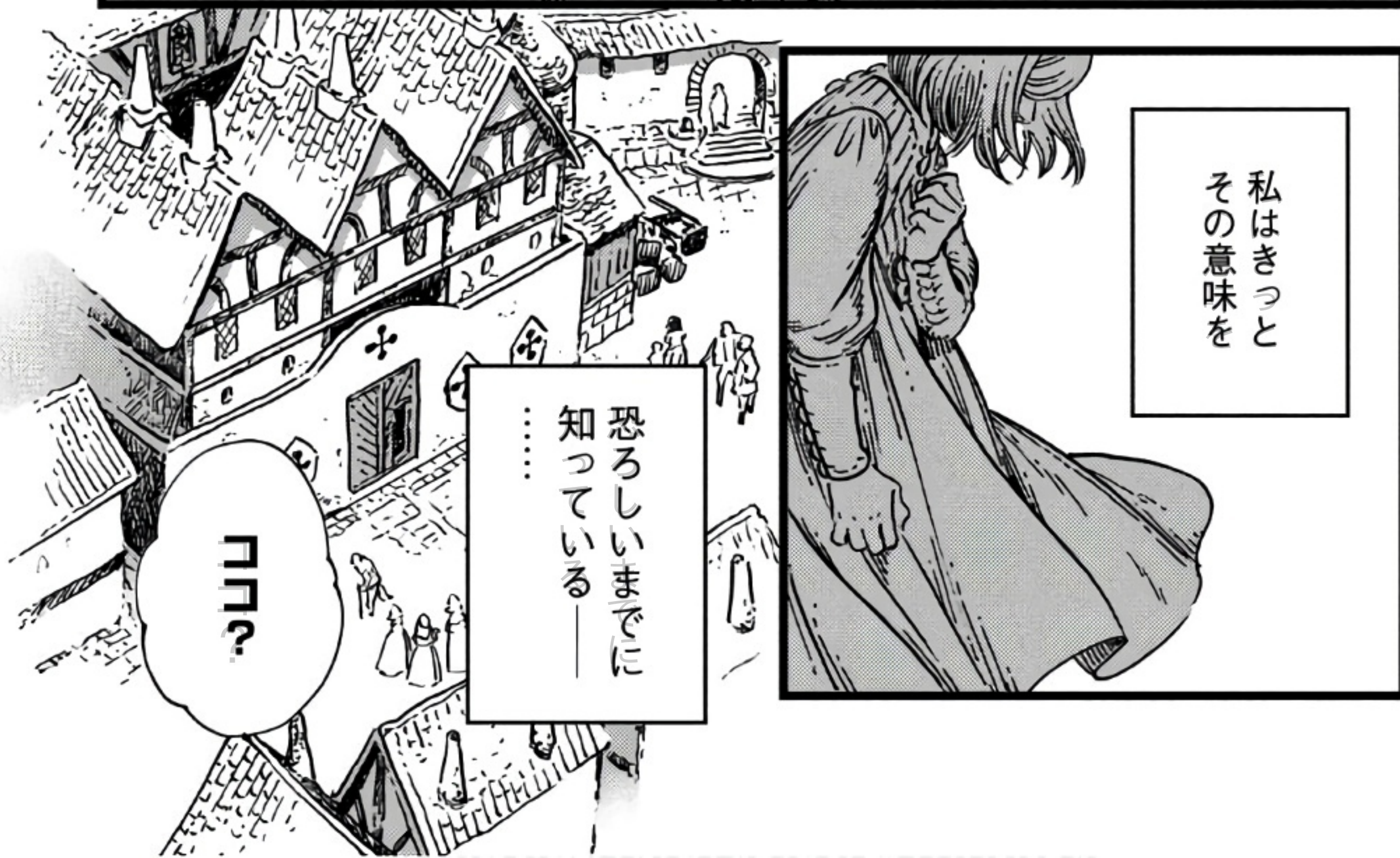
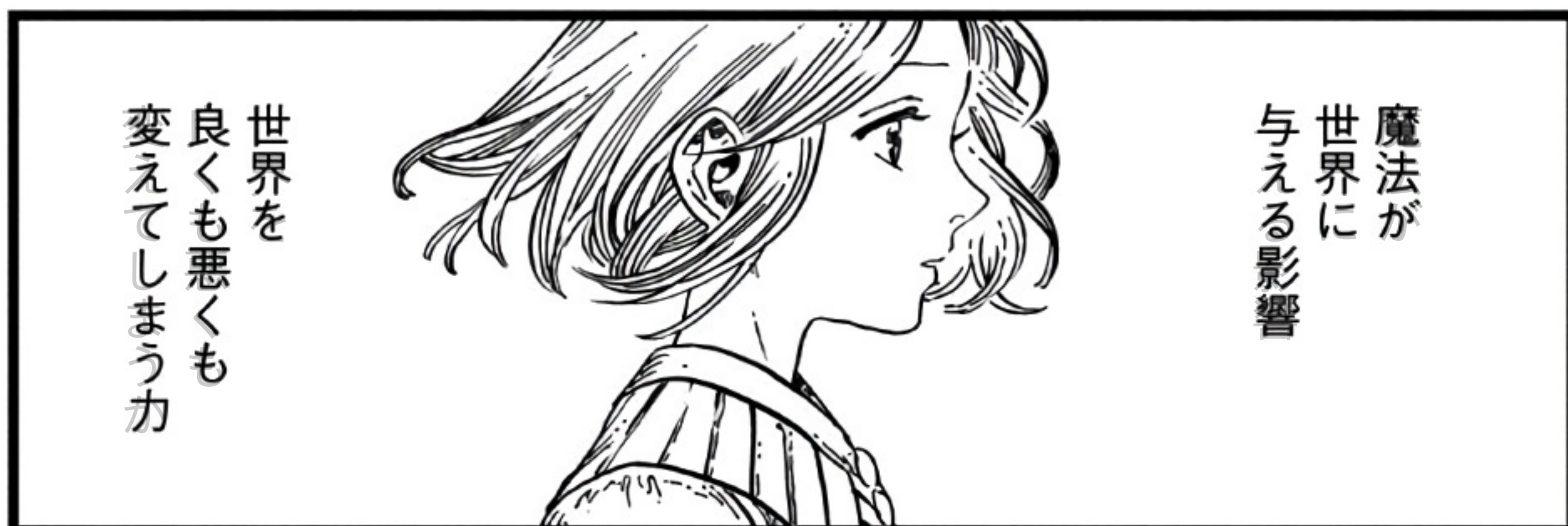


僕らの魔法は
ささやかだけど

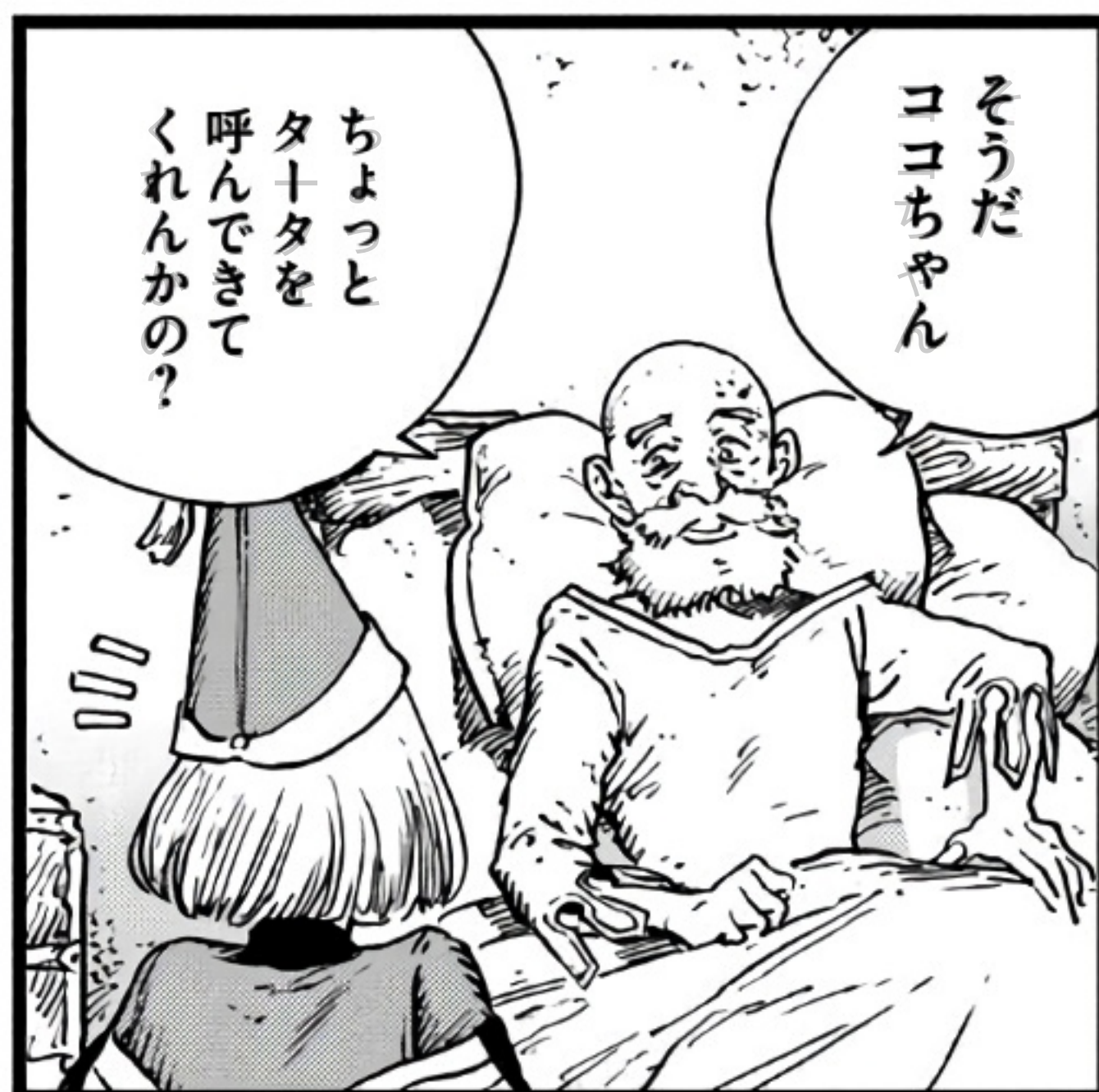
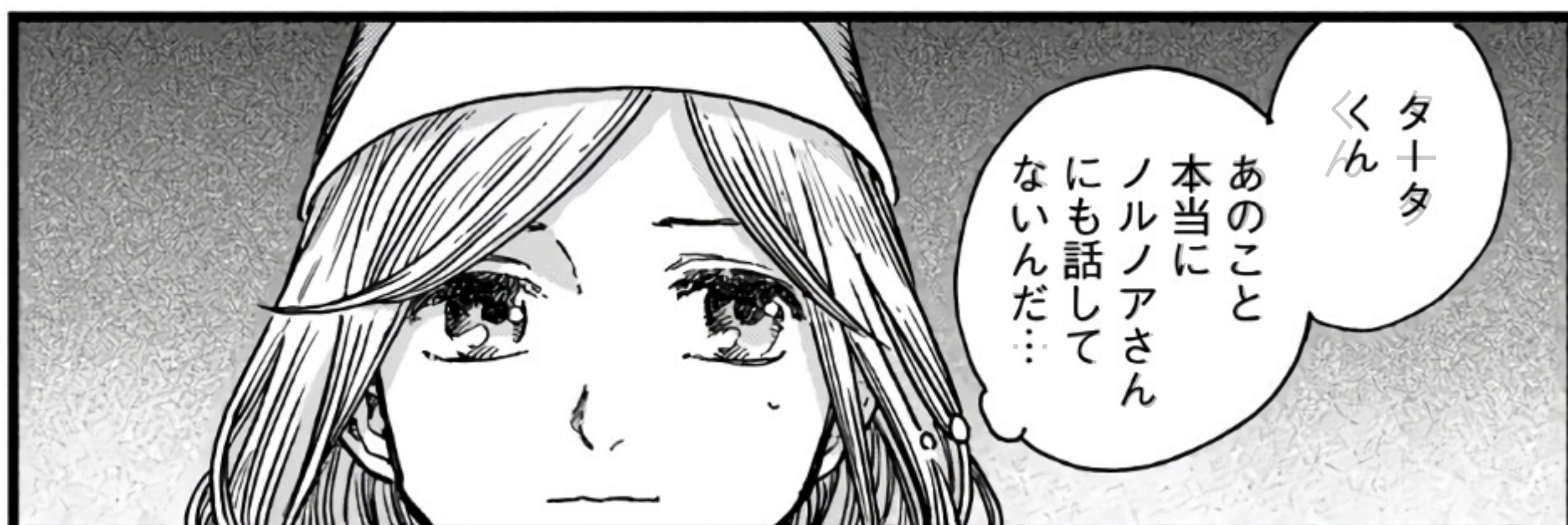
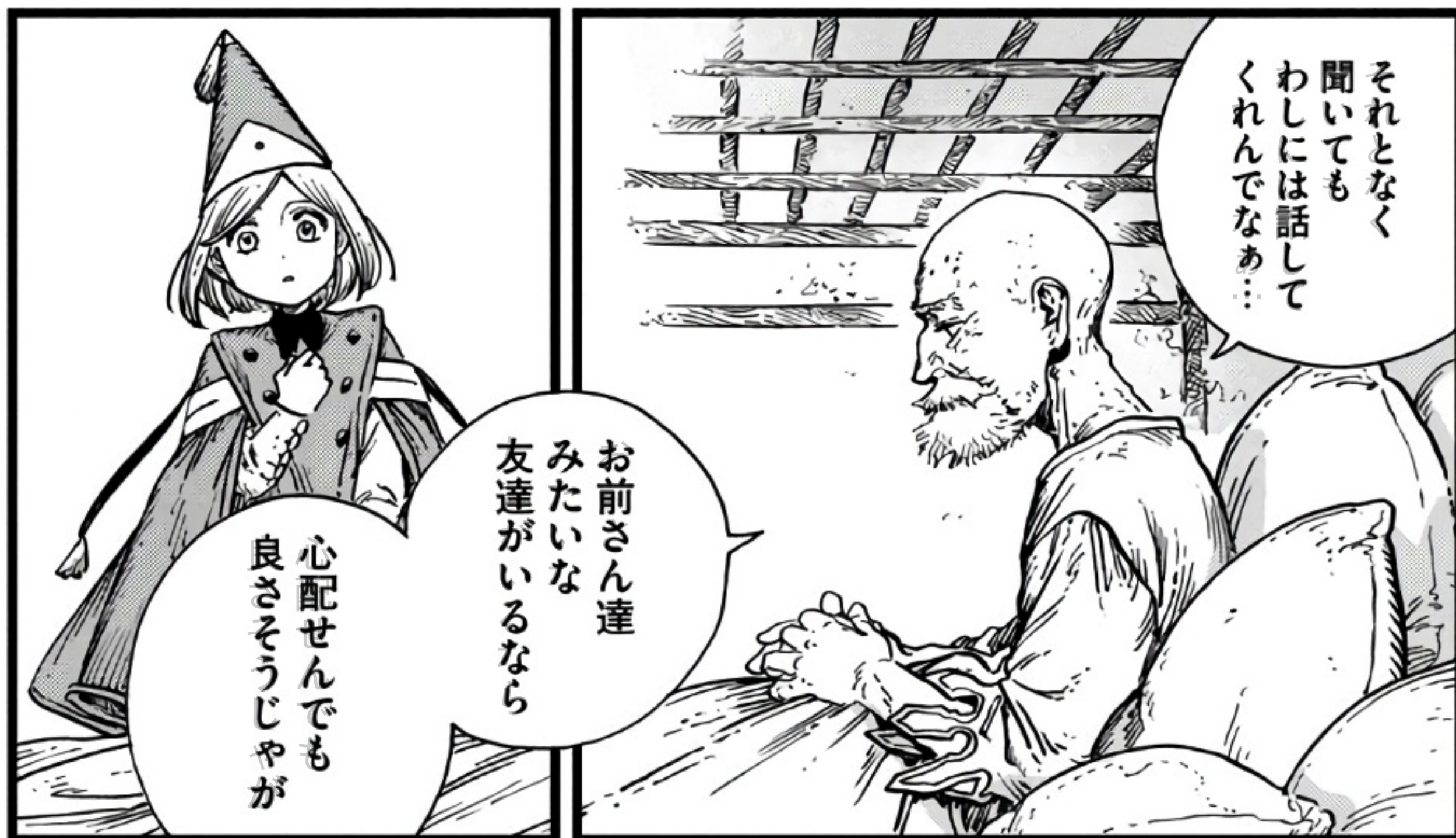
今ある世界を
つくり変えられる
力なんだ

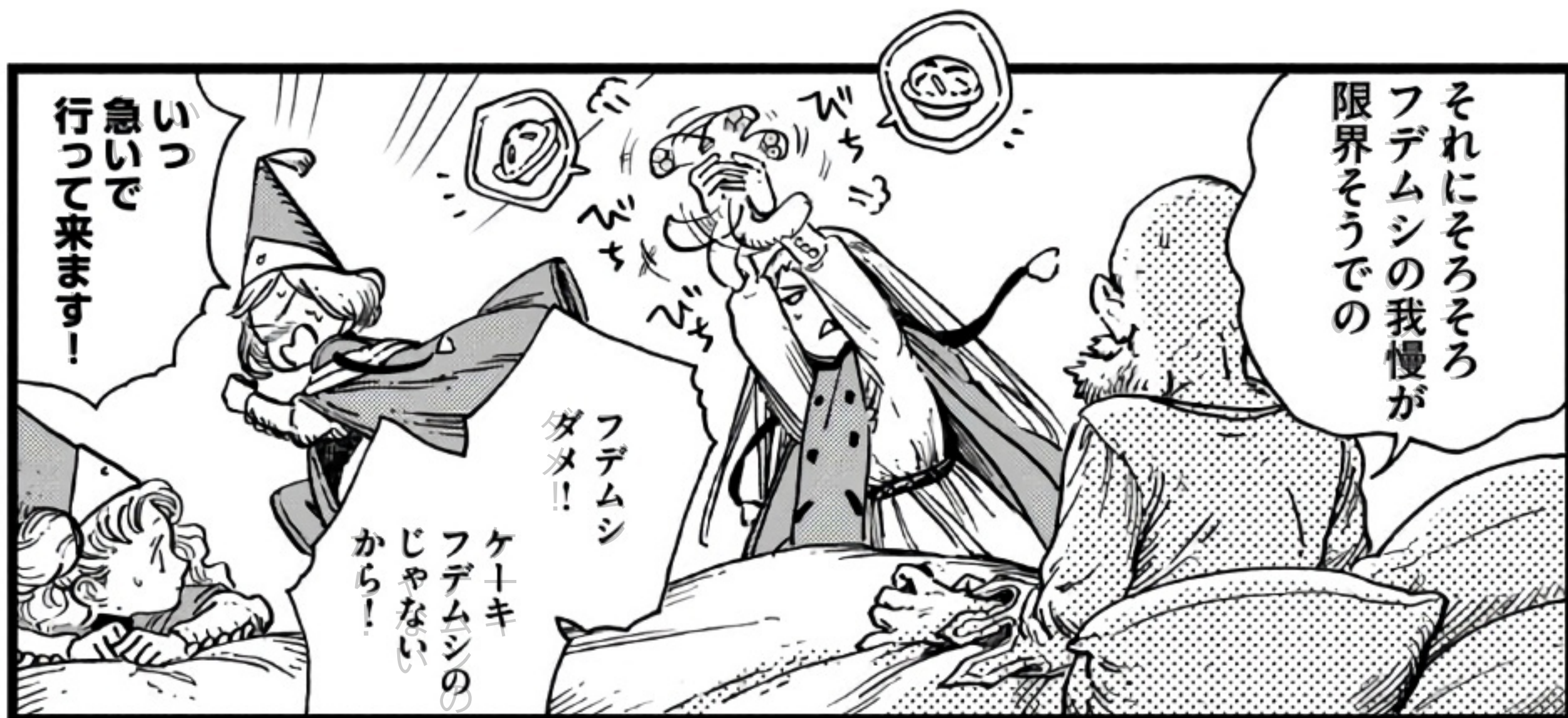
良いように働く
力もあれば
悪い結果を生む
力もある

それが
「魔法」だってこと
君たちもどうか
忘れないで













俺たちの
大事な
商売道具は
あの時
川に
流されち
まって…



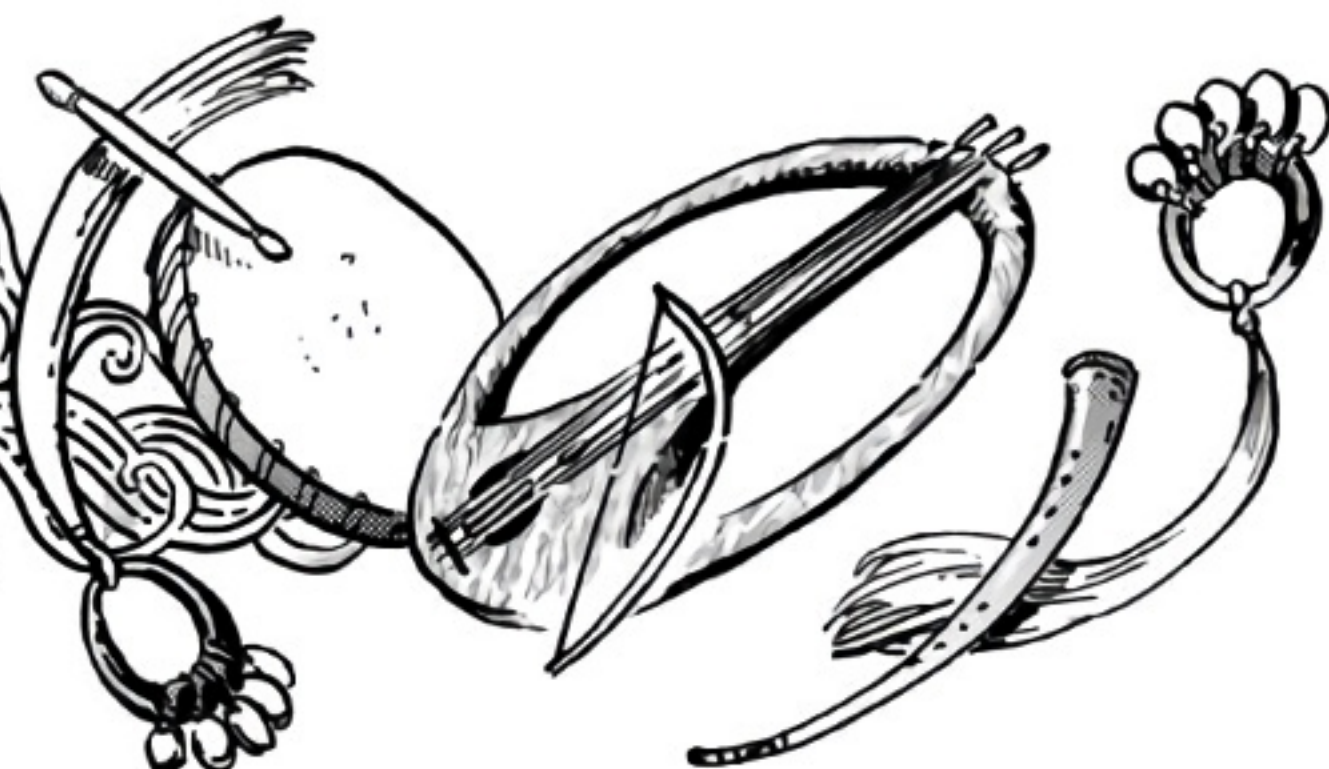
悪いな
今は
無理なんだ

アハハハハ
ヤラネー

すごい！
聴きたい！



楽器が
できるの？



俺を諦めたら
楽器も買える
のに

ダグダは本当
お人好しだよ



この治療費も
安くねーから

新しいのを
買うにも
高えし



階段川の…！



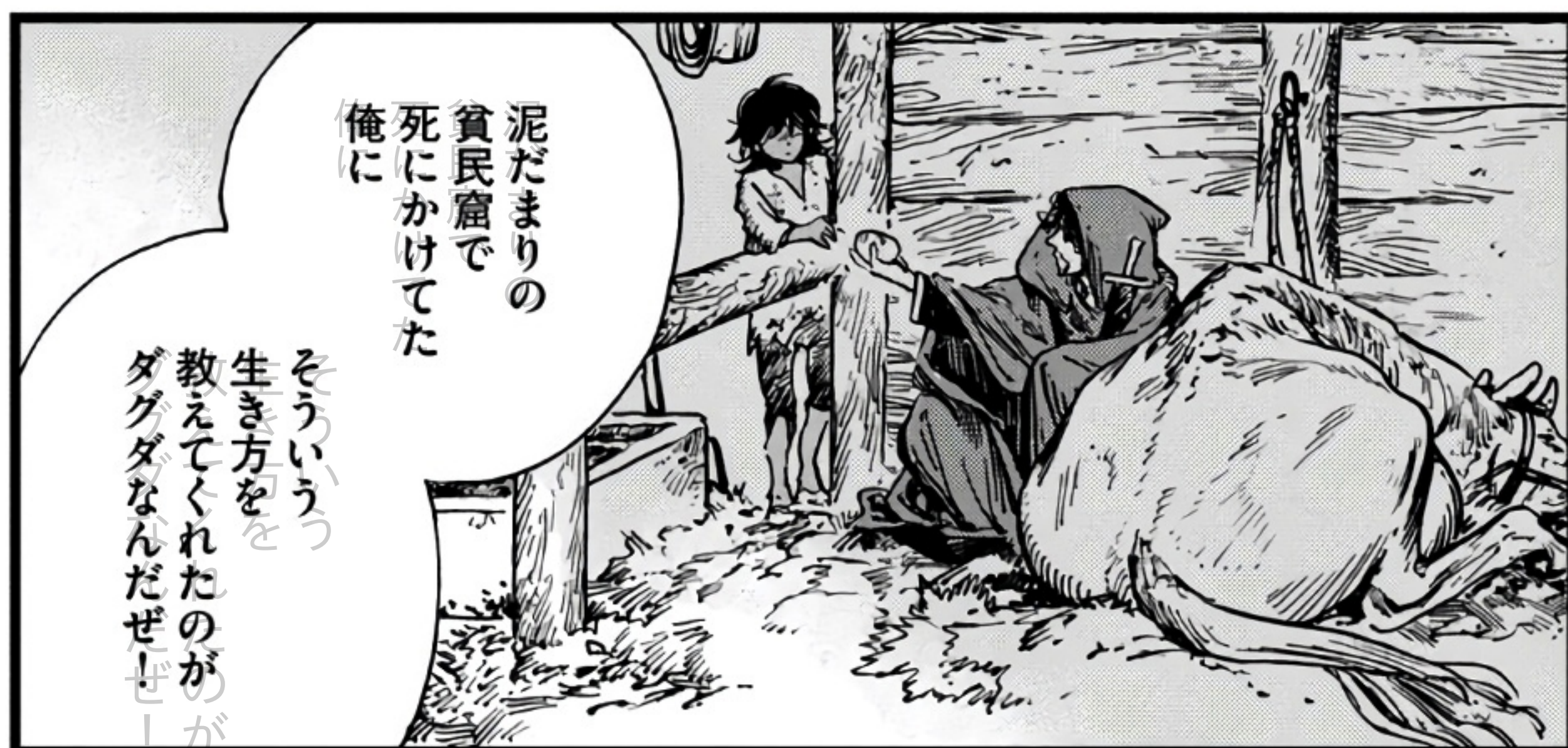
ダグダさんって
お父さんだよ
あの時
アトリエに
助けを求めに
来た…



ダグダは俺の
親父^{おやじ}じゃないよ
俺を
拾ってくれた
人!!

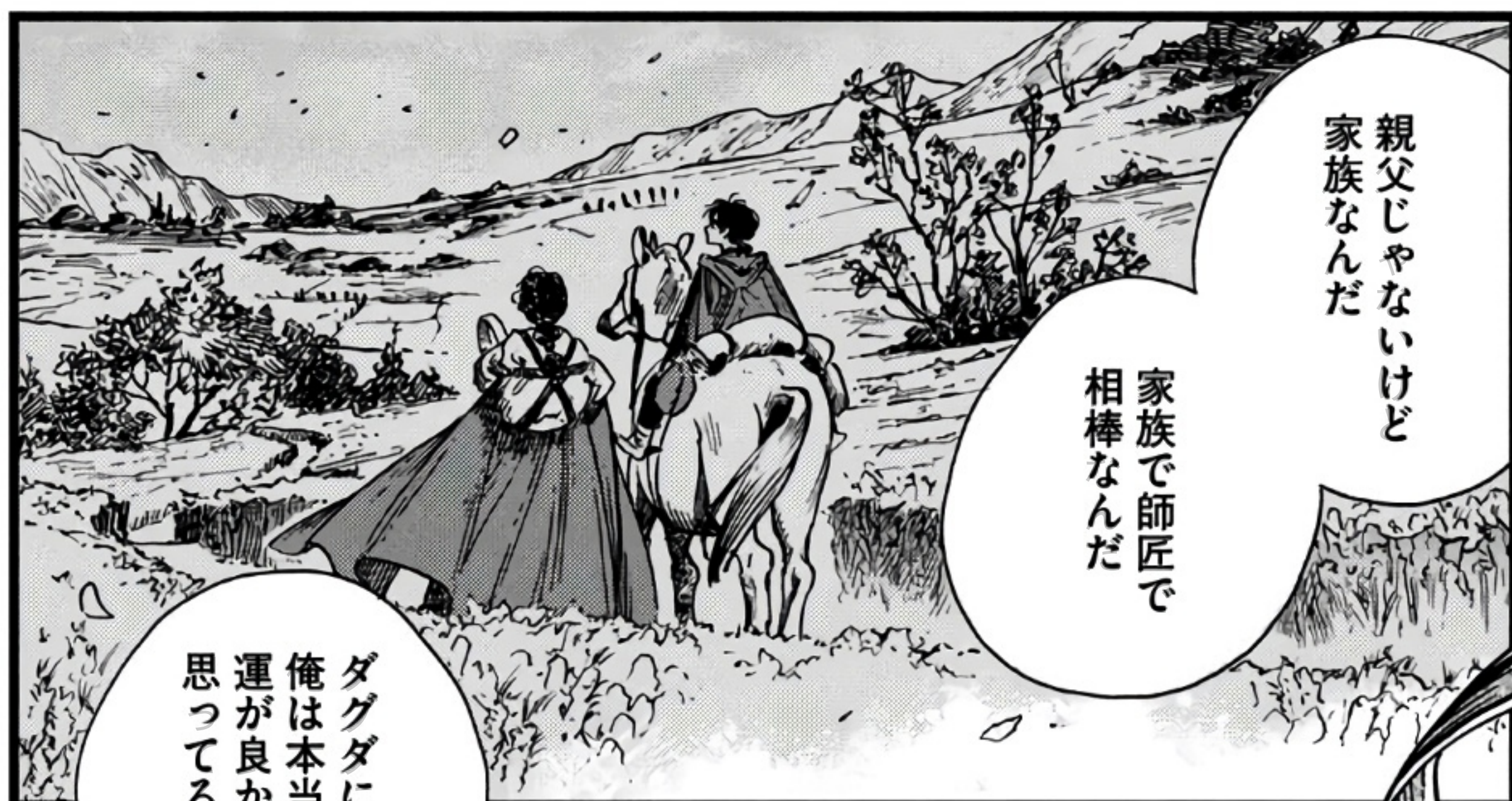
楽器を
鳴らせば
飯がもらえる

跳ねて踊れば
凍えず眠れて



泥だまりの
貧民窟で
死にかけてた
俺に

そういう
生き方を
教えてくれたのが
ダグダなんだぜ!



親父じゃないけど
家族なんだ

家族で師匠で
相棒なんだ

ダグダに会えて
俺は本当に
運が良かったって
思ってる…



俺が
怪我して
こうなったのは
ダグダのせいじゃ
ないのにな

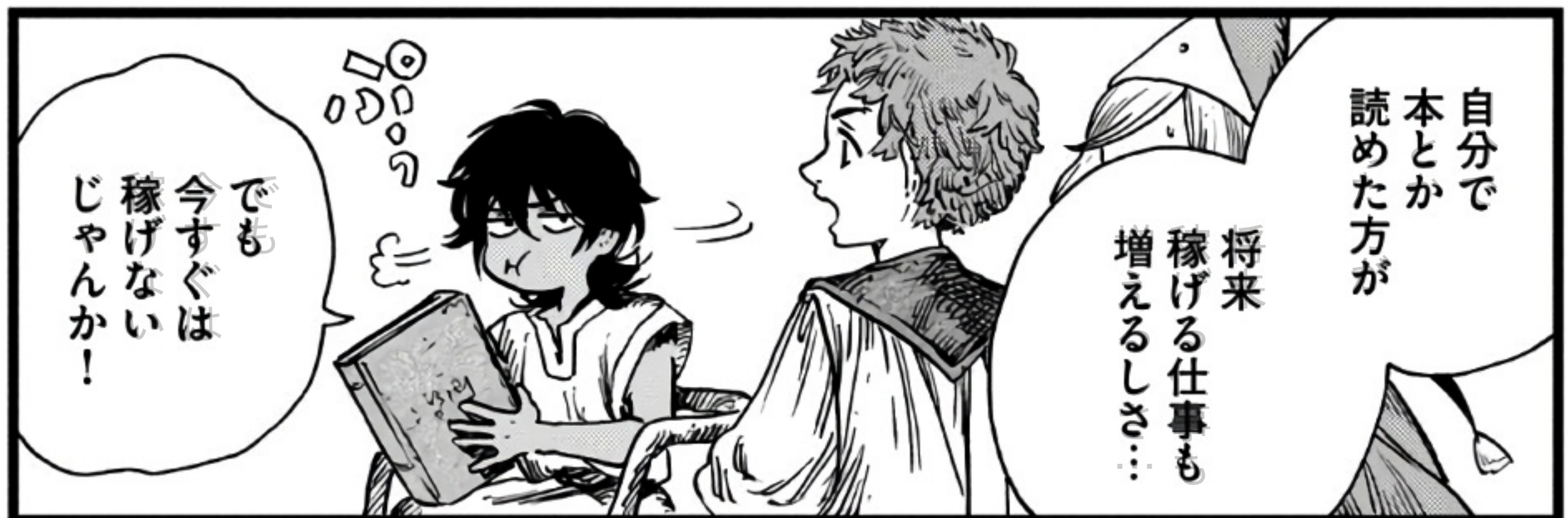


すごく素敵で
いい人なんだね
ダグダさん

うんまじで
すっげえ
いいやつ！



…いいやつ
すぎて
損してんだ



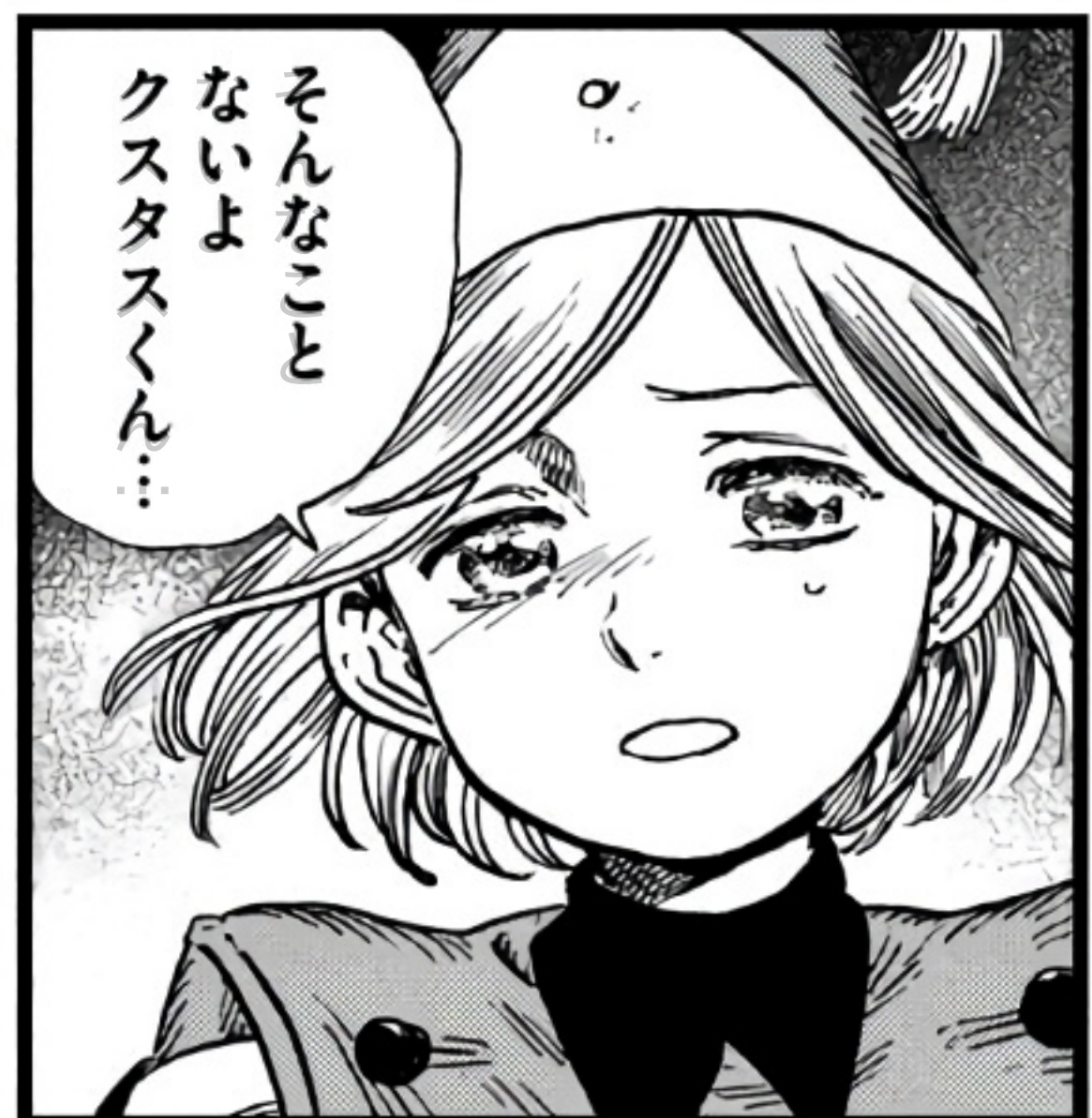
俺たちみたいなのは
泥だまり生まれは
その年稼ぐのが
精一杯

きつとずっと
この先も
精一杯なまま
大人になるんだ



そんな
こと...

それは...



そんなこと
ないよ
クスタスくん...

生まれつきの
魔法使いじゃ
なかったって

希望や
可能性は
誰にでも
あるよ!

だから...







俺は俺に
味方してくれない
この世界を

こんな折れやすい
木の棒の足で
歩いていかなきゃ
ならないんだ……!

でも俺は
「そっち側」じゃ
ないからさあ……!



今日はもう
誰とも
話したく
ねーや

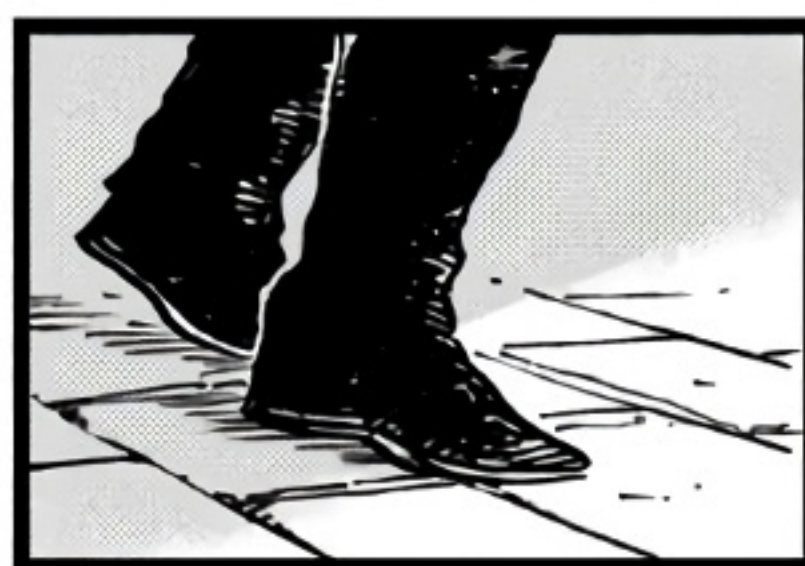
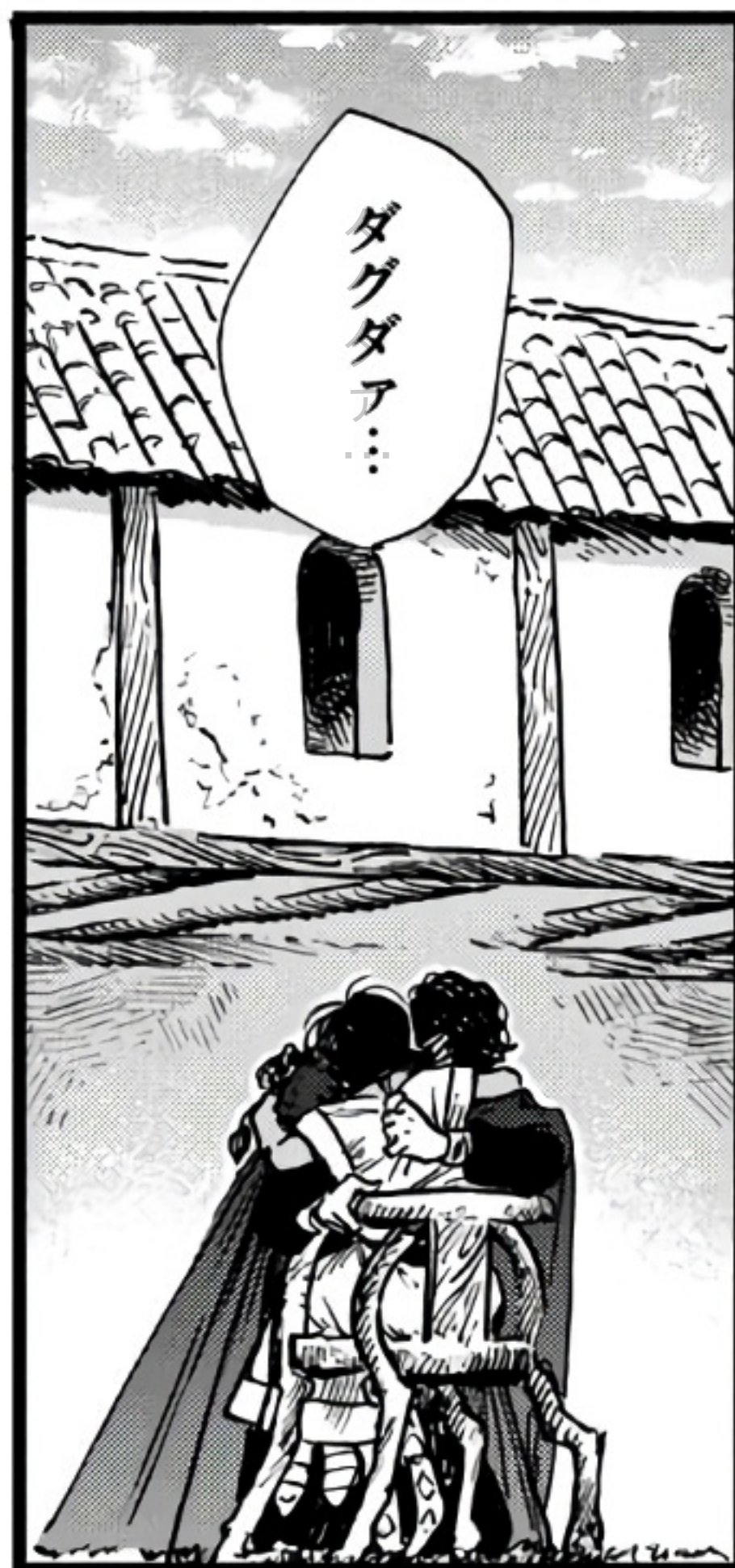
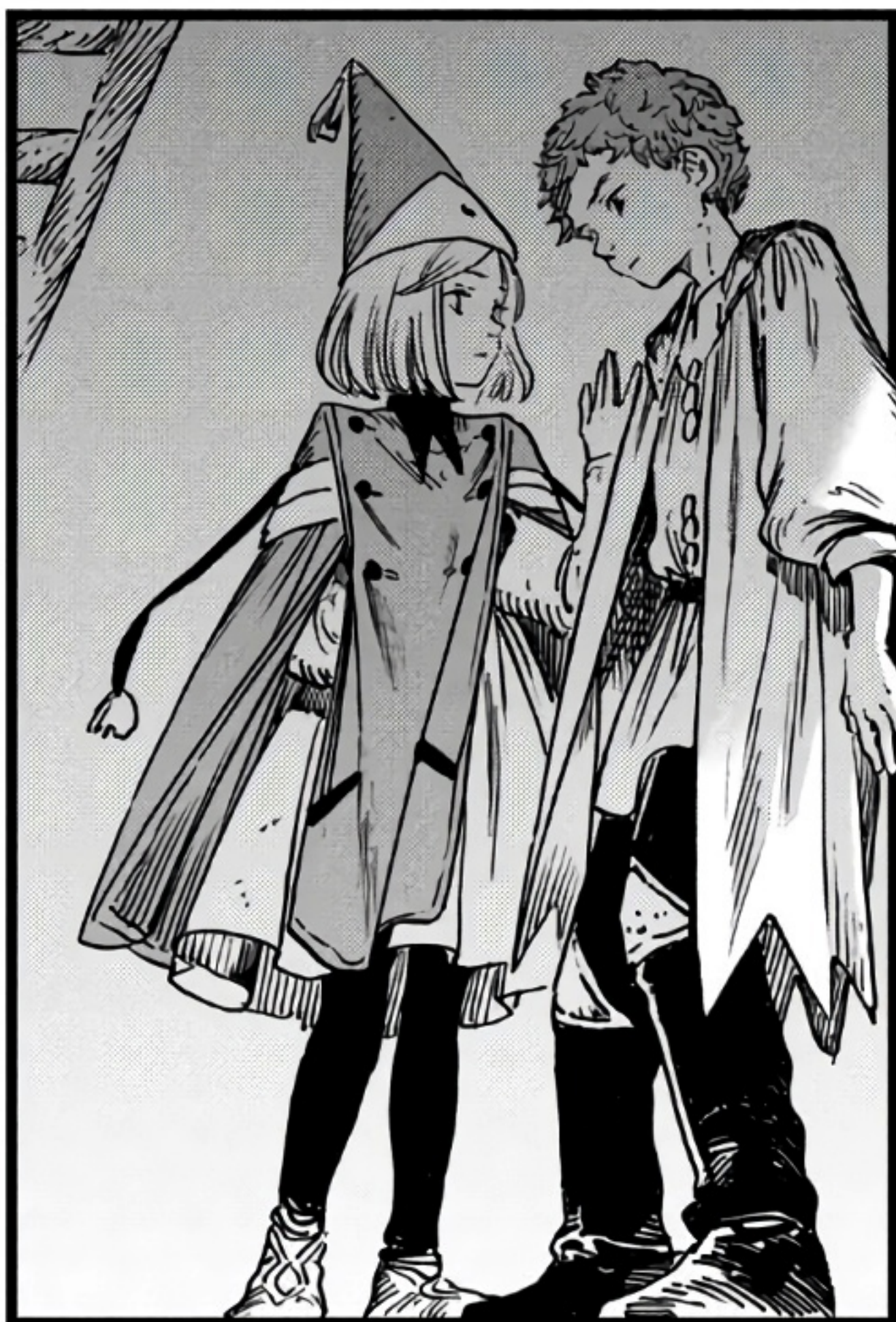
あ……

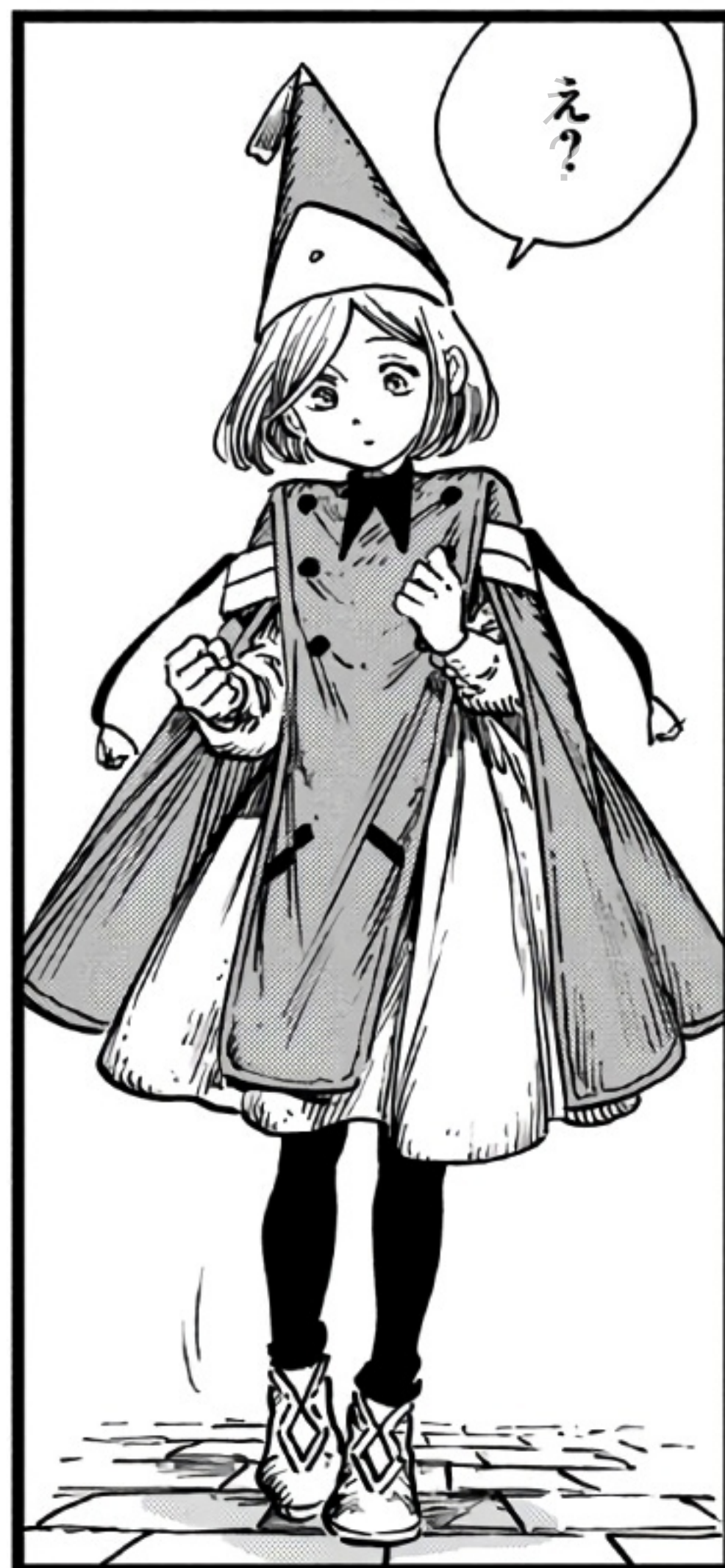
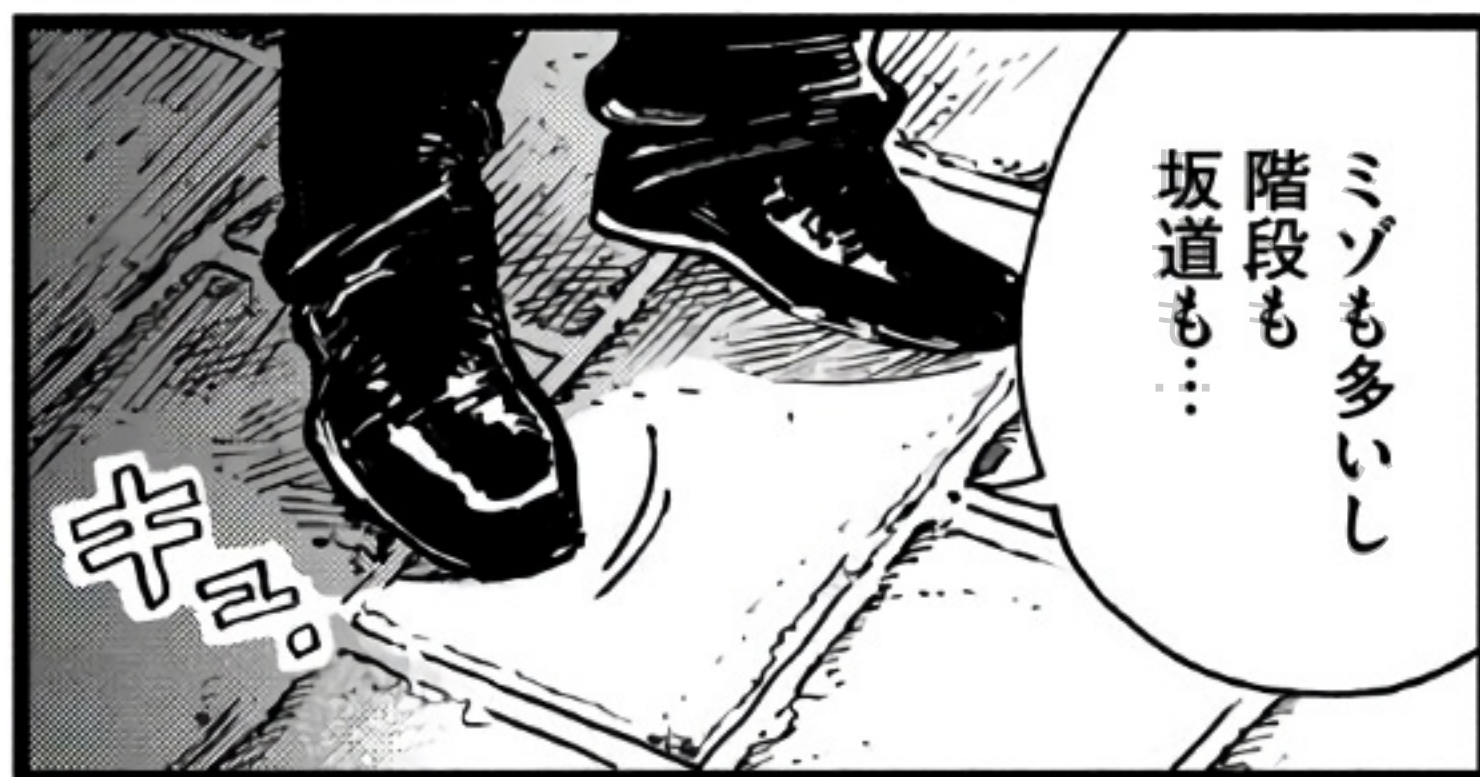


……ごめんやつぱ
俺病室に
戻る









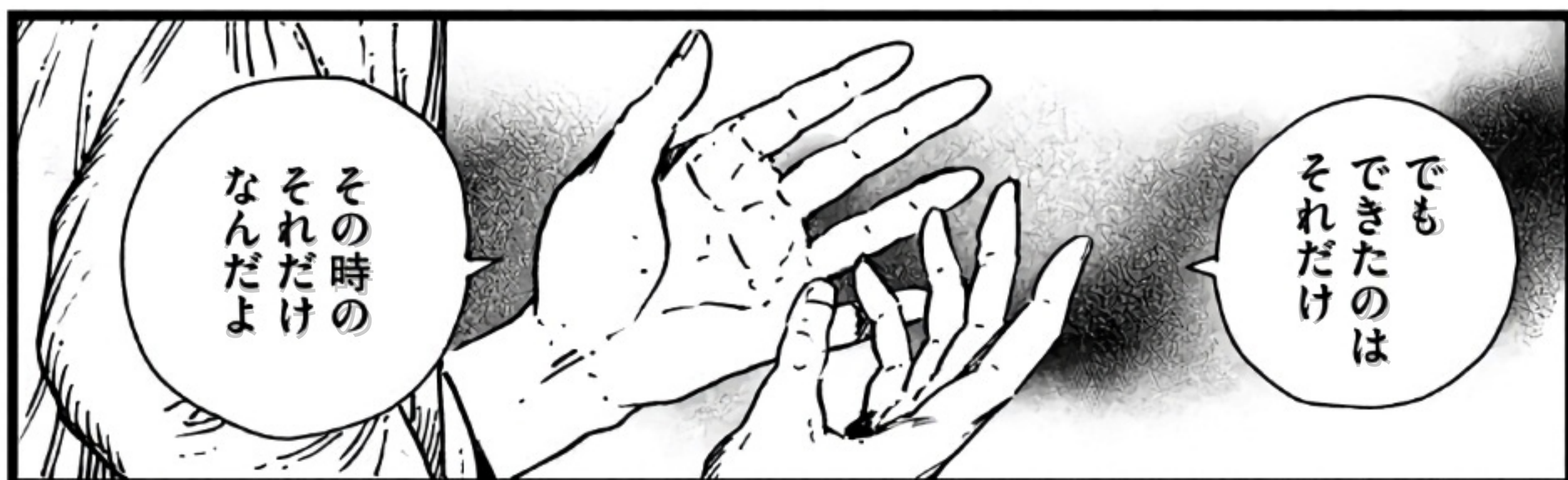


あいつが
起き上がるの
手伝うよって
言ったんだ

俺

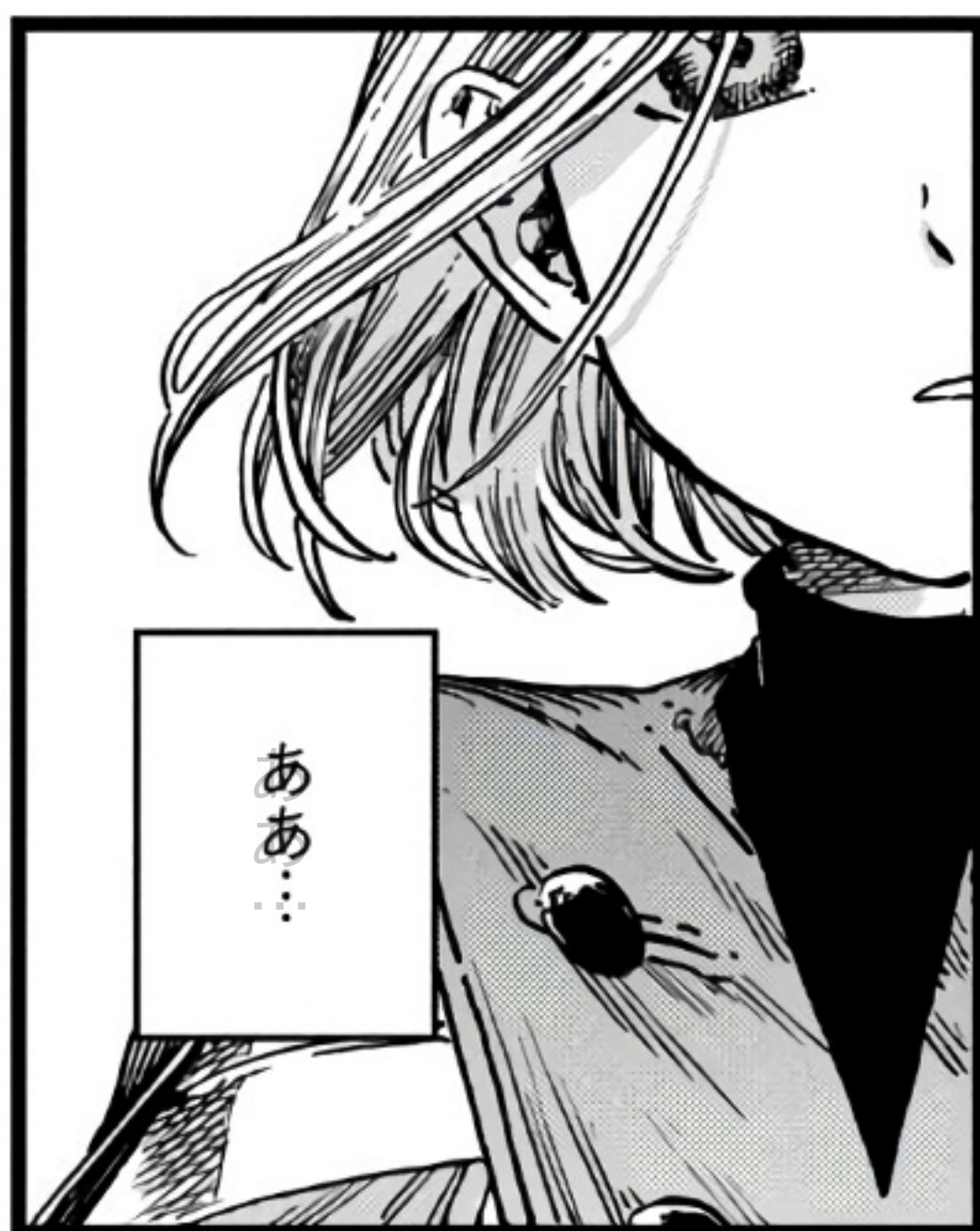


クスタスくんの
ためだった
んだね



でも
できたのは
それだけ

その時の
それだけ
なんだよ



ああ…



あいつの
気持ちには
わかって
やれなくても

俺俺
俺の気持ちには
はつきり
わかる…



自分には
どうしようも
ないことで

未来が
閉ざされた
ように感じる
時って

本当に
やりきれなくて
辛いじゃんか…

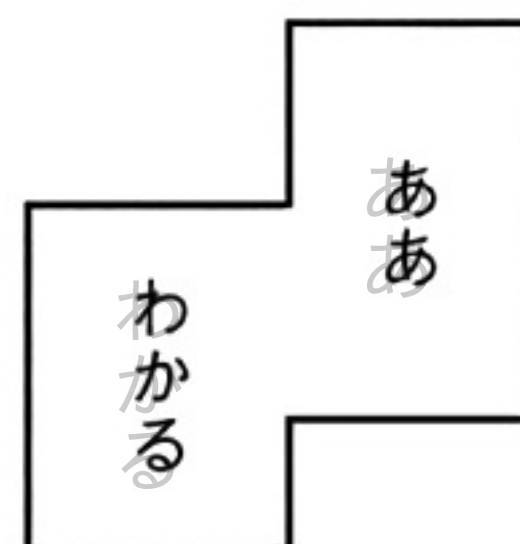


じゃあさ

その時
何を
願ったかも



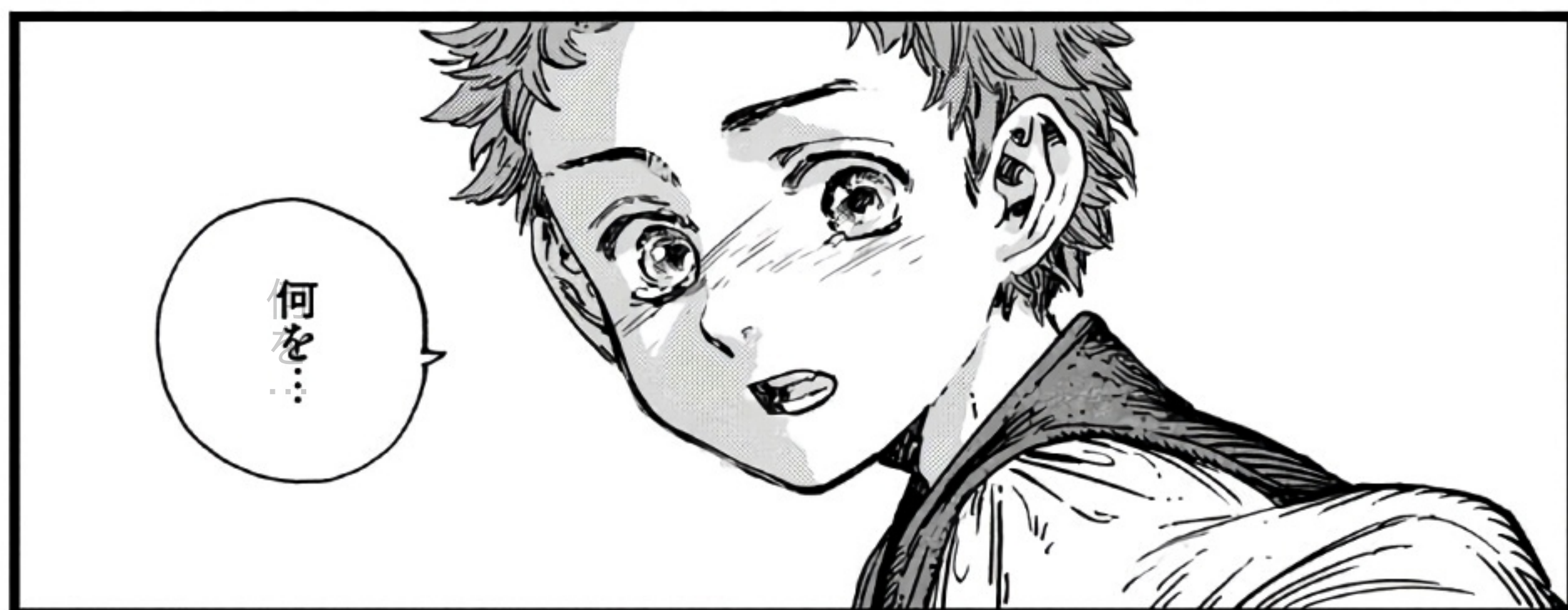
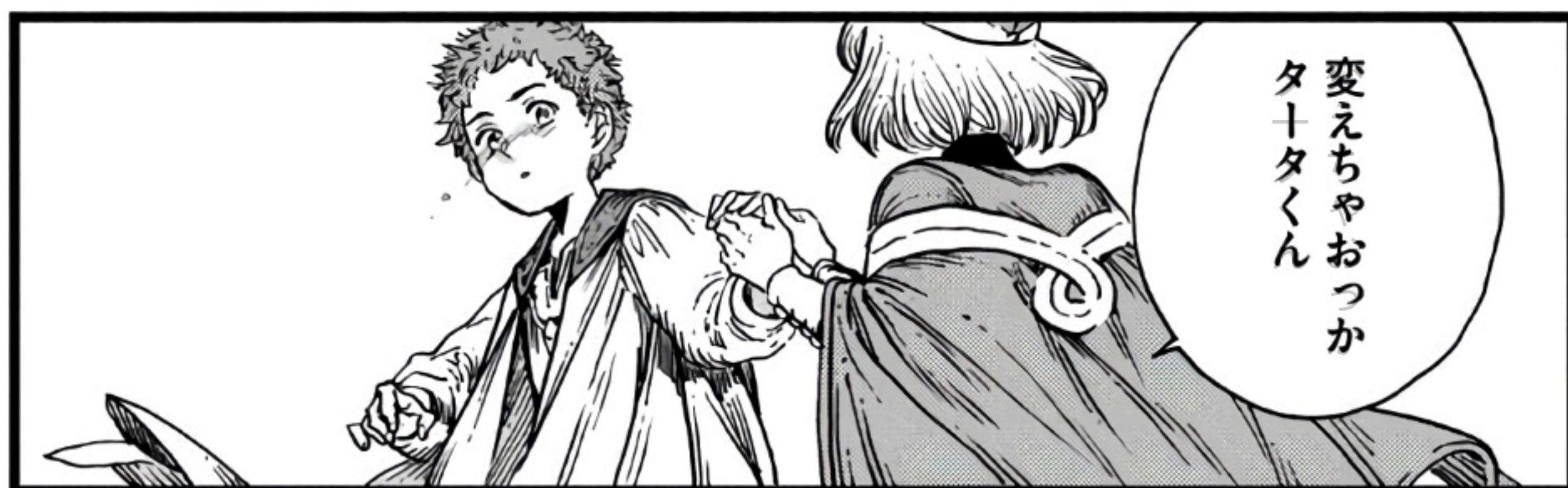
そして



ああ

わかる

わたしにも
わかるよ



その効果の届く
周囲の世界を

良いようにも
悪いようにも

変えることが
できる力



人の身体は
変えられ
なくても

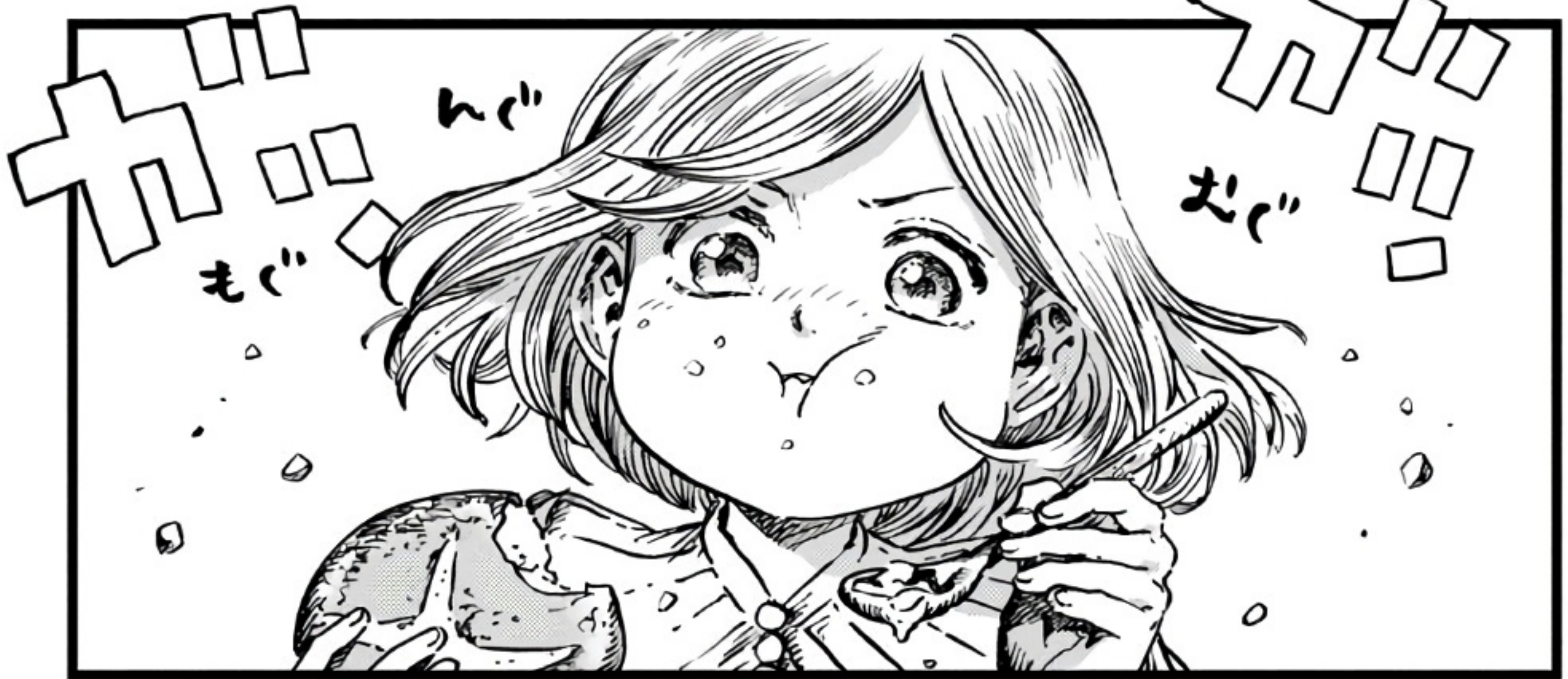
魔法は
世界を
変えられる…

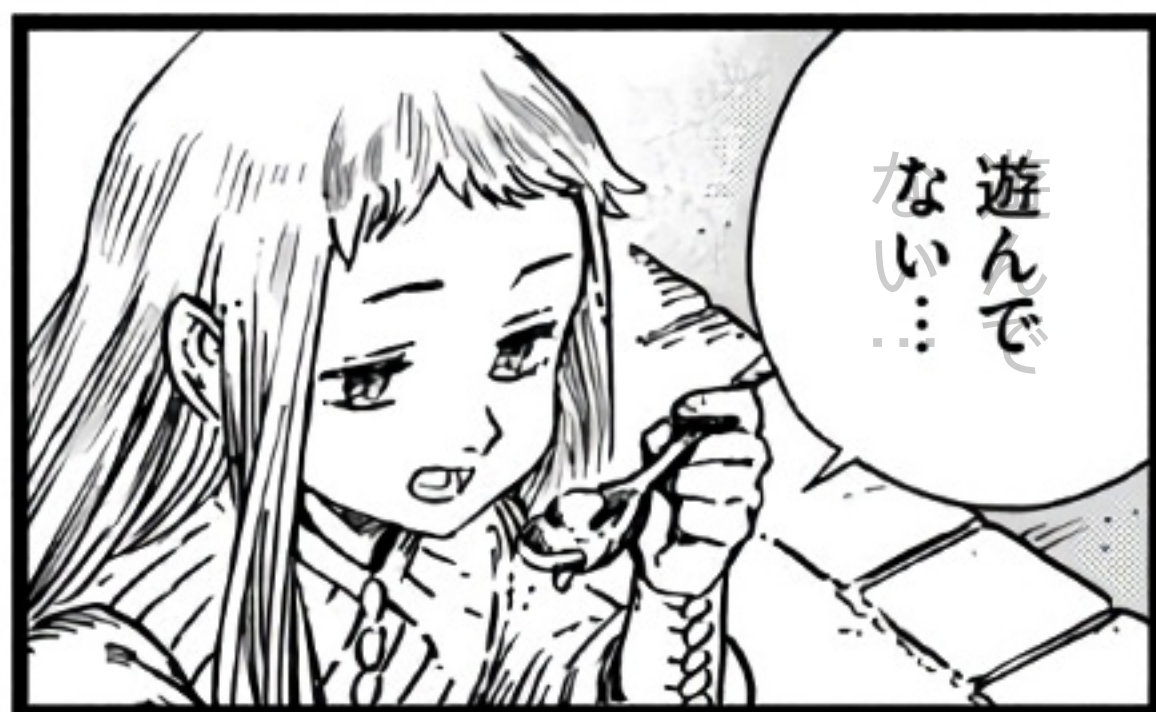


なら
クスタスくん
の世界ごと

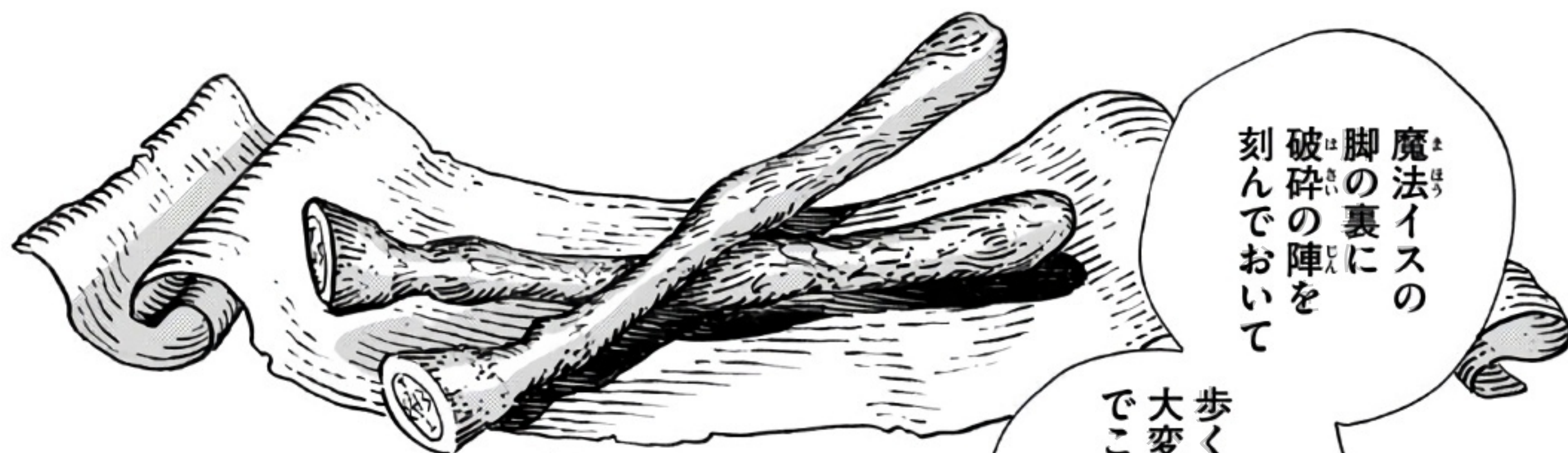
クスタスくんの
味方に変えちゃ
おうよ！







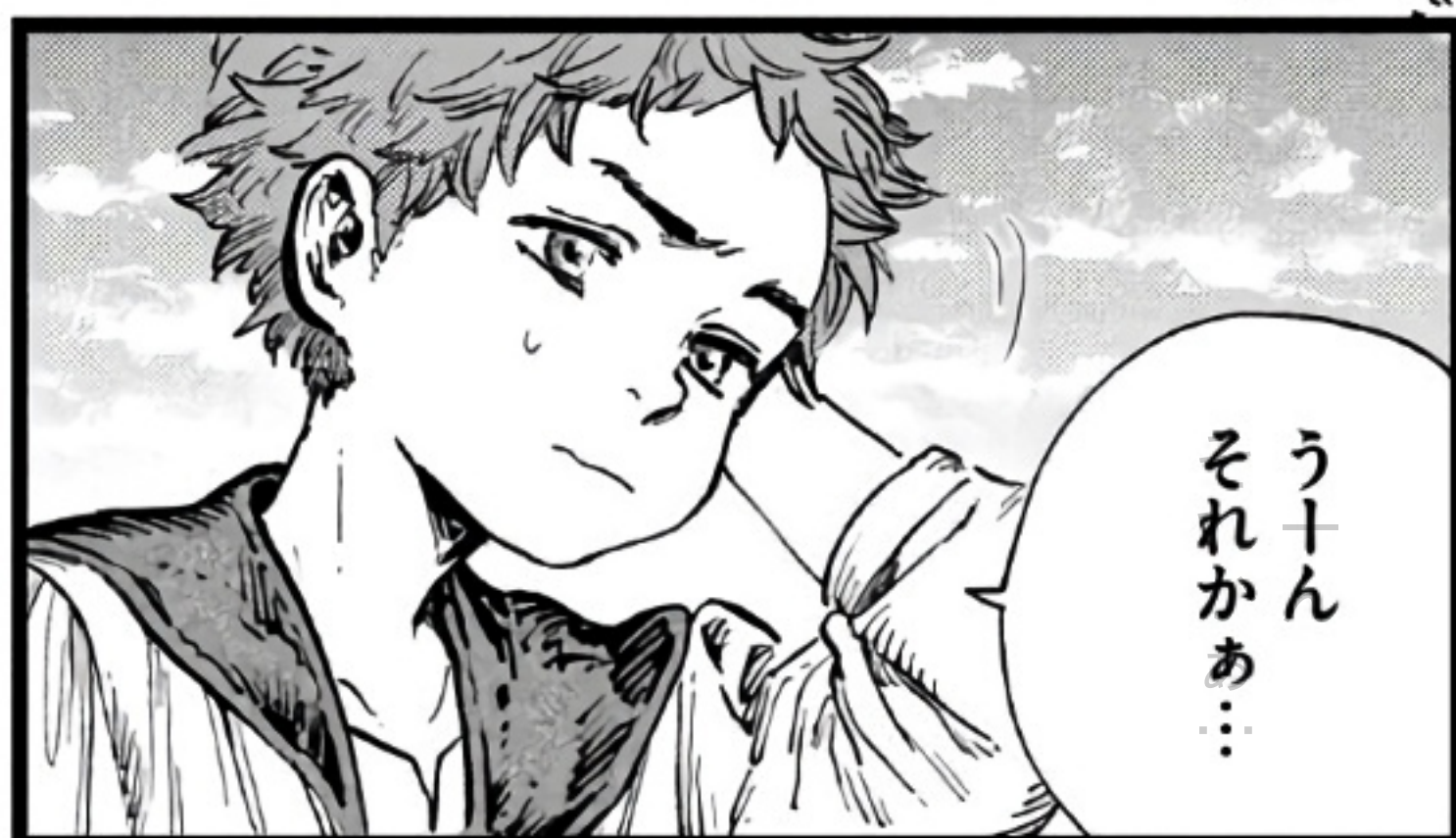




魔法イスの
脚の裏に
破碎の陣を
刻んでおいて

歩くのが
大変な
でこぼこ道を...

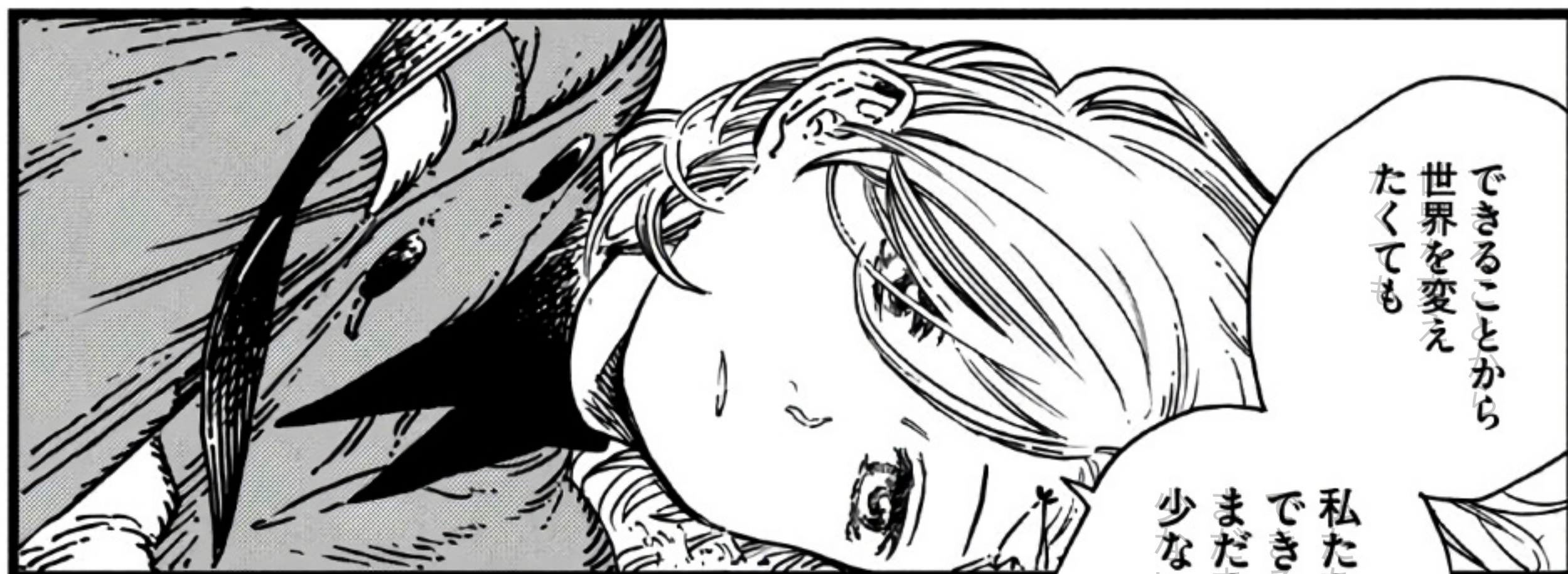
一歩ごとに
さらさらの
砂地に変える
魔法!



うーん
それかあ...

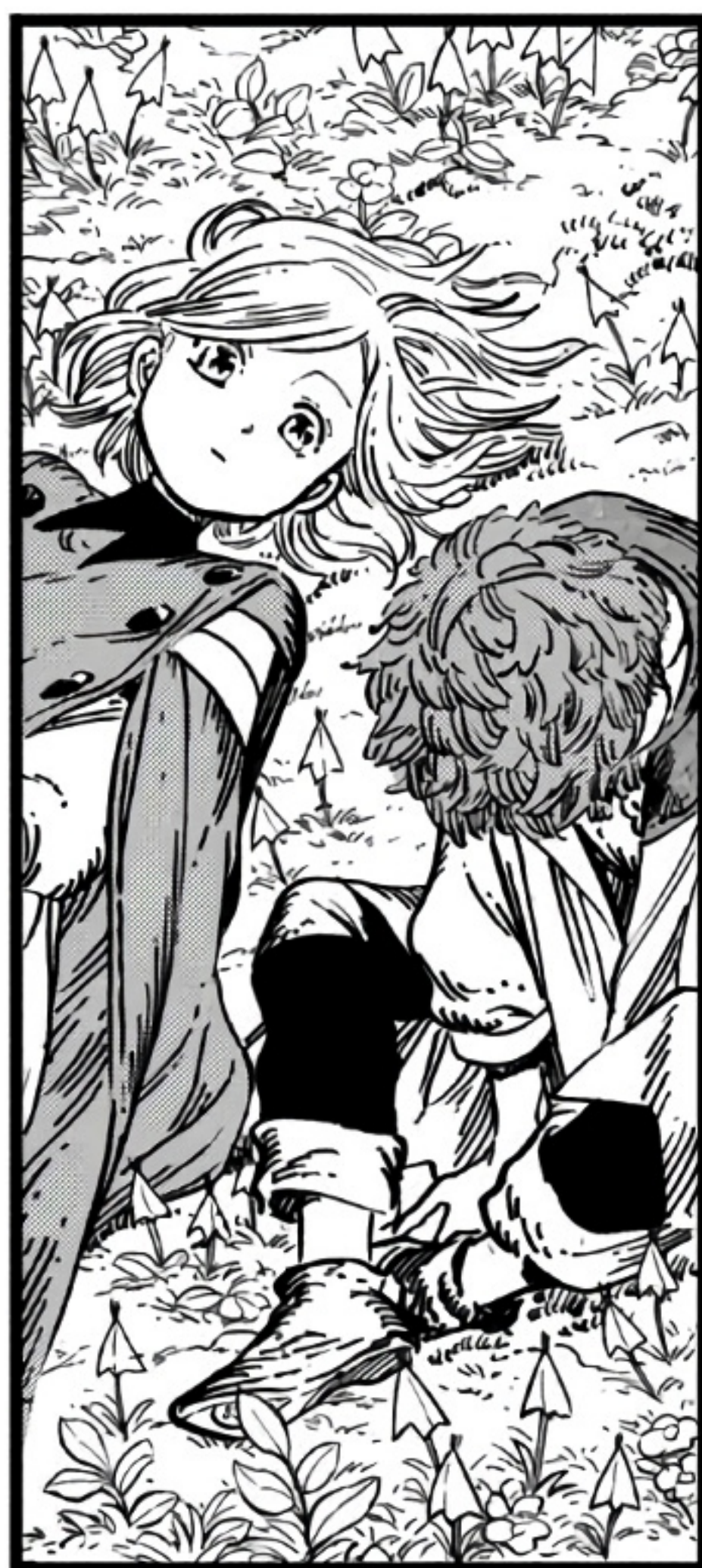






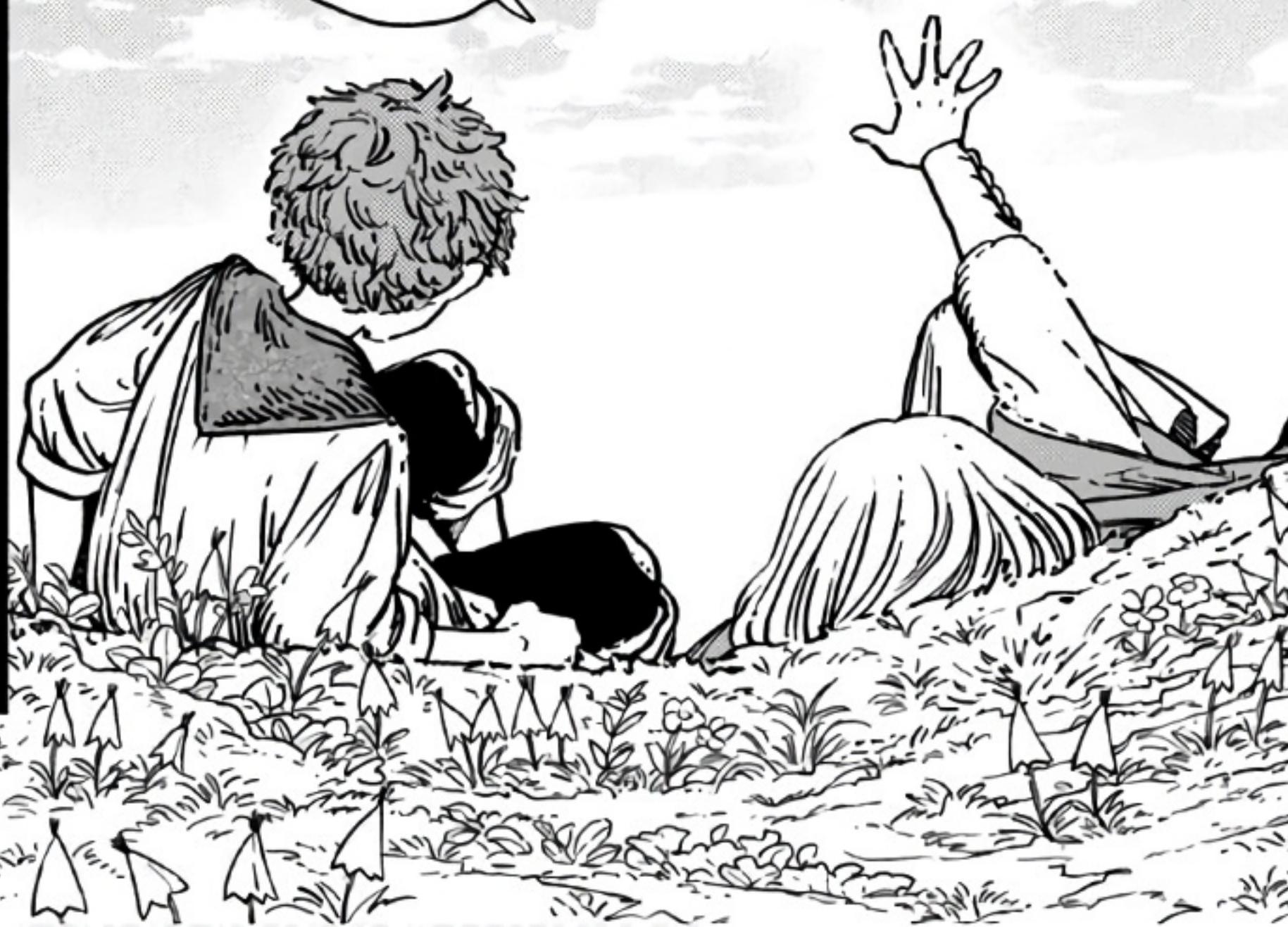
できることから
世界を変え
たくても

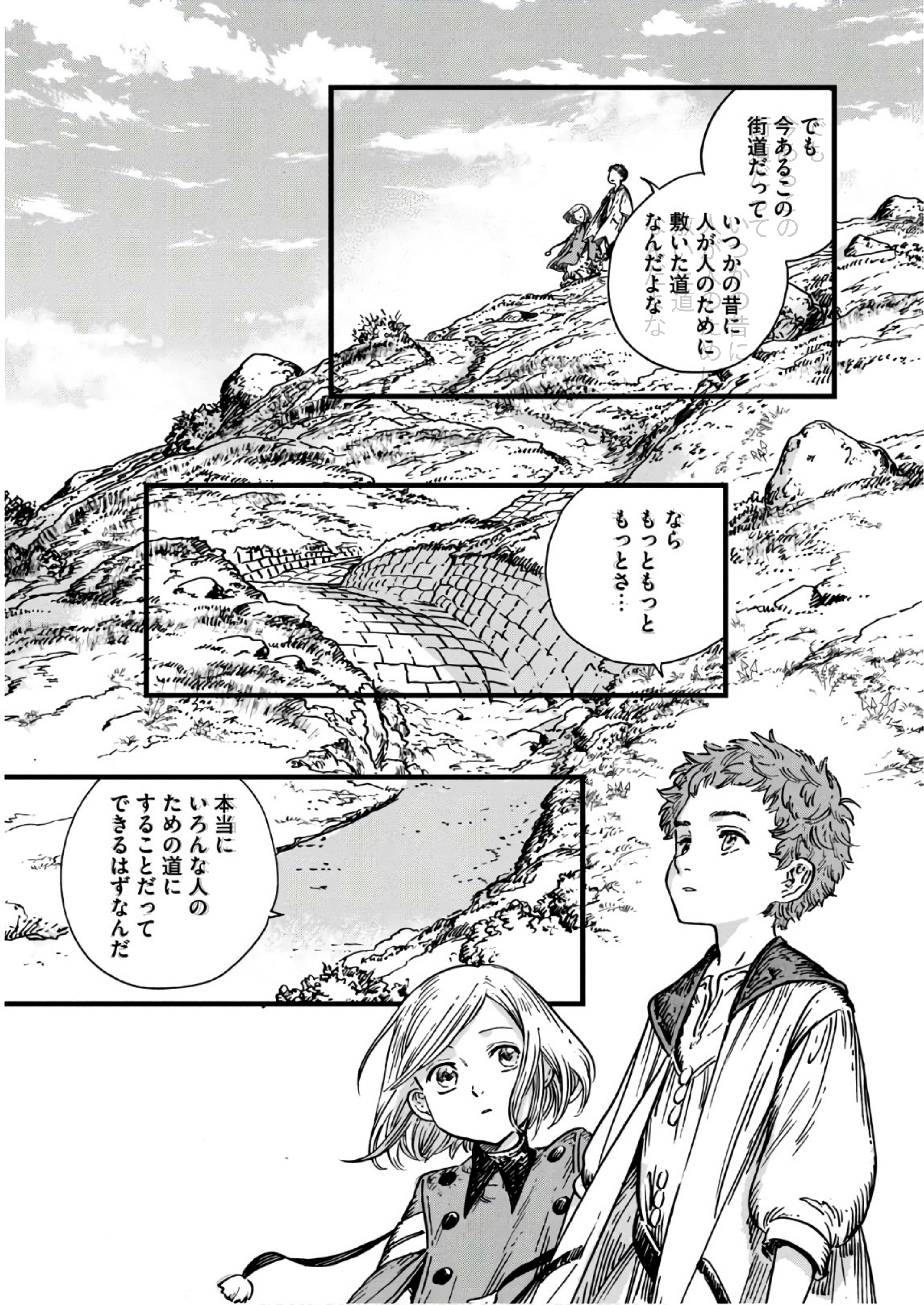
私たちに
できることって
まだまだずつと
少ないんだね



全部の道を
作り替える
ためには

どれだけの
魔法が必要
なんだろう



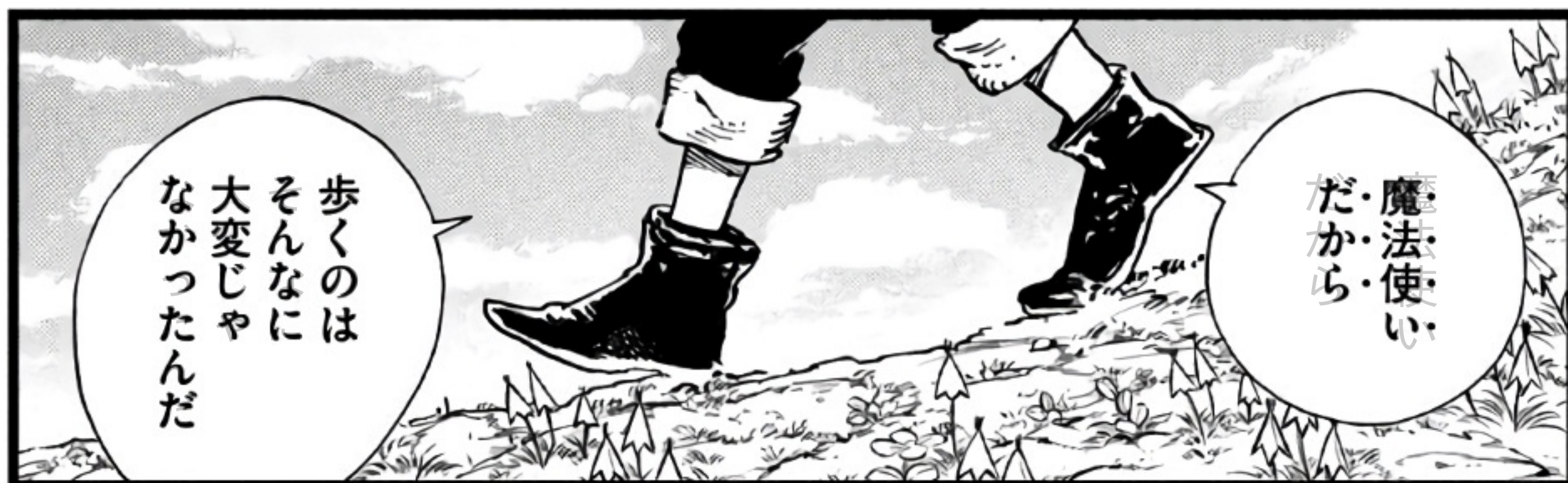


でも
今あるこの
街道だって

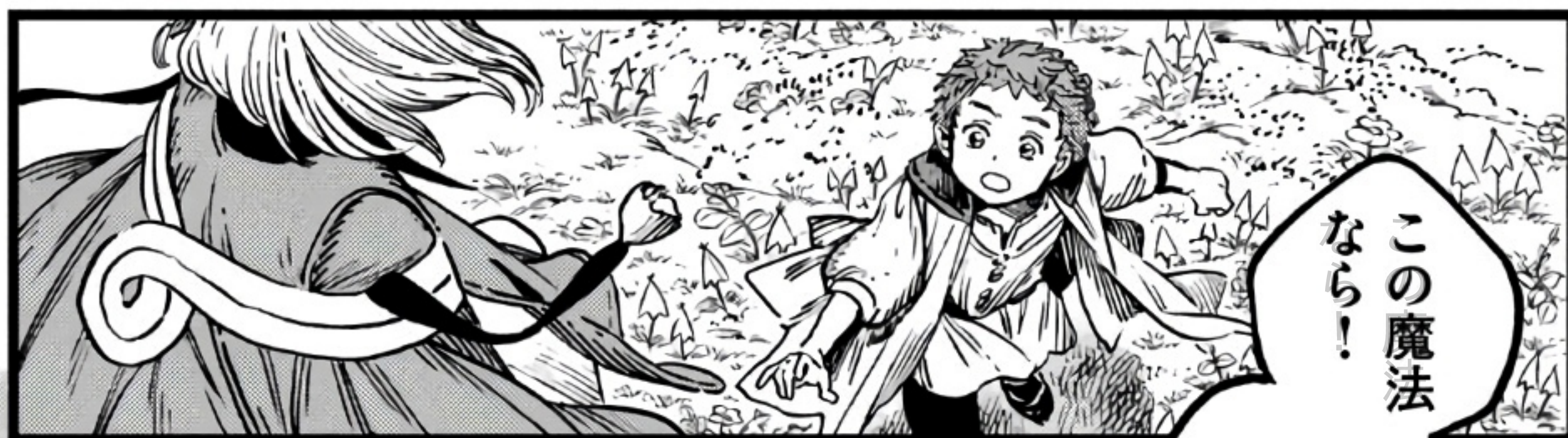
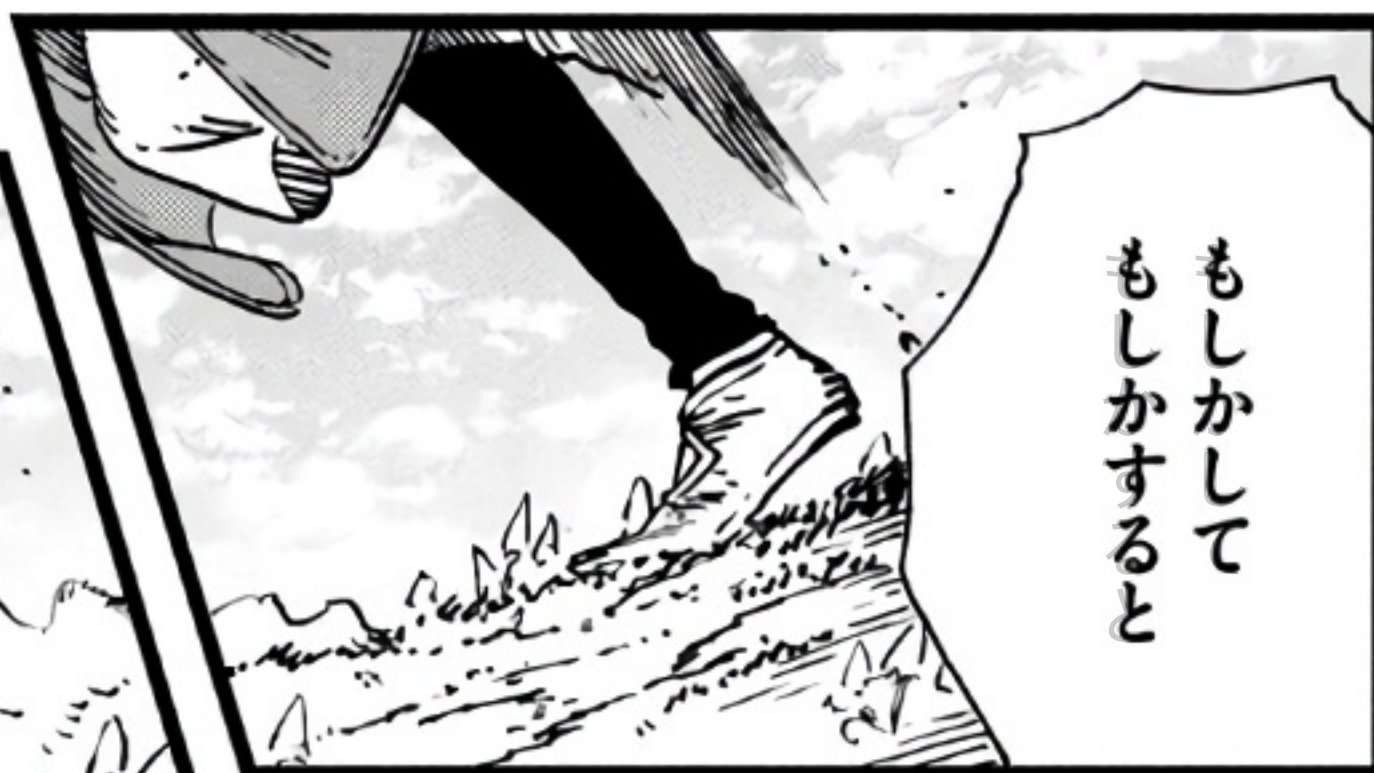
いつかの昔に
人が人のために
敷いた道
なんだよな

なら
もっともっと
もっとで...

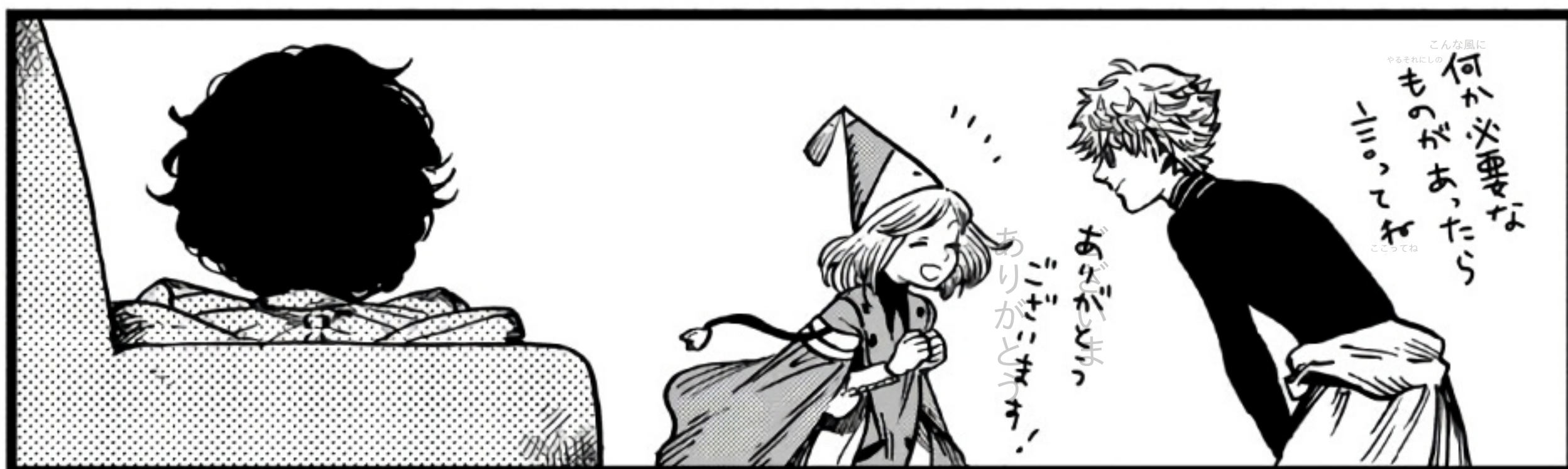
本当に
いろんな人の
ための道に
することは
できるはずなんだ

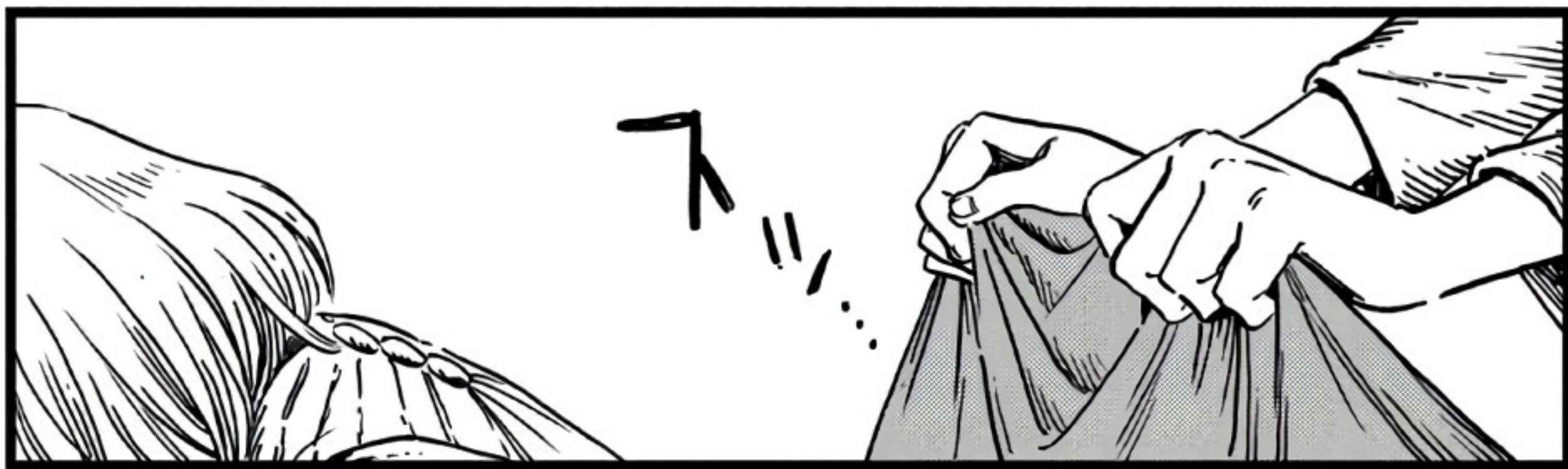
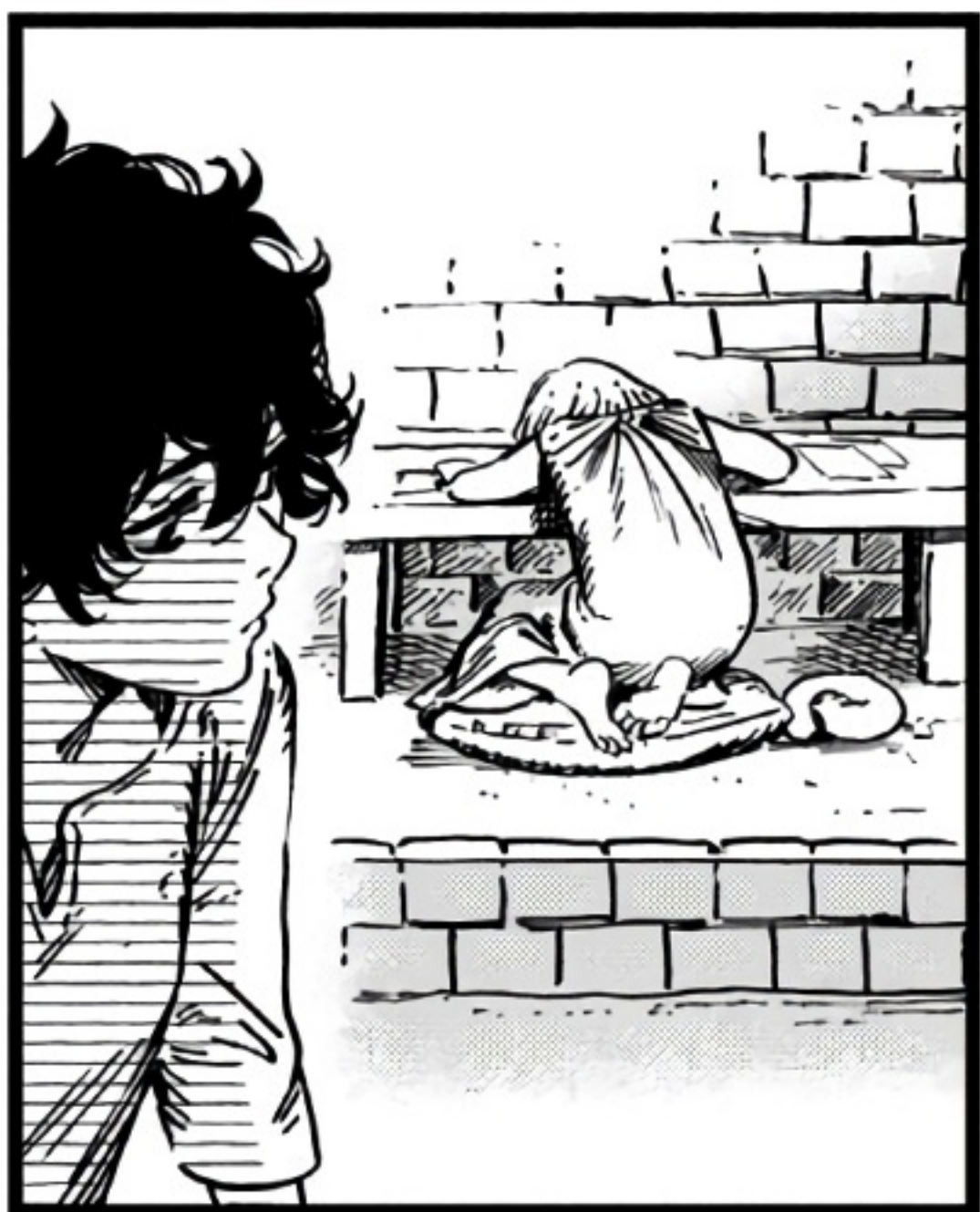


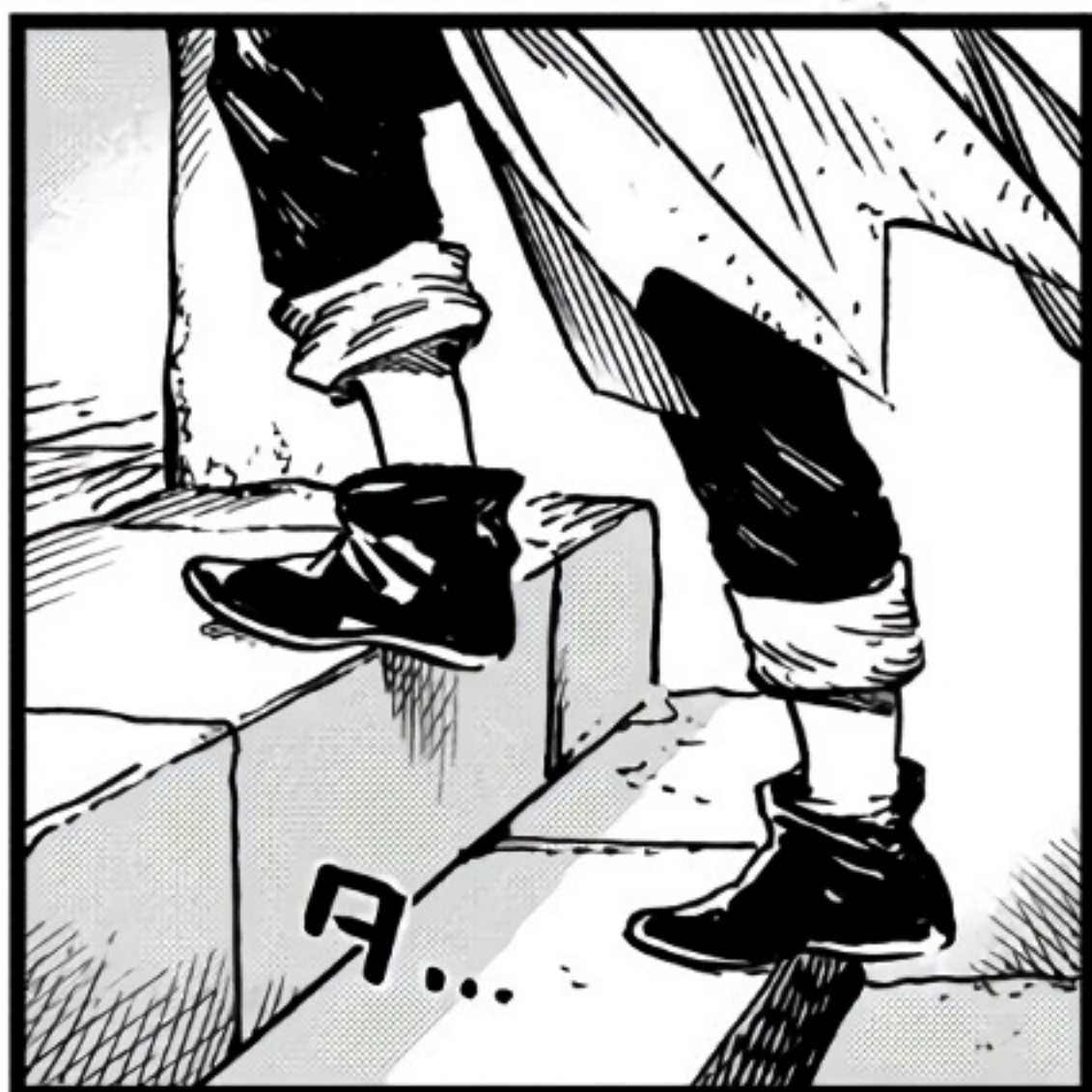
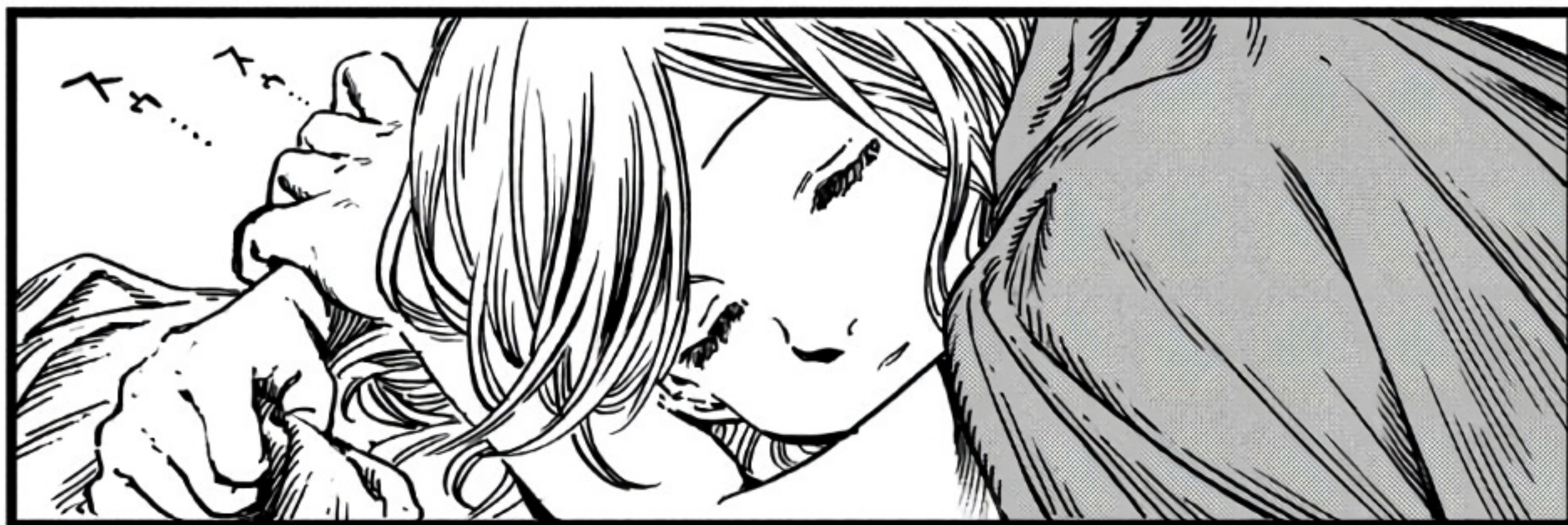




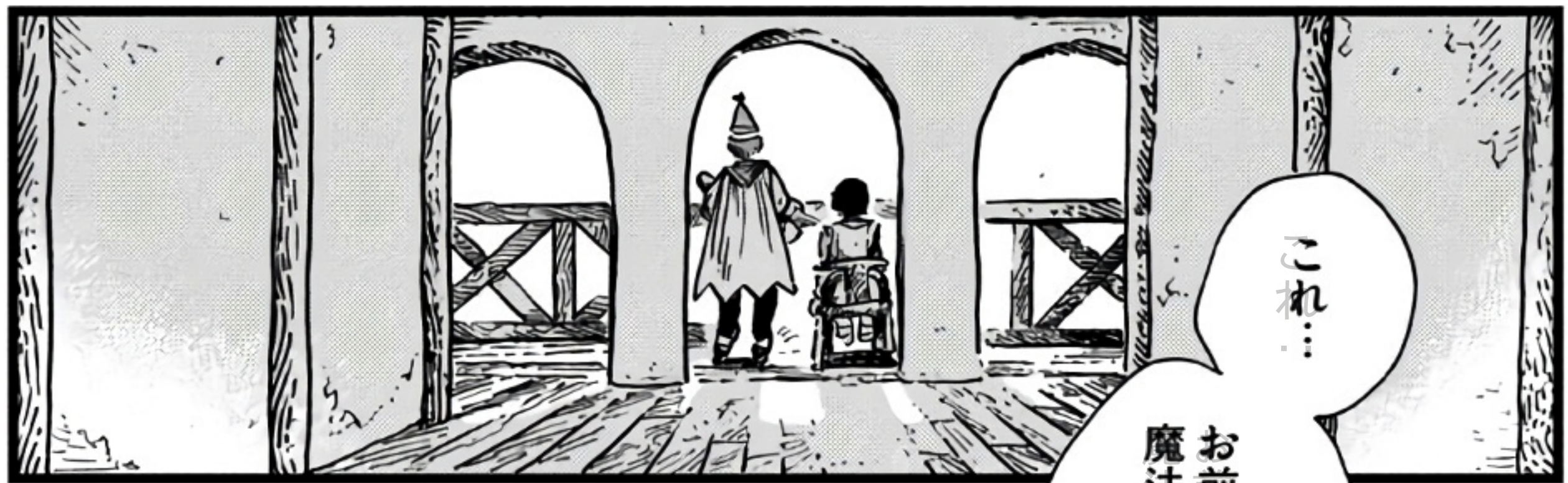


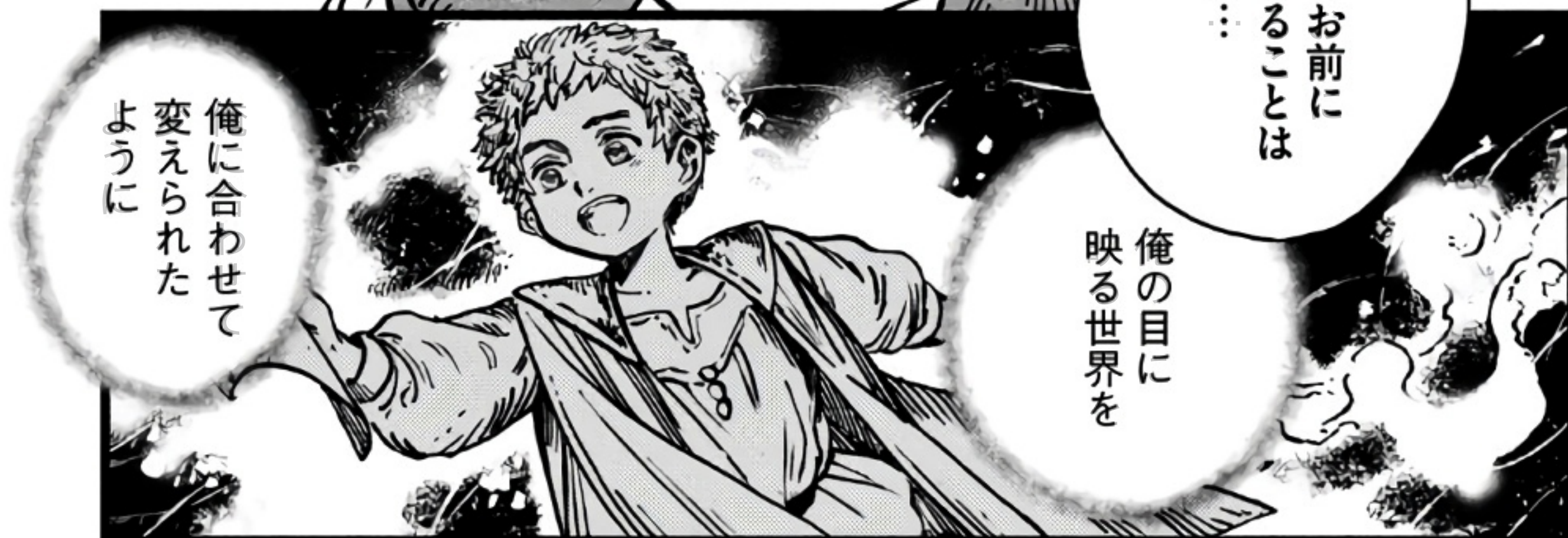


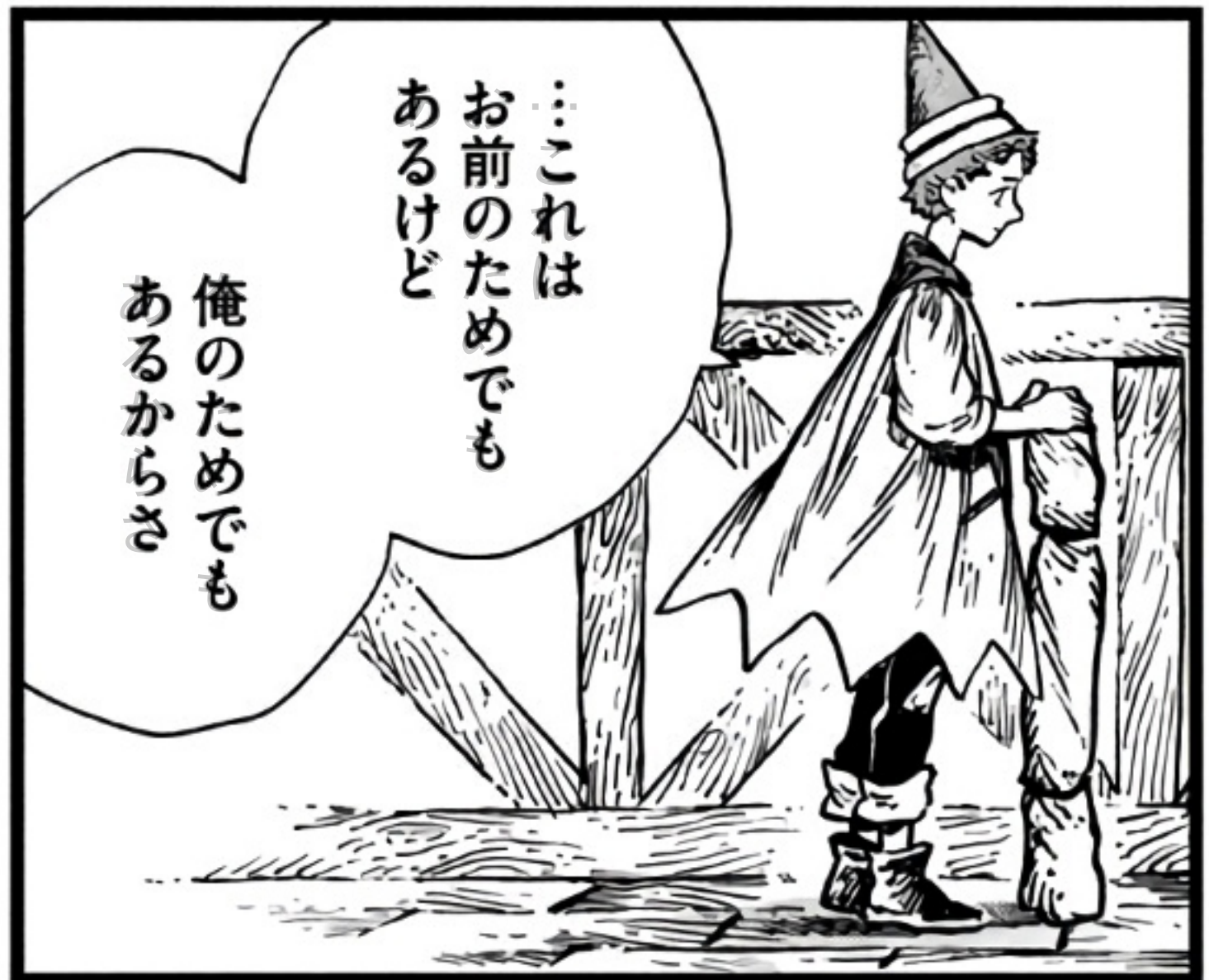


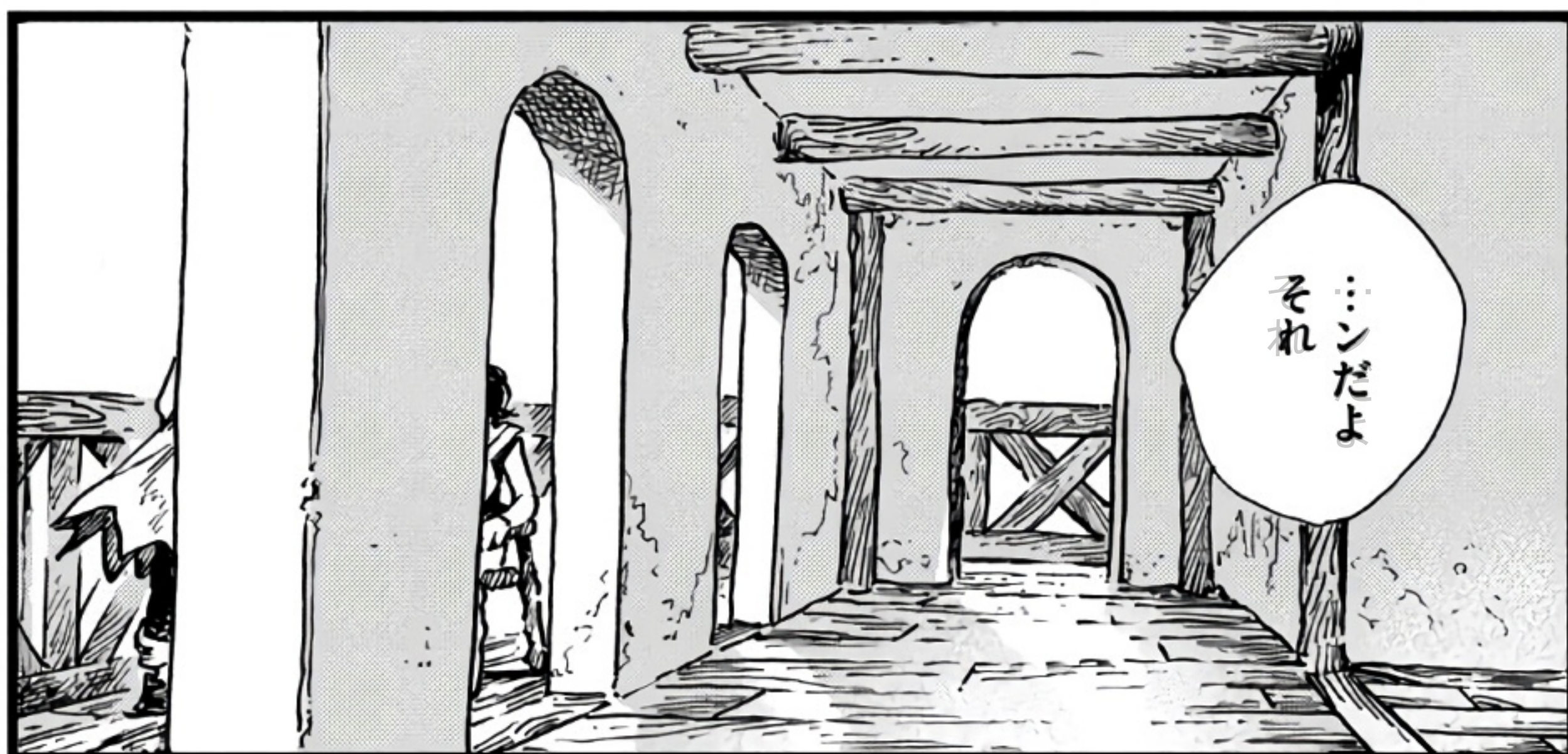














な
タ
タ



どっちが
助けられるんだか
わかんねー
じゃん！



俺が今も
生きてるのは

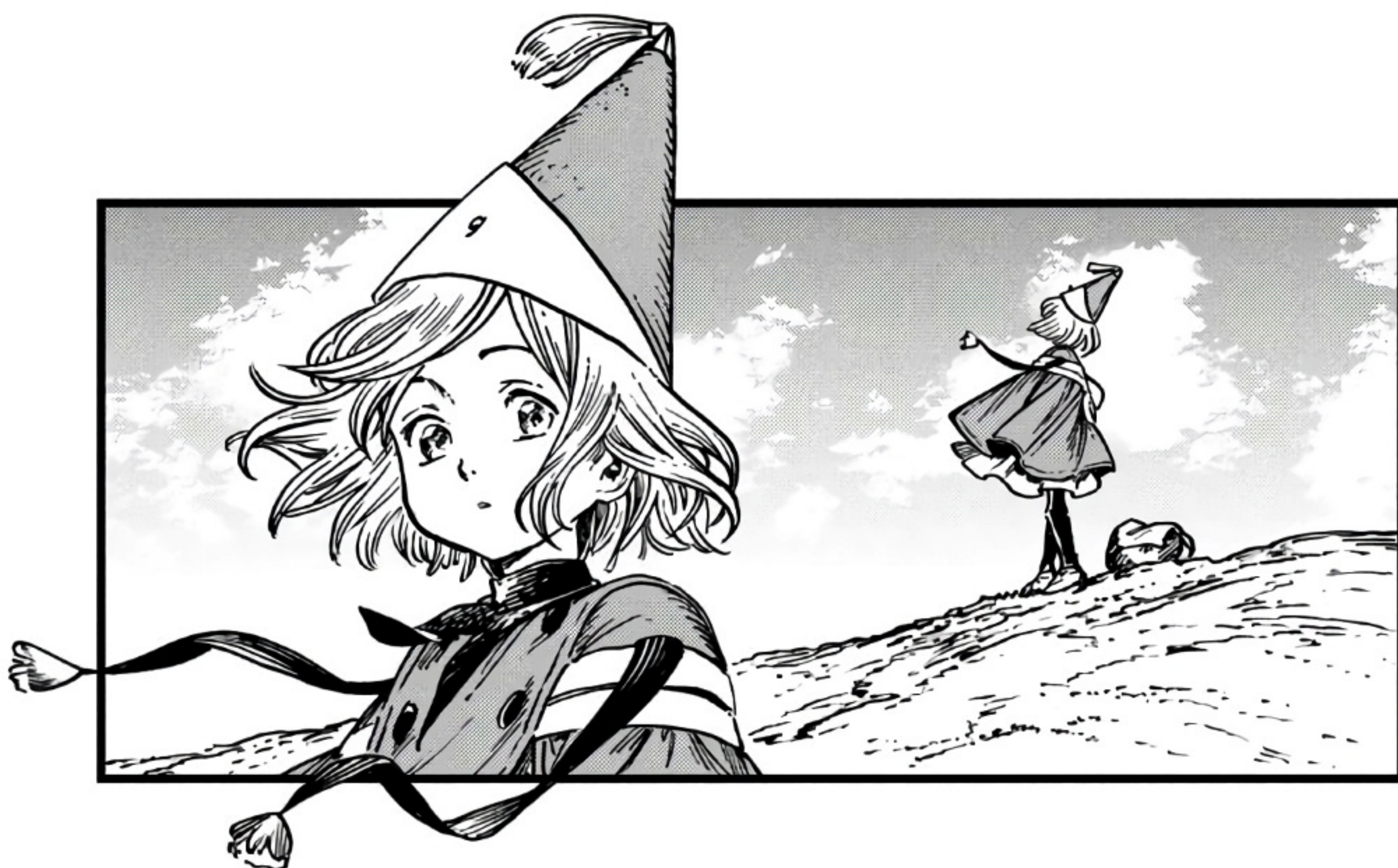
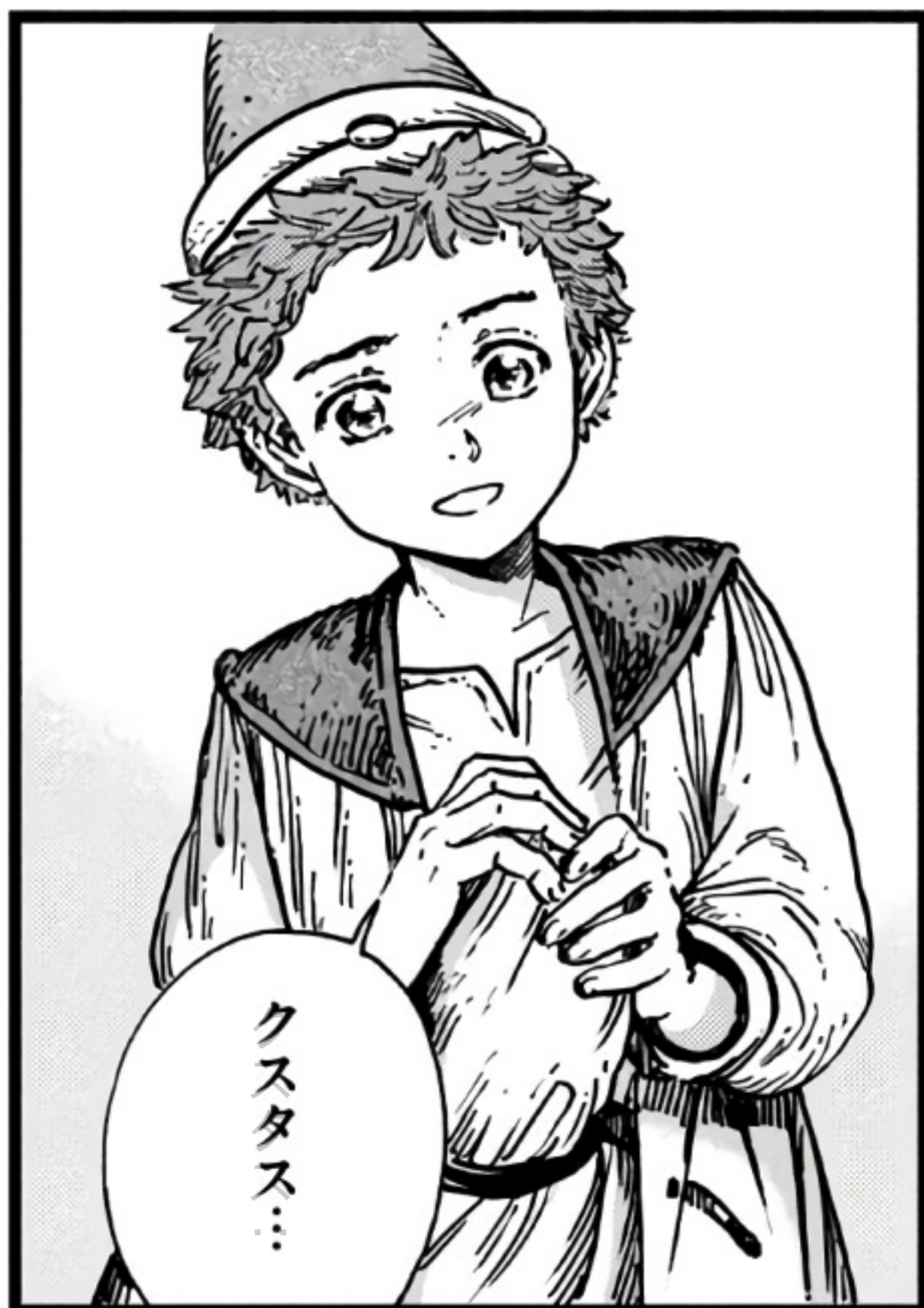
ダグダやココ
それにお前が
もう既に
助けてくれた
からなんだぜ

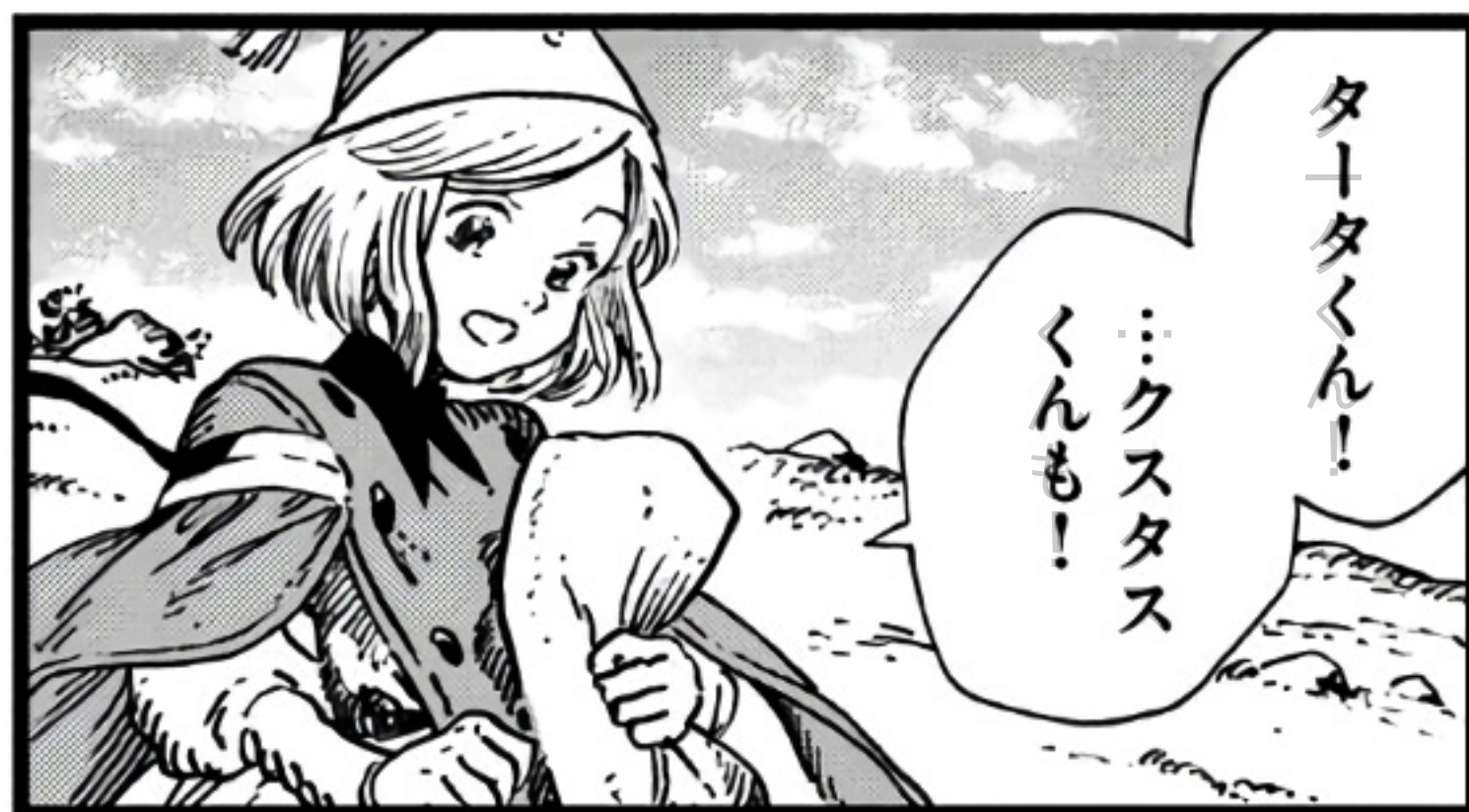
人を助け
られるやつって
すげえよ



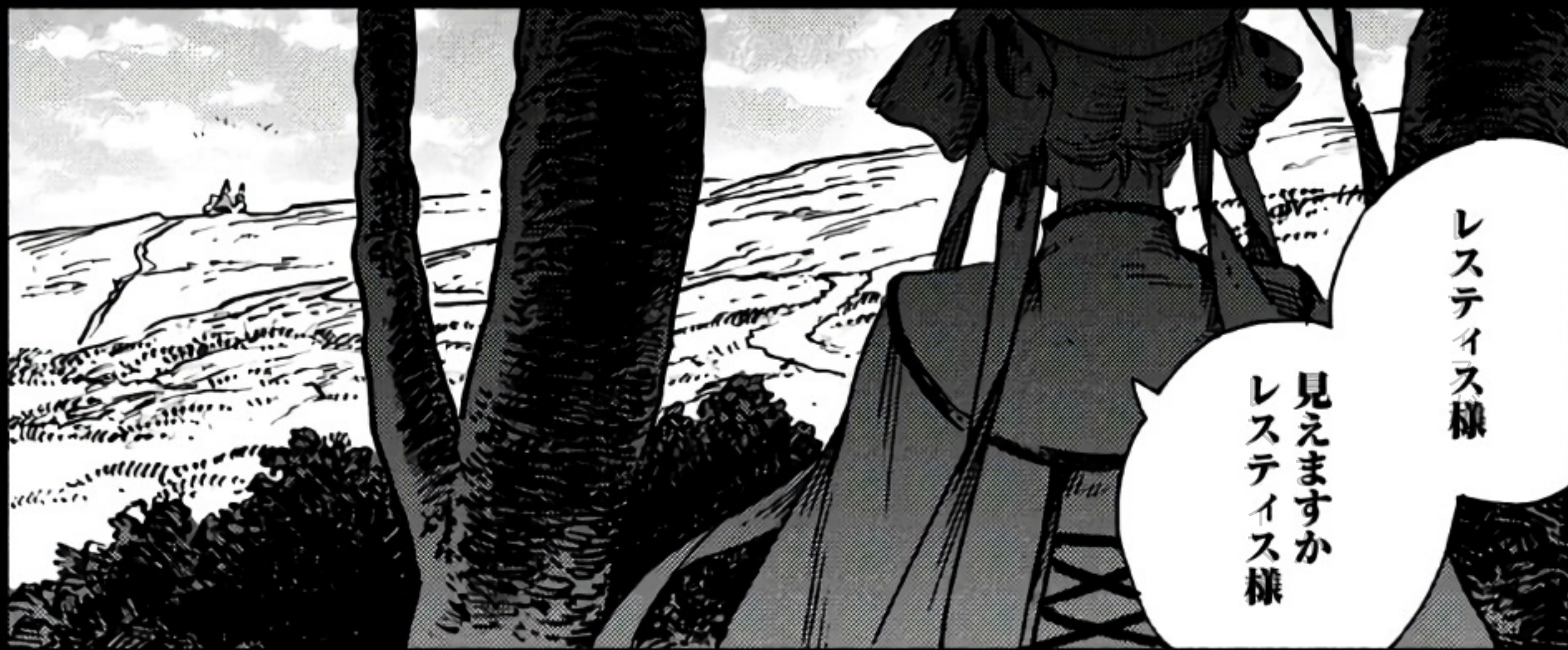
俺は助け
られてばっか
だけど

もし俺が
お前の助けに
なれんなら









レスティス様

見えますか
レスティス様



あちらに

魔法使い^{まほうつかい}さんが
いますです

《第45話》



運命は
あるって
信じる方だ



だって
そう思わなきゃ
しんどいだろ？

良い身分に
生まれた奴が
塔の上から
見下ろしてくる
かたわらで

泥の中に
生まれた俺が
どんなに
足掻いても

あの高さには
届かないん
だから

それが俺の
人生で

仕方ない

諦めろ

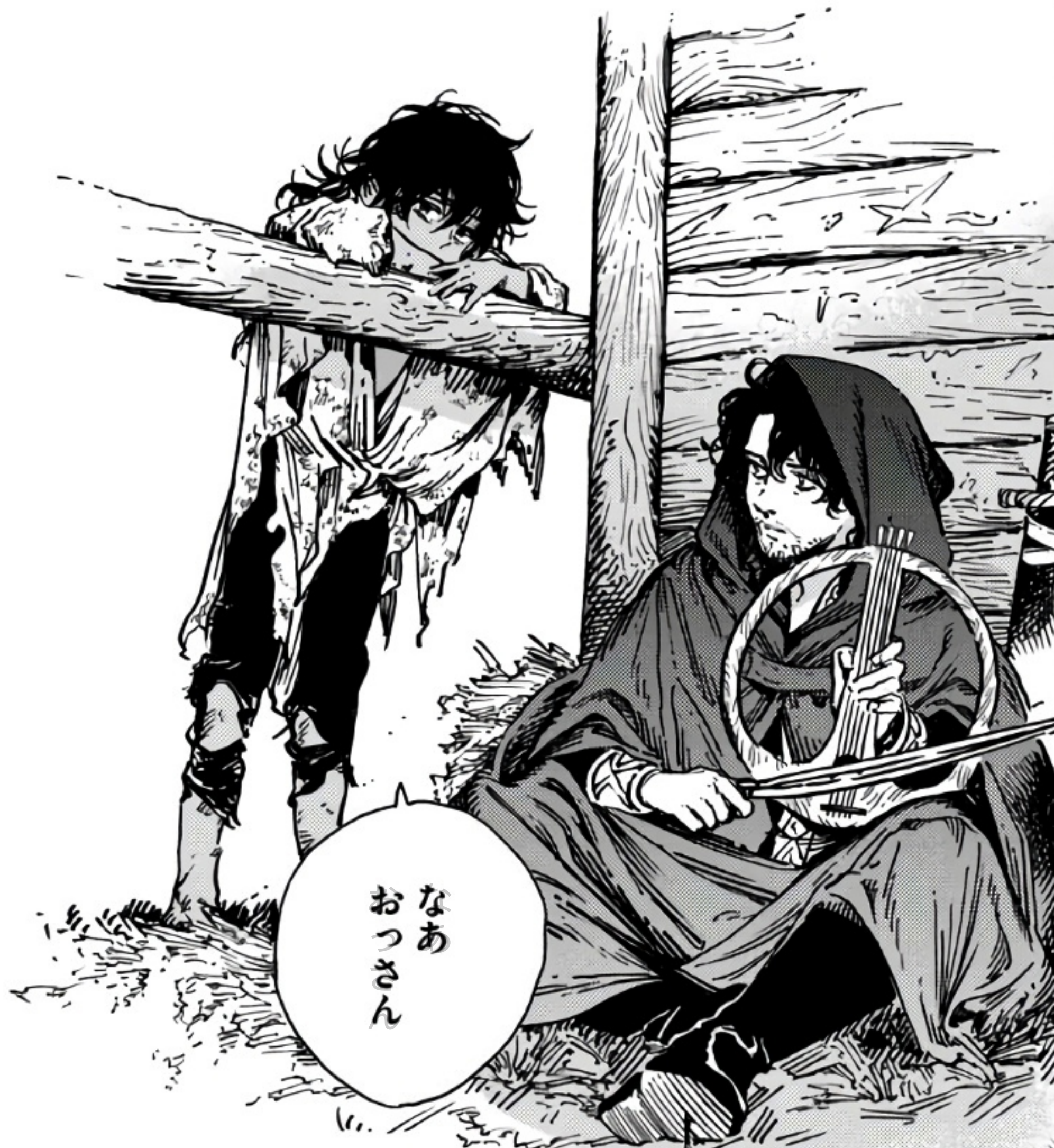
死んでないだけ
まだマシだ



それが俺の
運命…

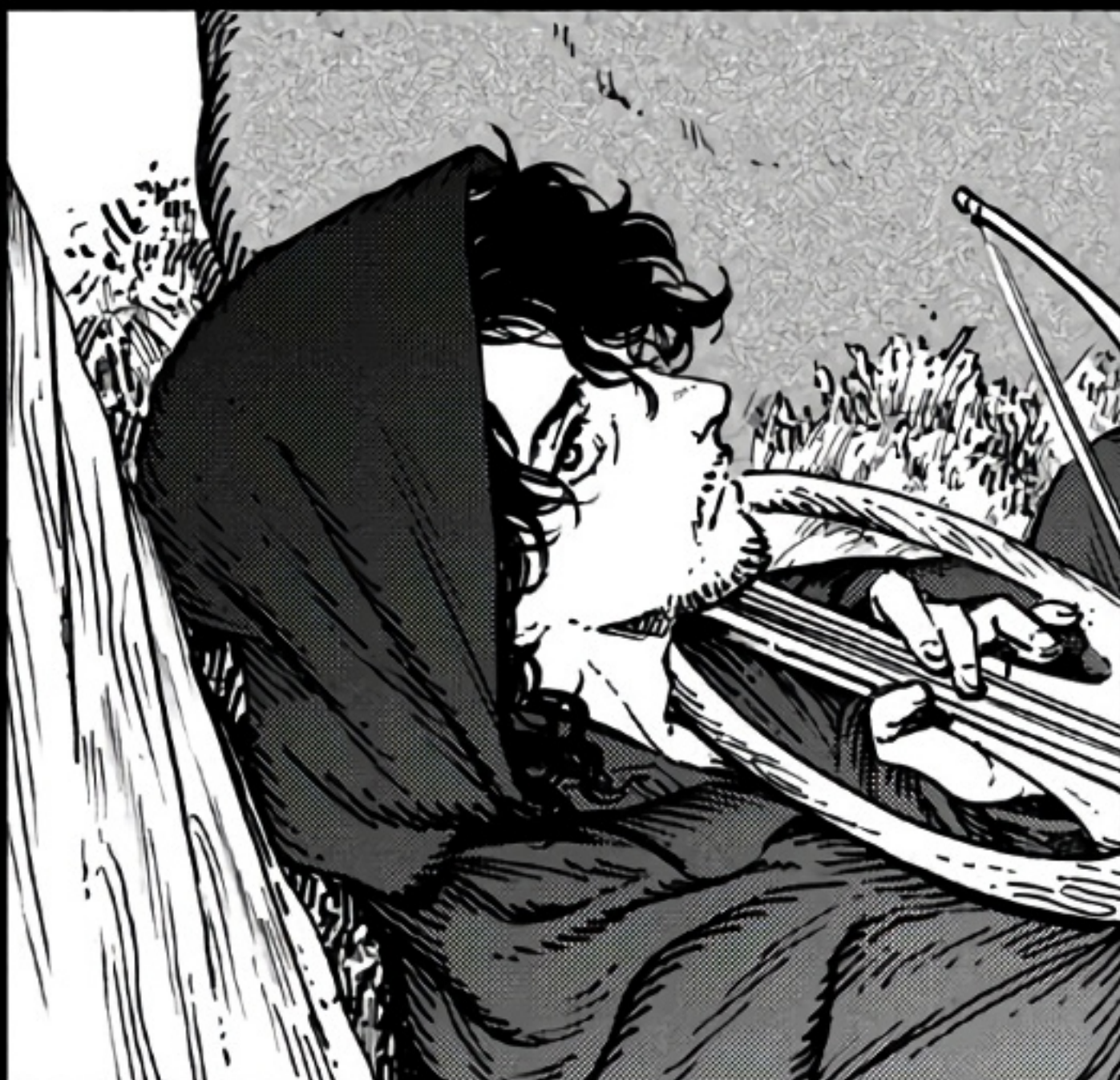


だった



なあ
おっさん





さつき
うたってた
のって本当？



運命に
絶望してる
やつこそが

運命の
檻^{おり}を壊せる
って詩^{うた}

本当？

運命は
あるって
信じる方

だってないと
ぶっ壊せ
ないだろ？



仕方ない？

仕方
なくない

だって
ほら
見てみろよ

諦めろ？

必要ない



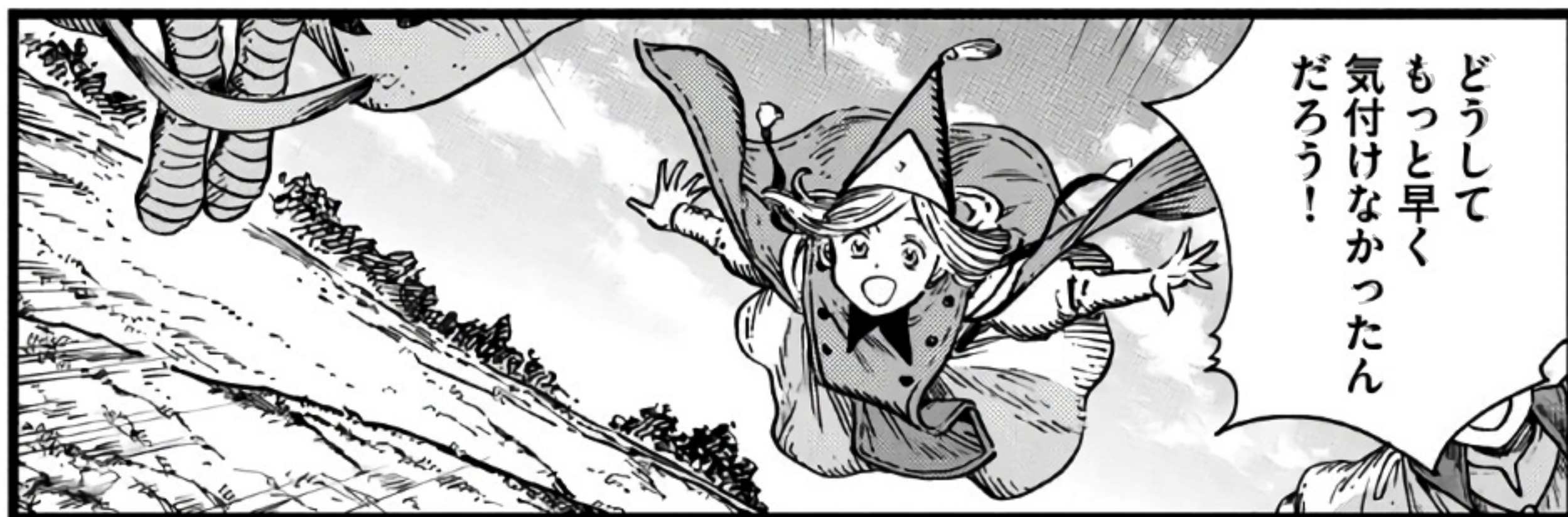


俺は今

どんな塔よりも
高い所にいる！

っはは！

すげえ……！



どうして
もっと早く
気付けなかったん
だろう！



魔法使いが
歩くのを
大変だと
思わないのは

でこぼこ道でも
橋のない川でも

飛んで
移動できる
からなんだ！



変えられ
ないなら
増やせばいい！

魔法で作った
その「浮力」は
お前の味方だぜ
クスタス！



世界中の道を
変える力は
俺たちには
まだない…

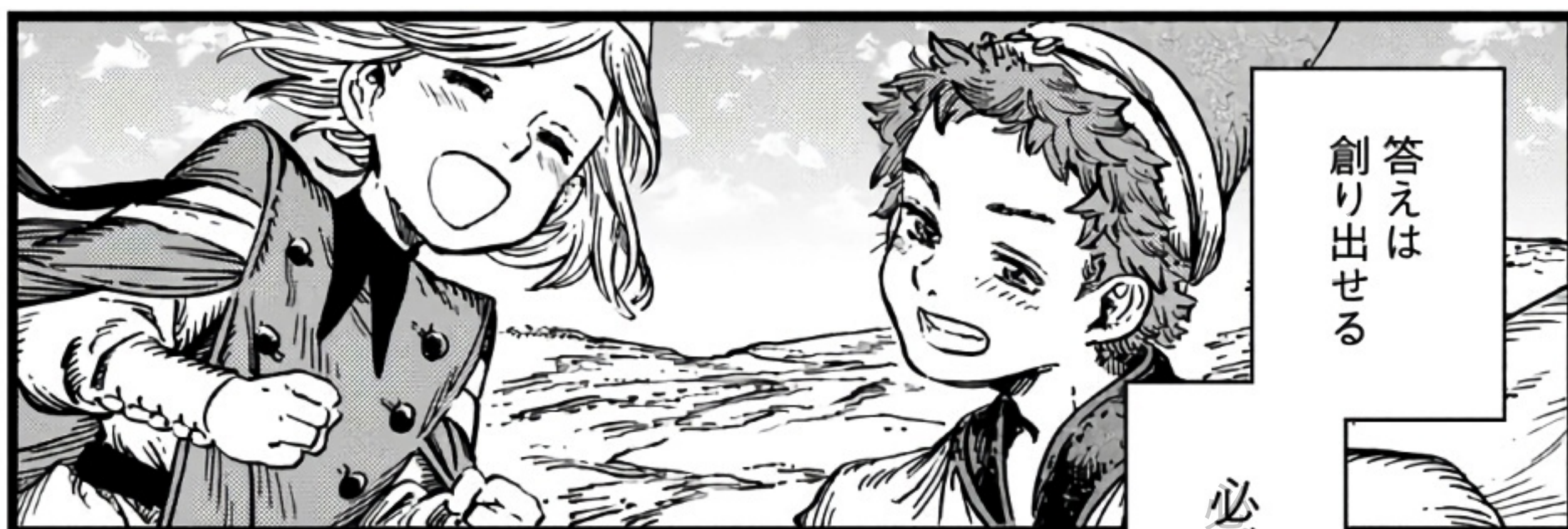
だけど！

問題が

困難が

どんな形を
しているかを

真正面から
見つめられれば
解決法は無限に
ある



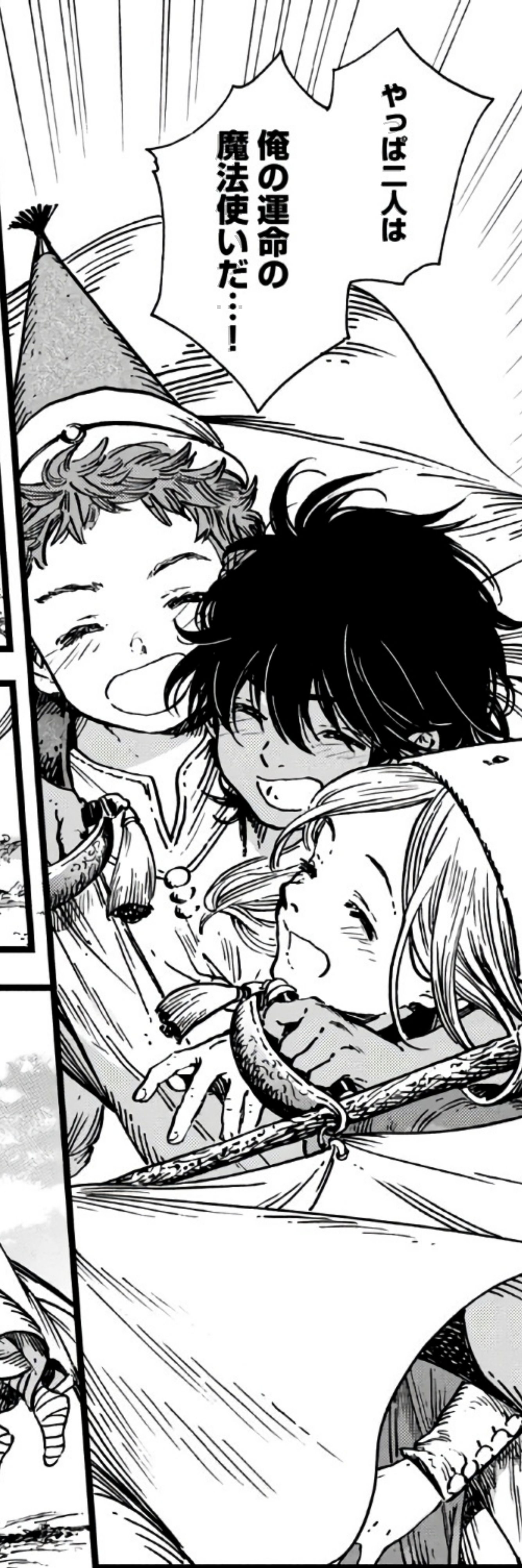
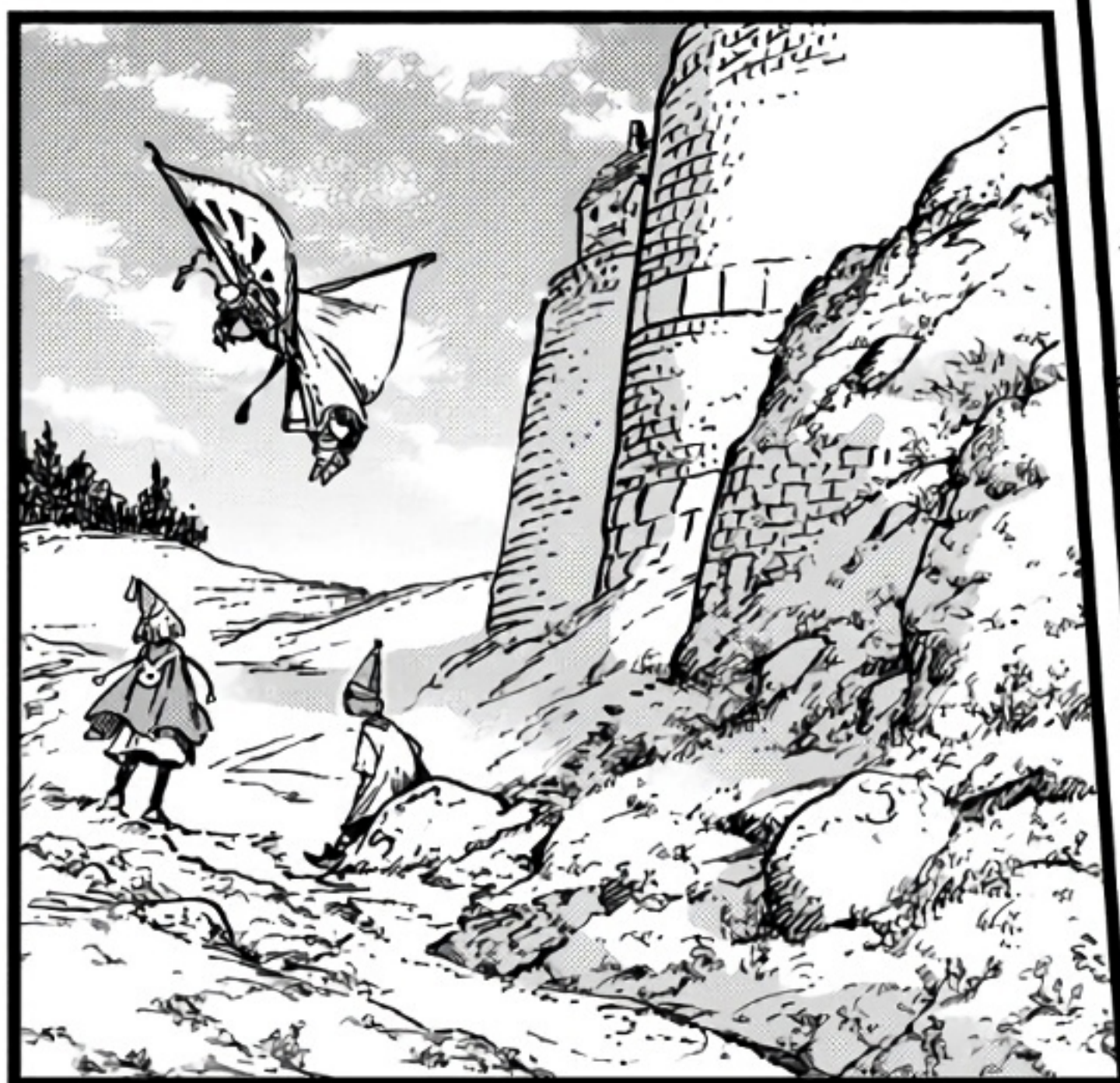
答えは
創り出せる

必ず



最高
だよ!

ユコ!
タタ!



下に行く時は
前足を改造した
風繰りの杖を
使ってくれ

へえ

引き金を引くと
先端から風が出るから
飛んでる時の
方向転換にも
使えるぜ！

こっちの
翼外套には
雨や汚れを
弾く魔法も
かけてあるよ

ただ破れたり
燃えたりしたら
魔法も消えちゃうから
気を付けてね！







あつあのあれ
危なくはない
ですよ!!

わたた
あのからの
高さなら
俺たちも
飛んでるし

わたた
そうそう
むしろ私たちよりも
もっと安全で
落ちにくいというか……!

わたた

わたた

いや……
非難する
つもりはない

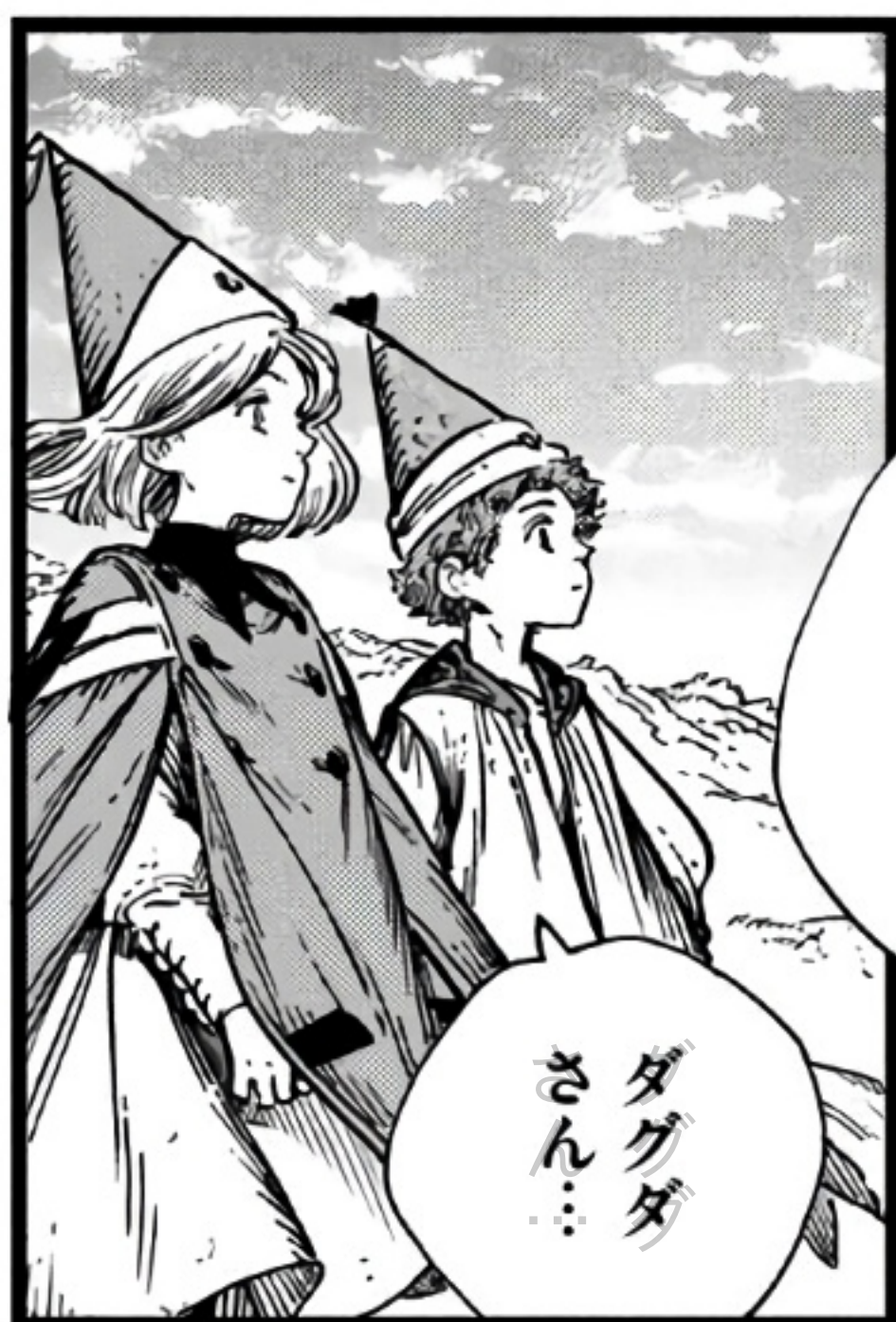
礼を
言いたかった
んだ

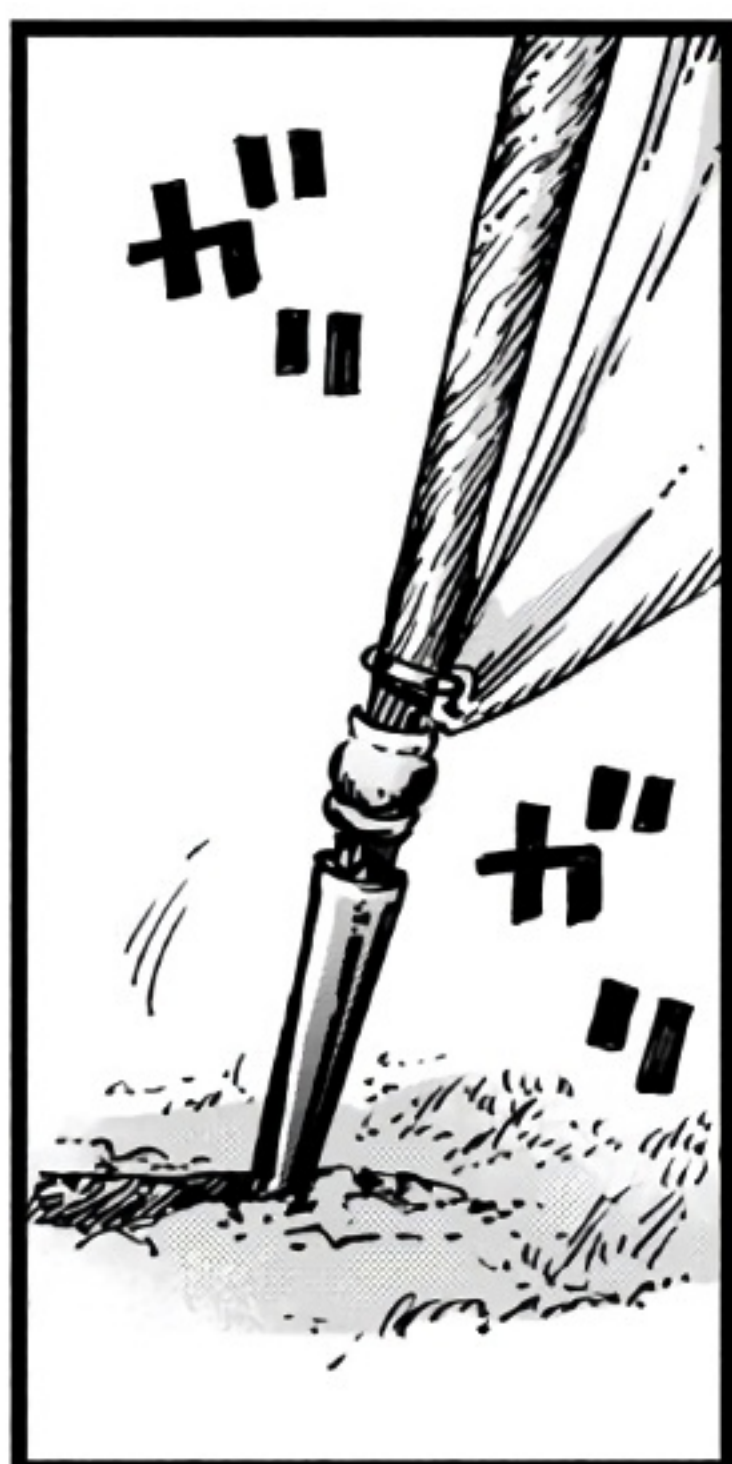
え?

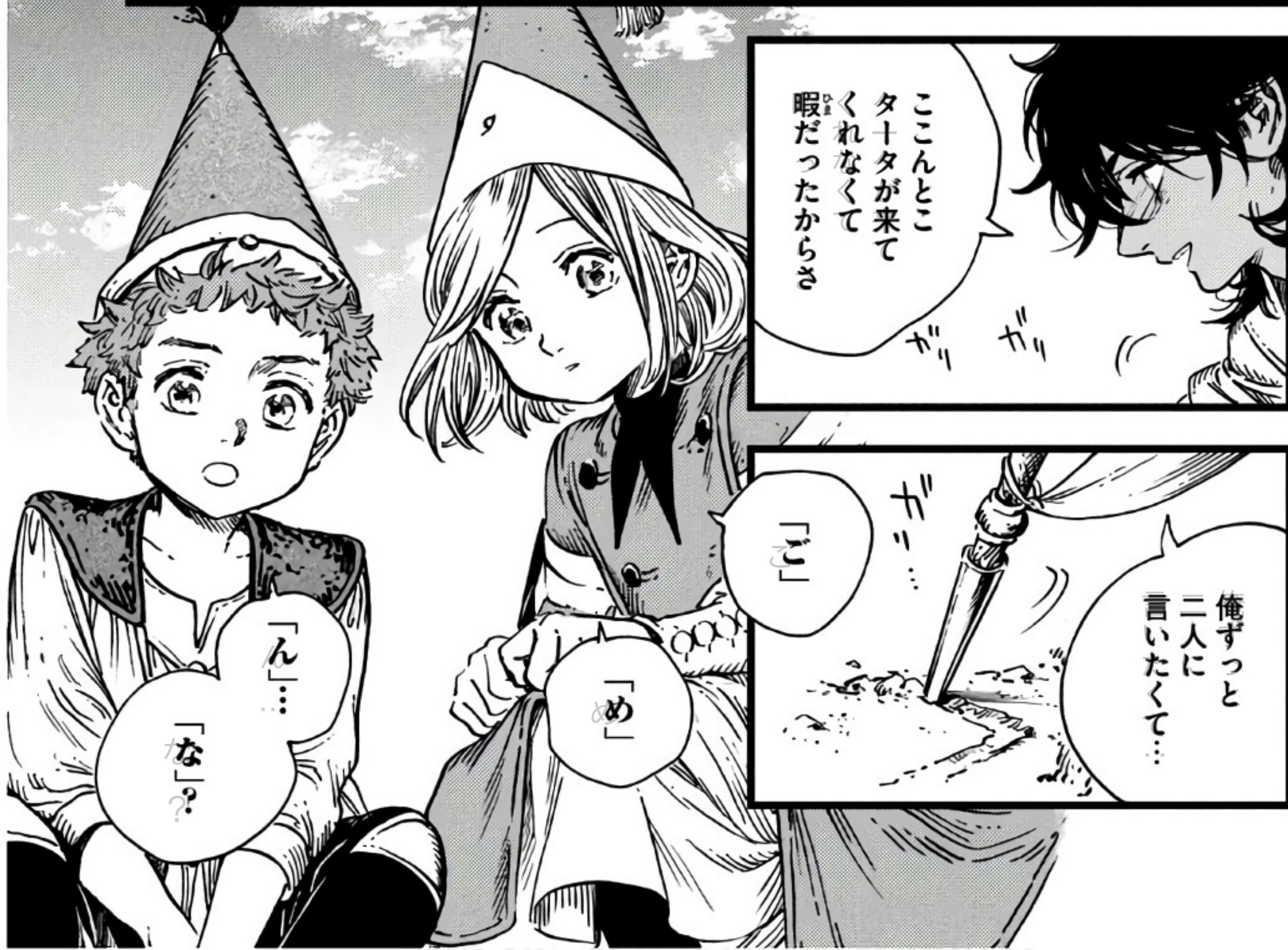
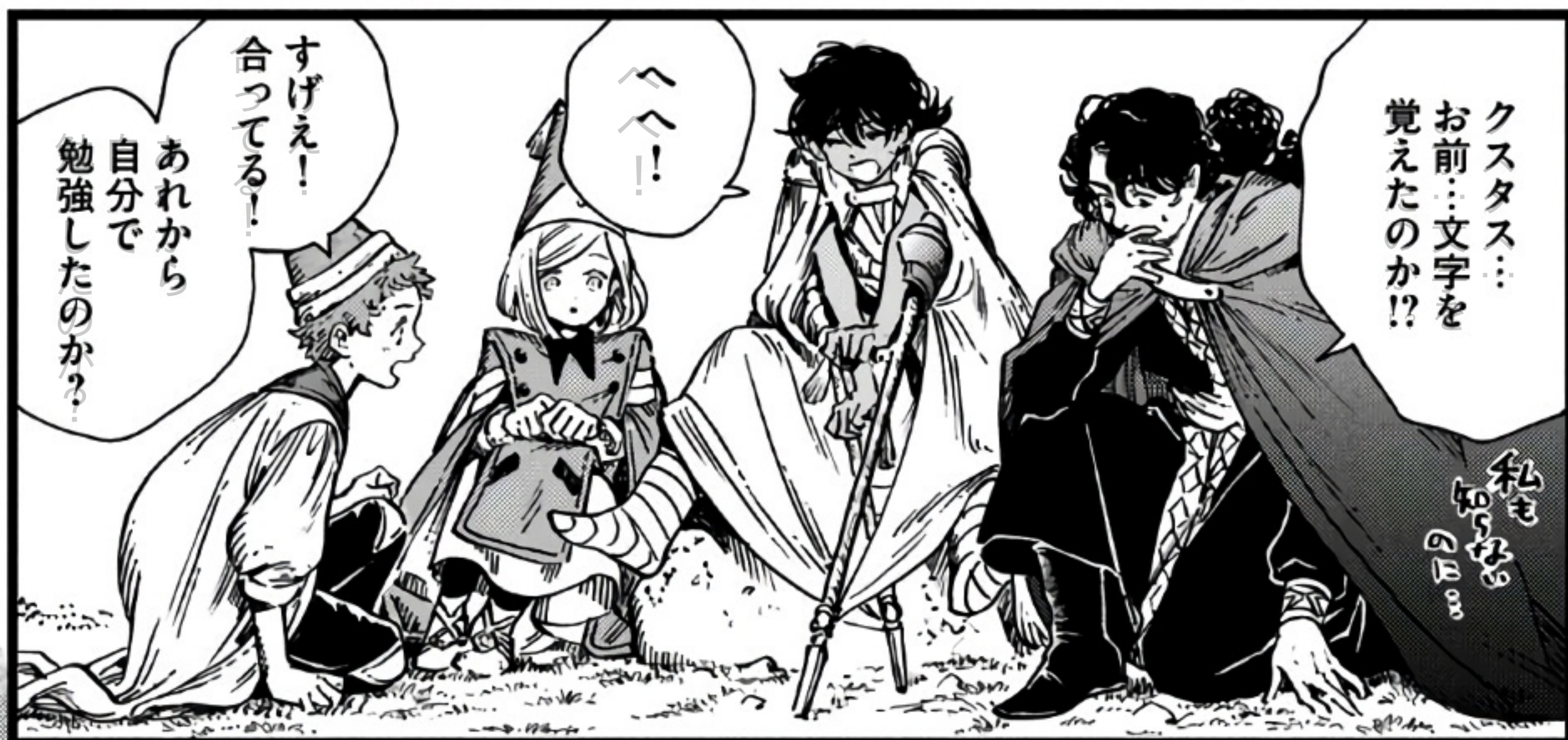
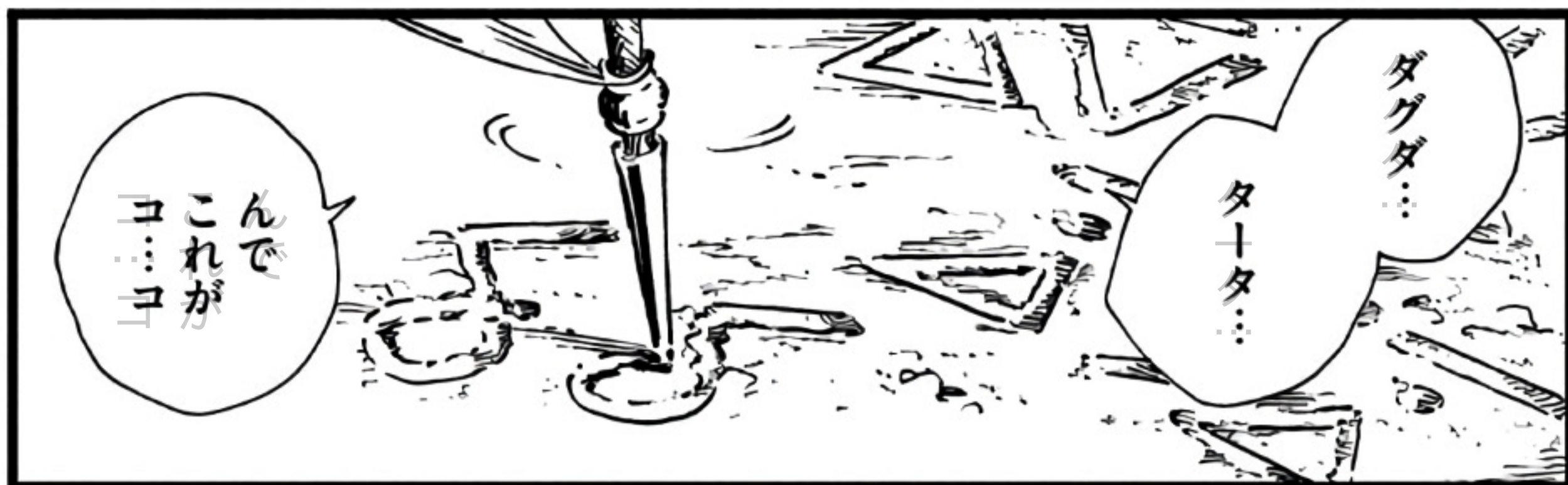
ありがとう

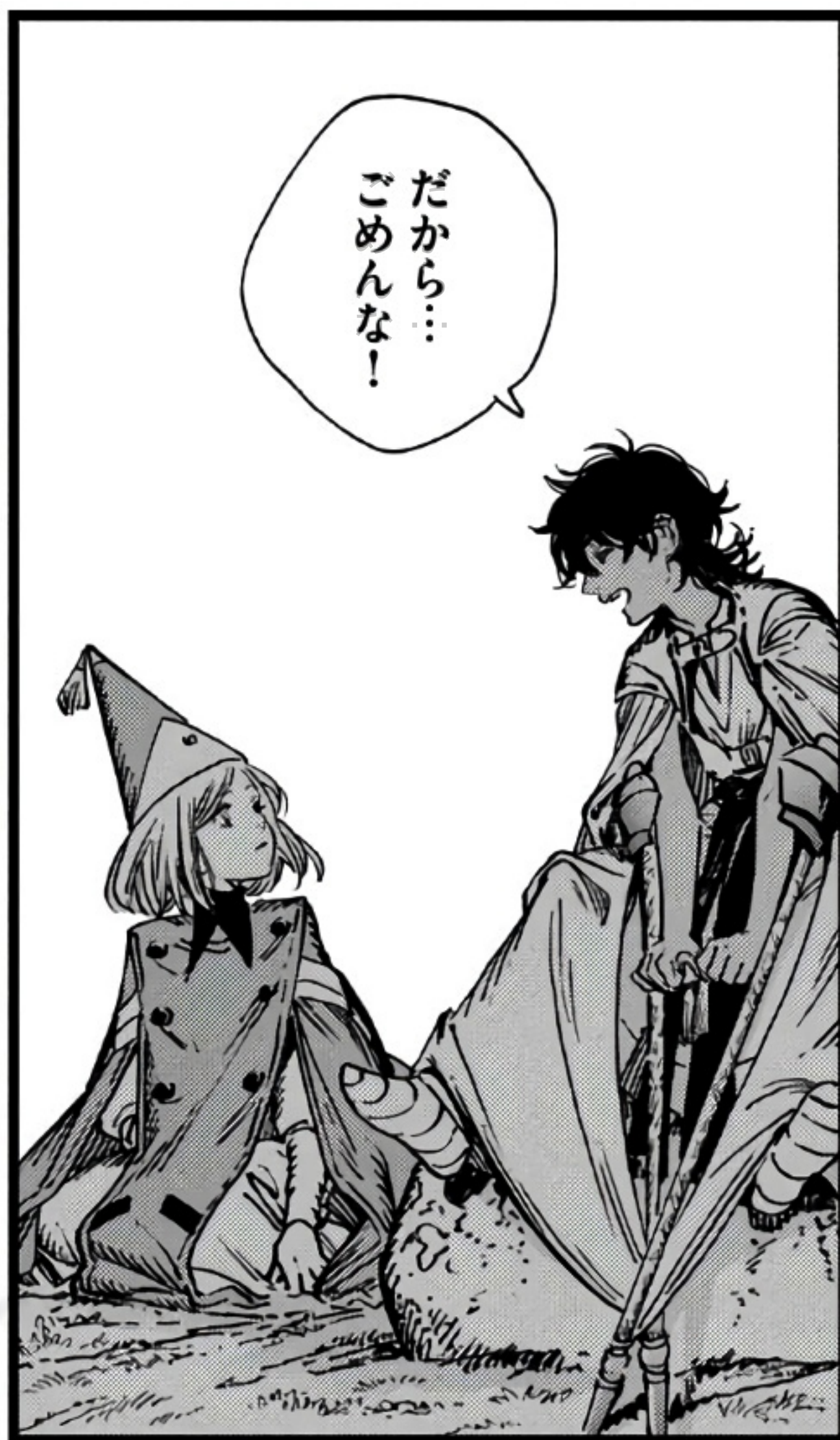
クスタスに
魔法の奇跡を
くれて……

最近はずっと……
笑顔でもどこか
無理している
ような顔だね











あいつら
近いうちに
カルンを
出るって…



クスタスが
楽に移動
できるよう
なったから

また旅を
続けるん
だって…



俺…あいつに
教えるべき
だったのかな

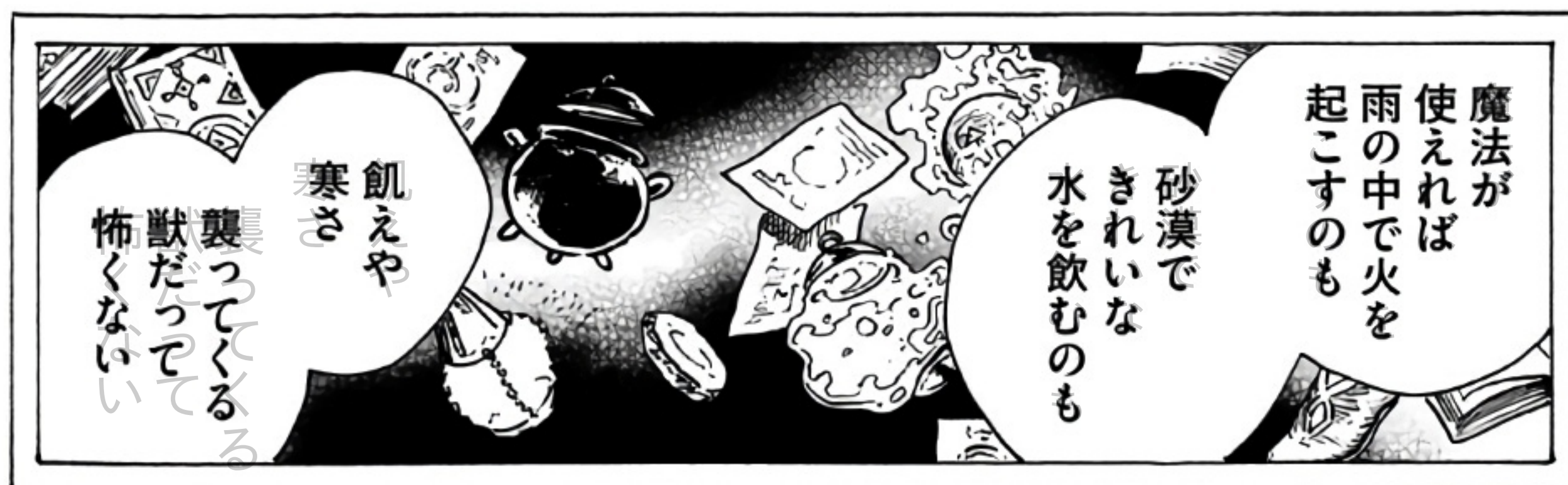


…なあ
ココ



薬草の
種類よりも

文字よりも



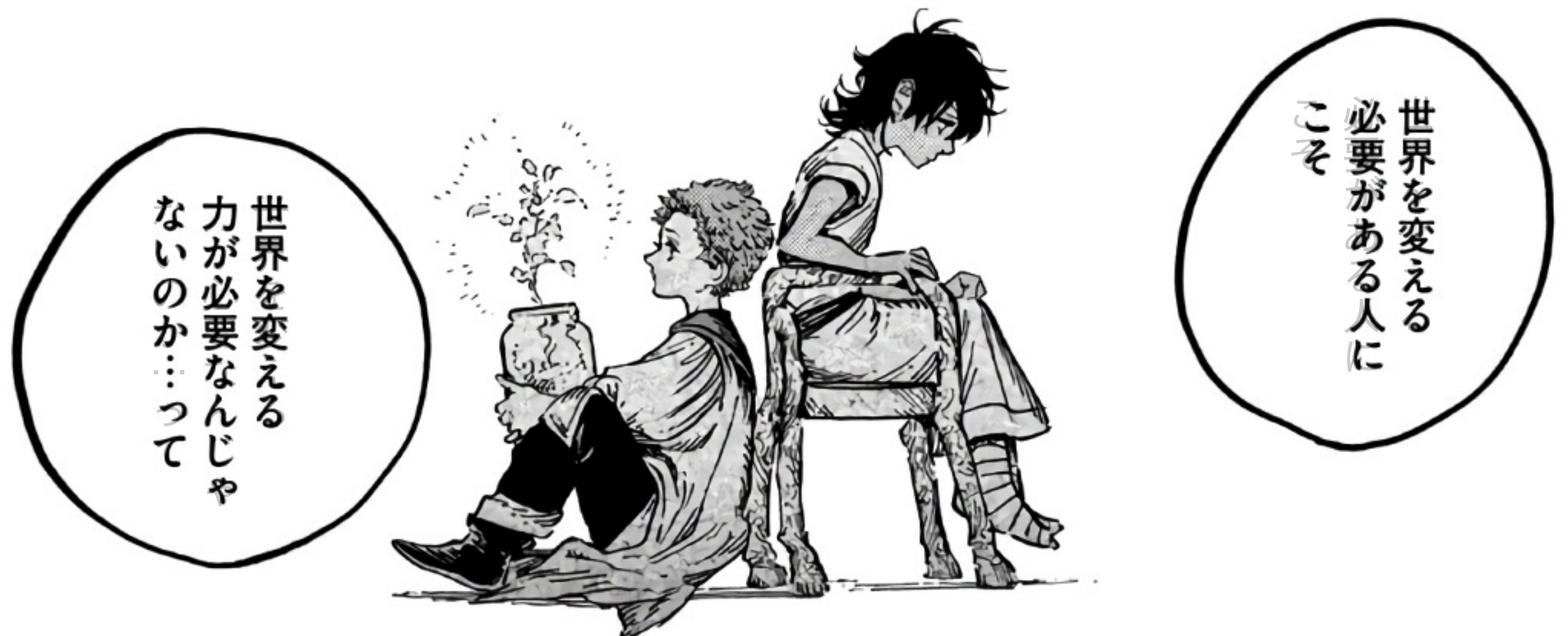


それって
本当に
正しいの
かな



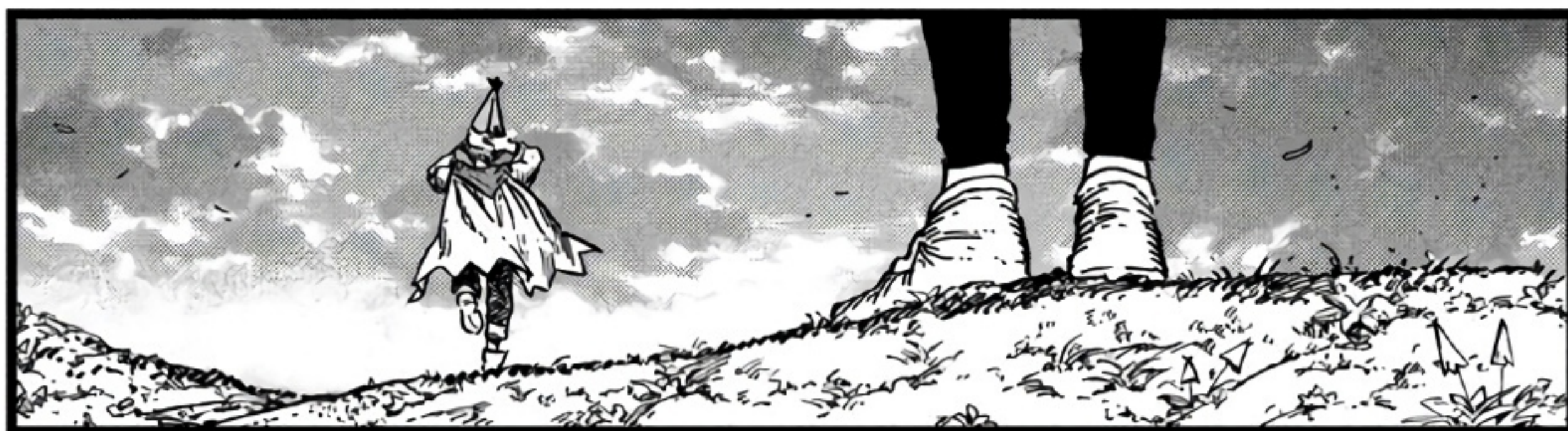
俺
思うんだ

本当は



世界を変える
必要がある人に
こそ

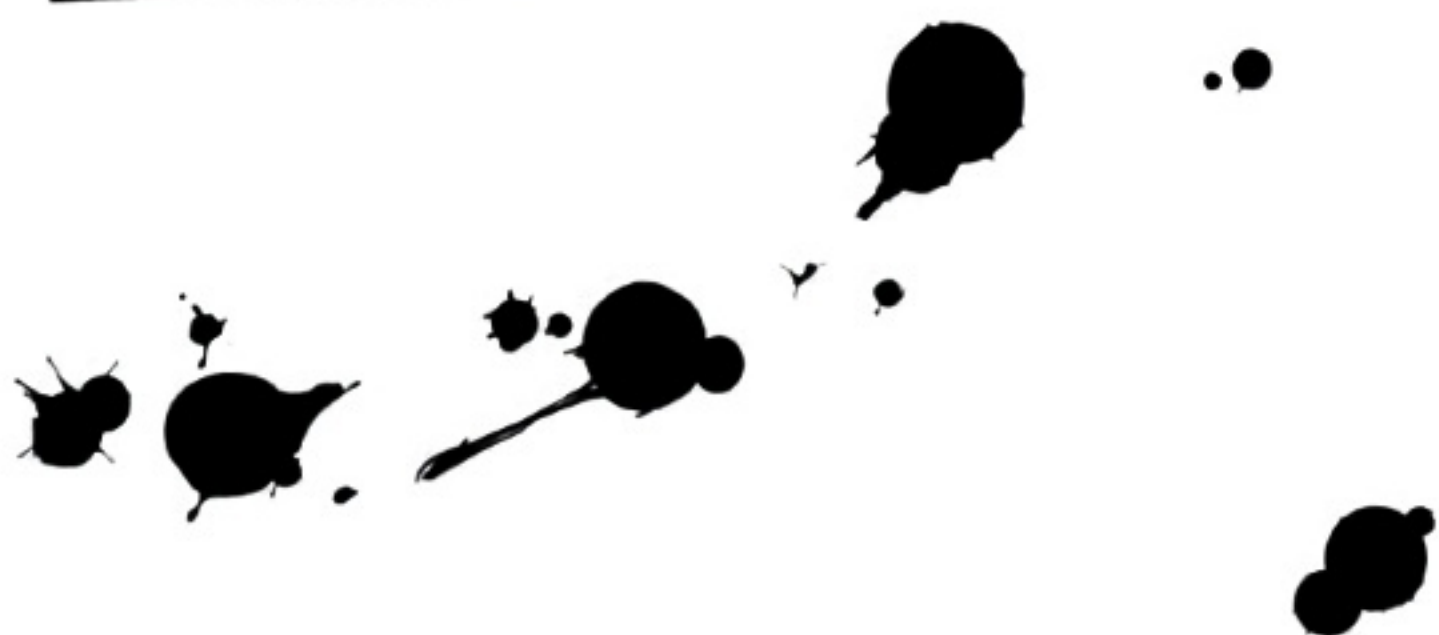
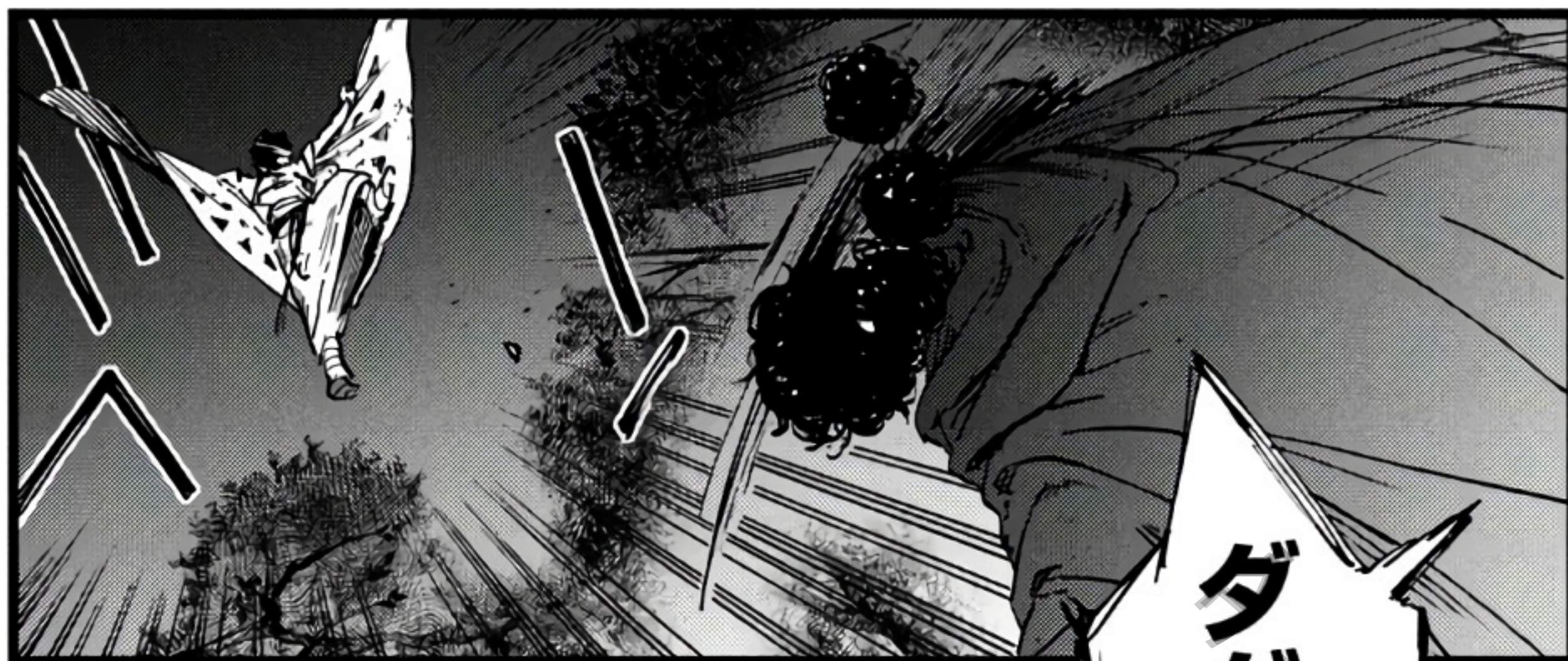
世界を変える
力が必要なんじゃ
ないのか……って

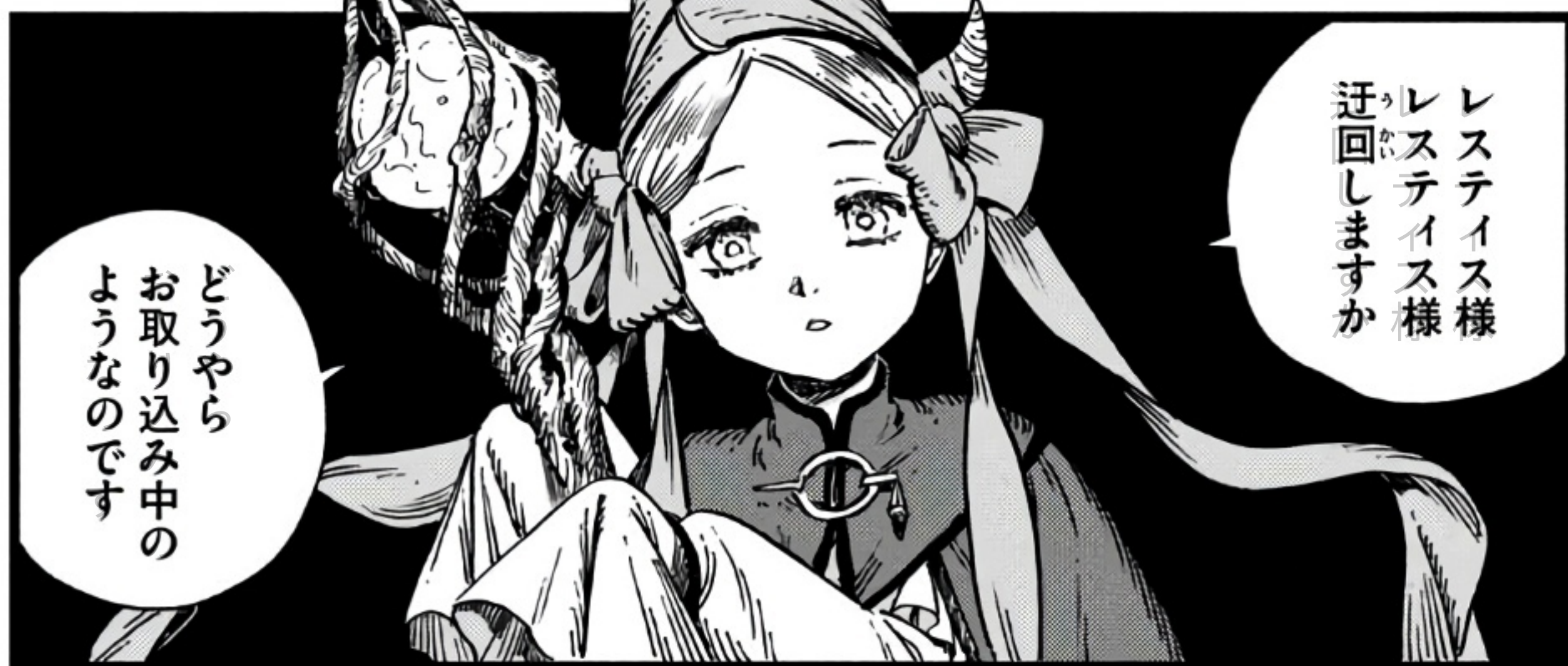


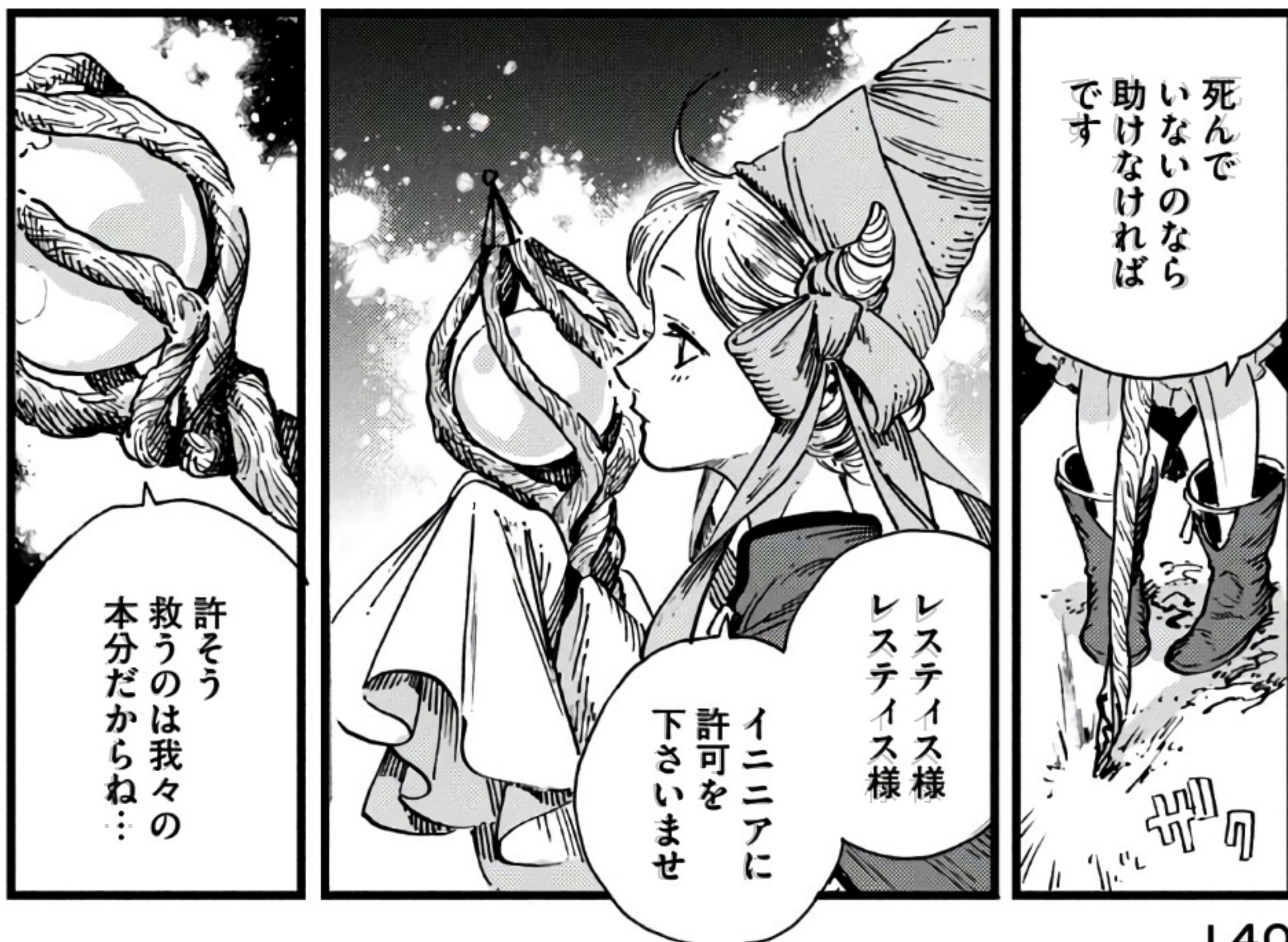


















いにしえの
帽子を被る
者達こそが



イニニアの
主人の
レステイス様は

本当の意味で
人々を
救うのです



本物の
魔法使い
さまなの
ですよ



少年…君も
見たところ

我々の「救い」が
必要なのでは
ないかね？



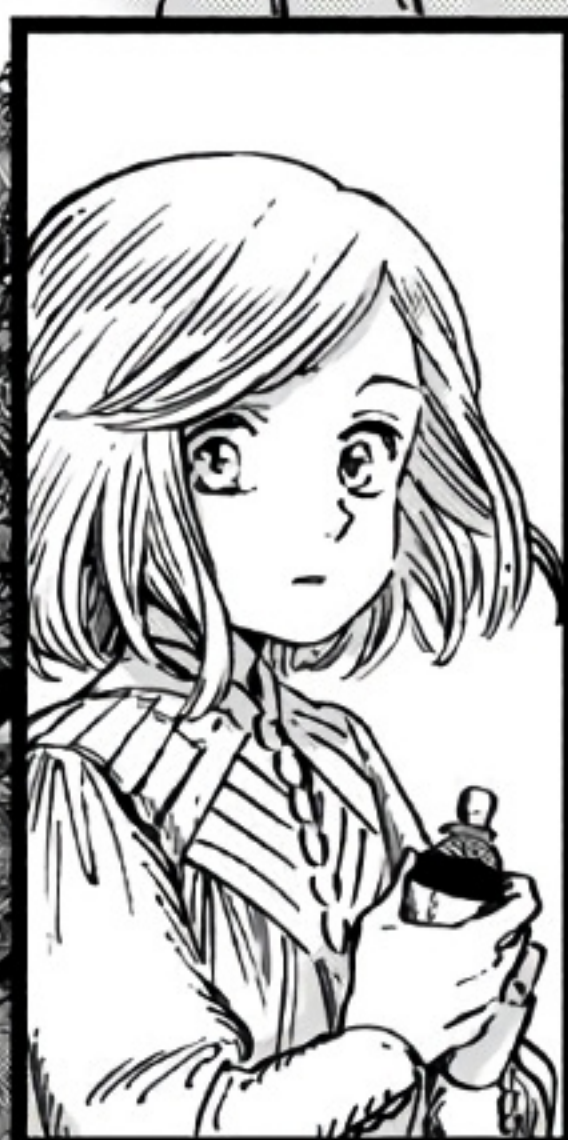
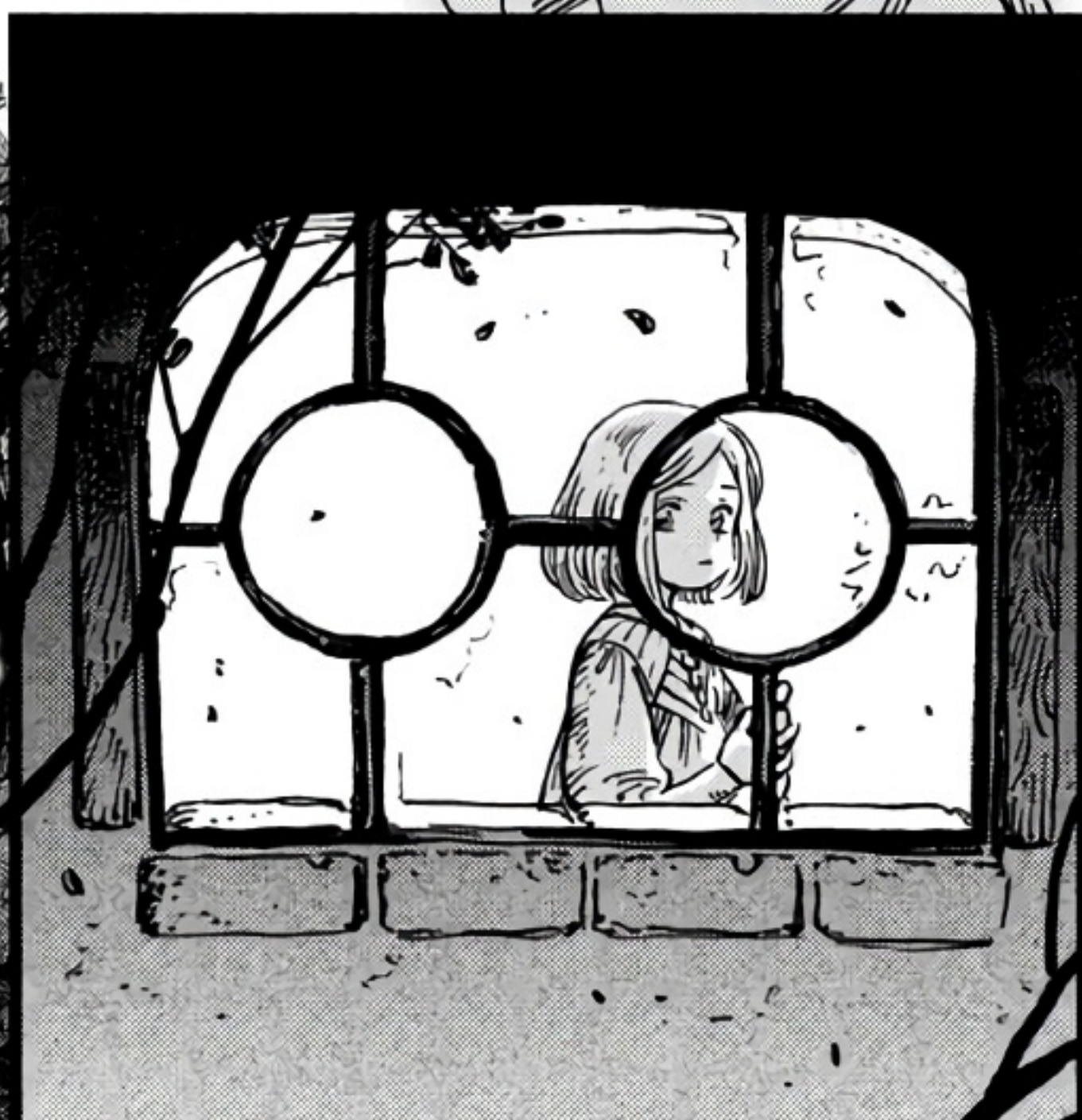
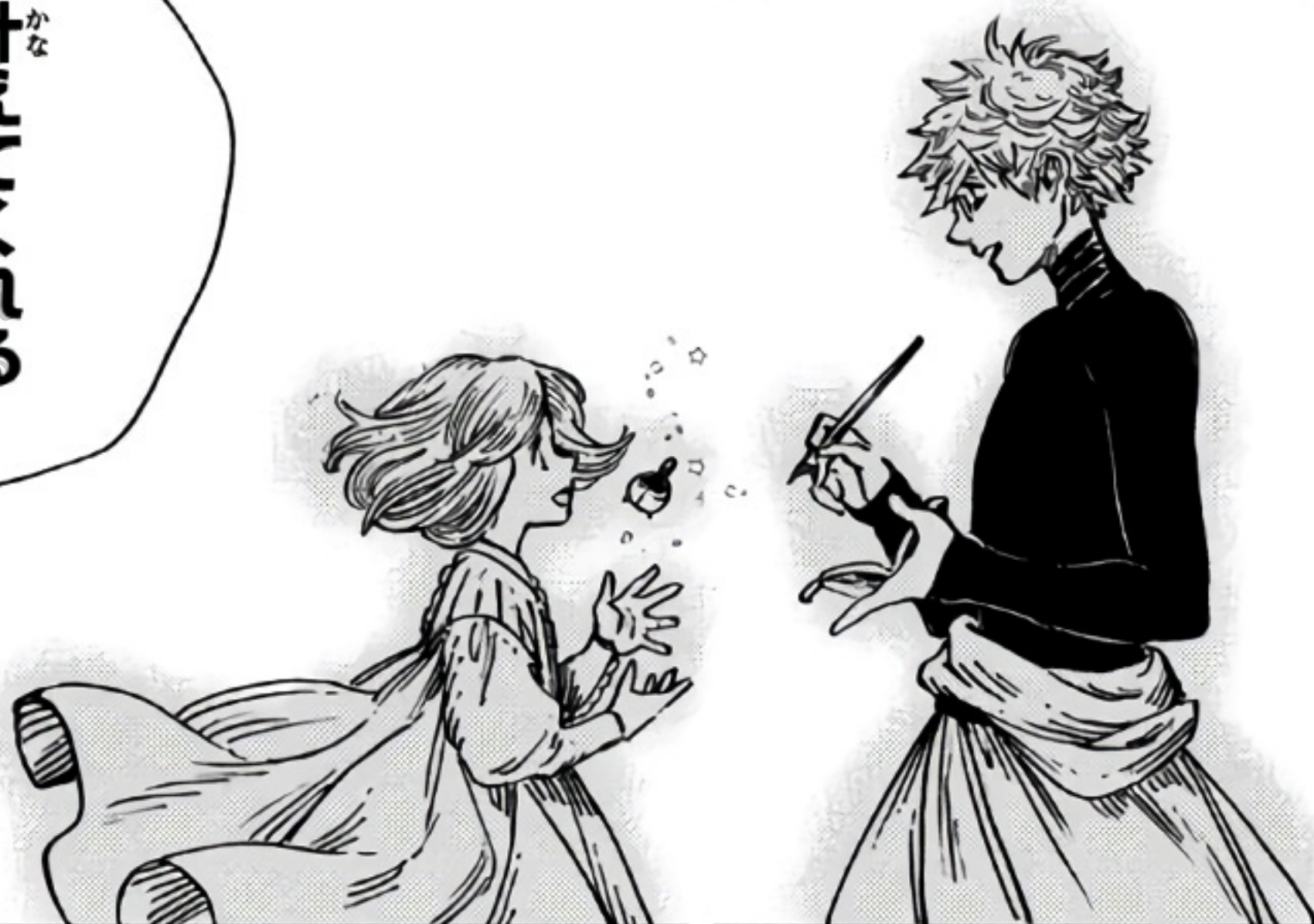
本来…そう
魔法とはね



星に願えば
どんな望みでも



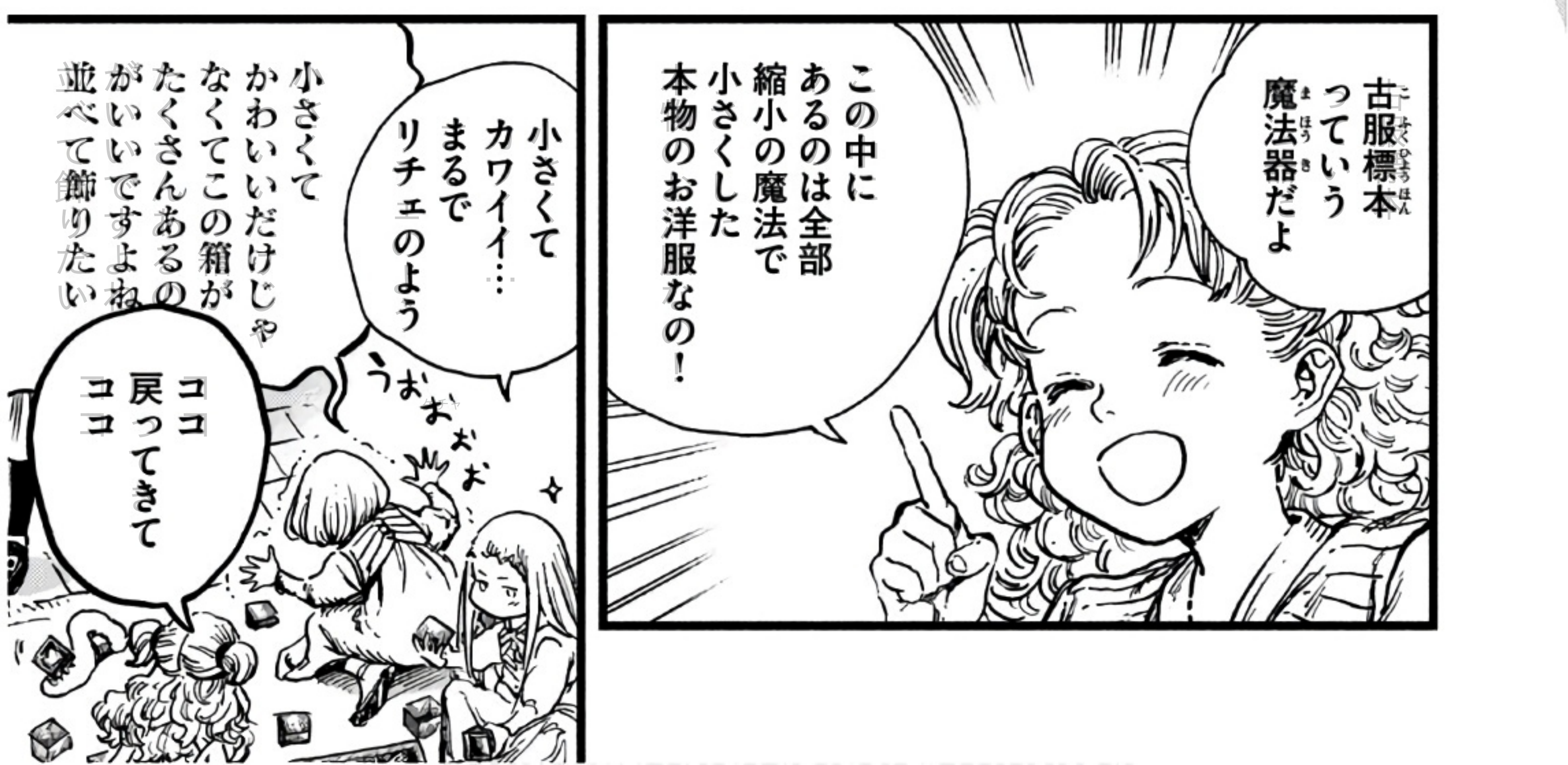
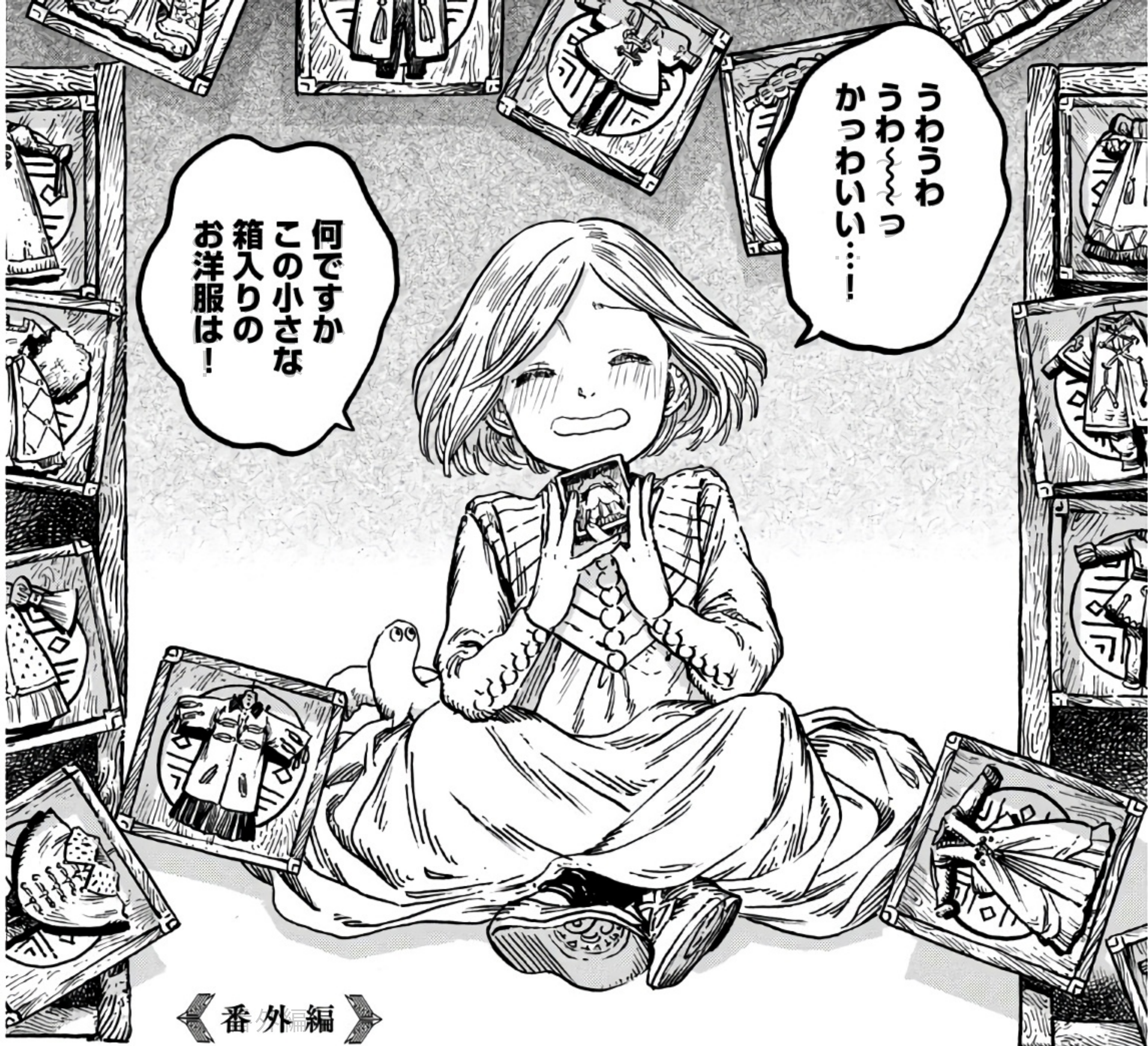
かな
叶えてくれる
奇跡なのだよ



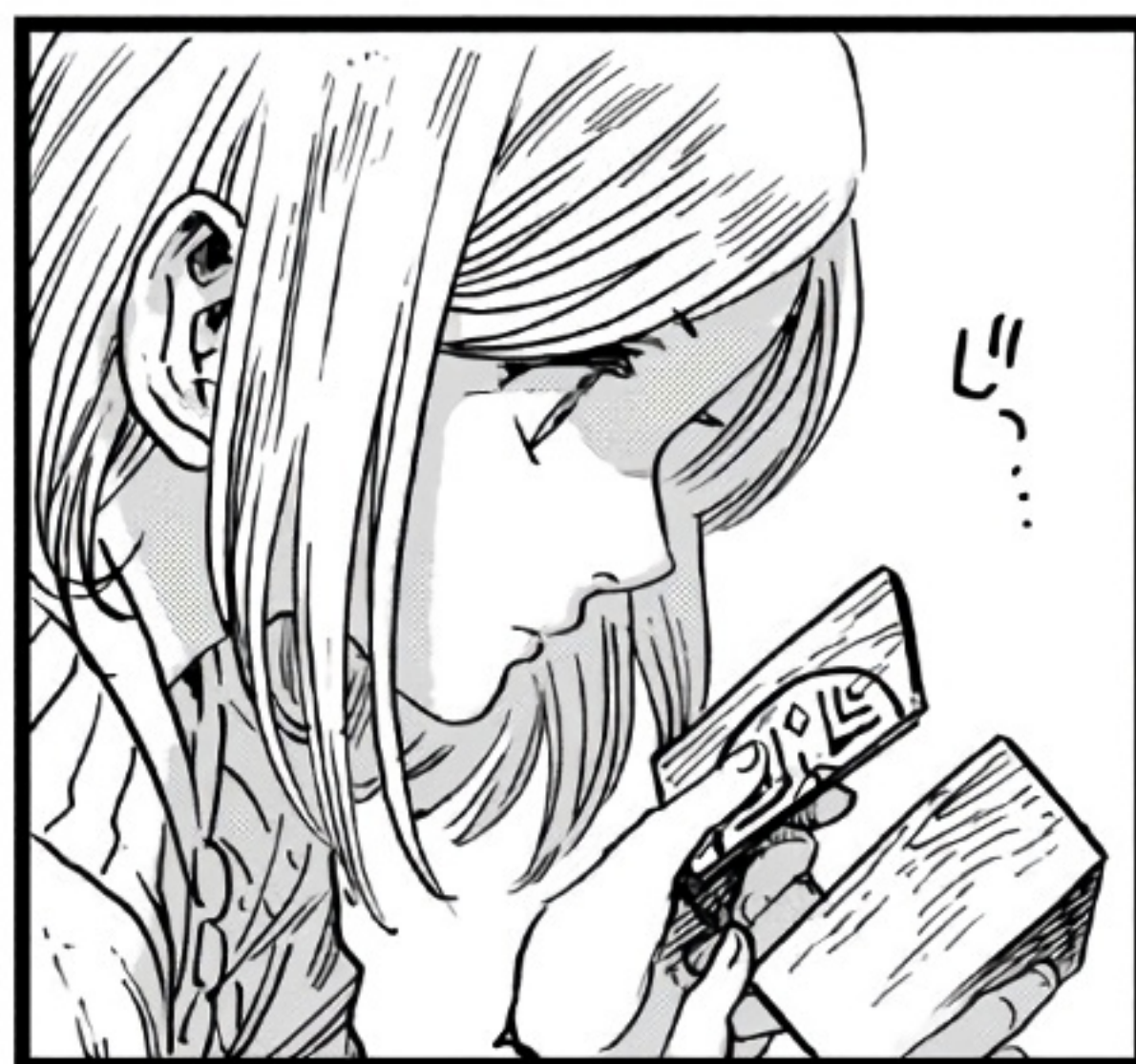
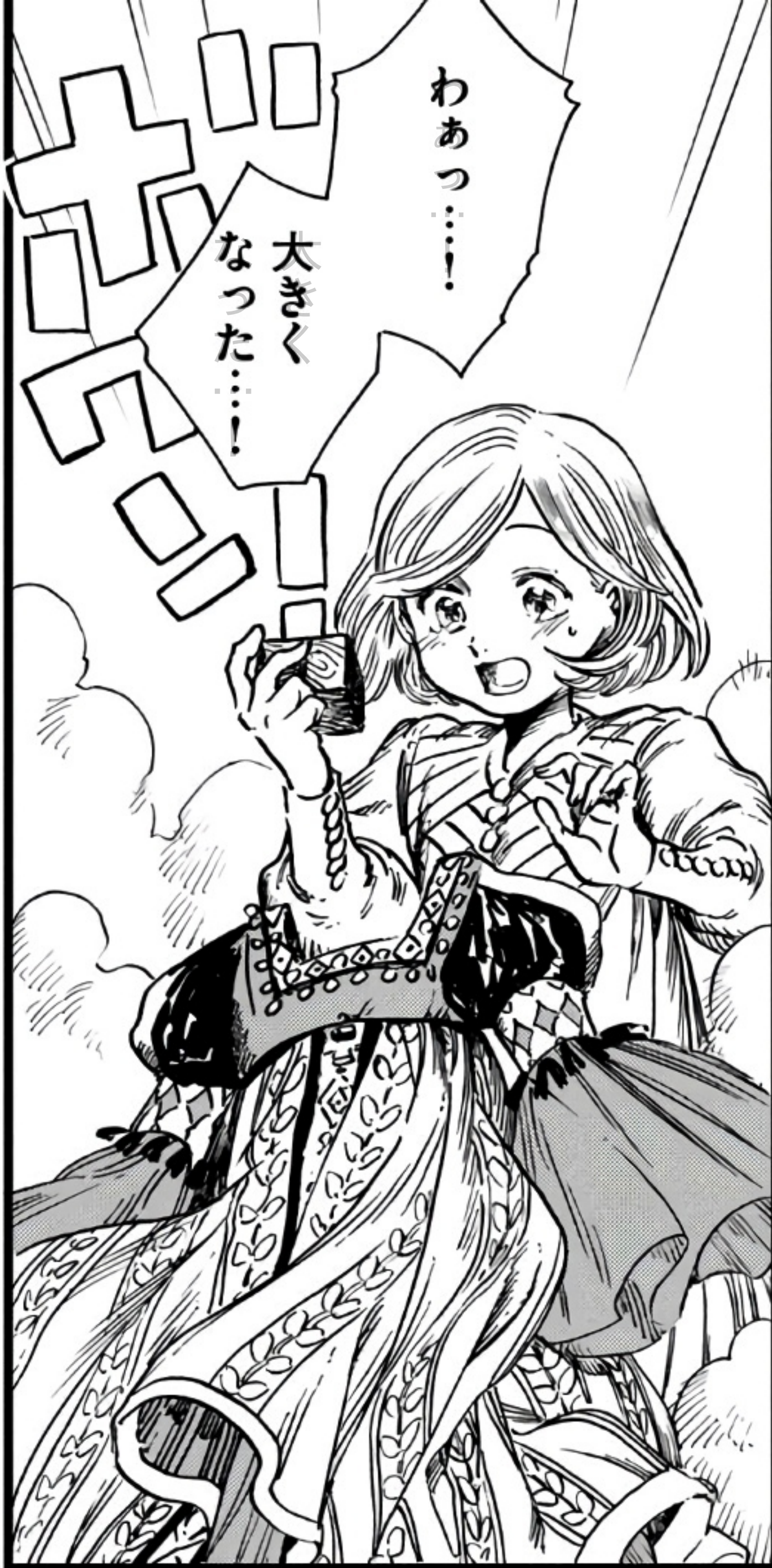
とんがり帽子のアトリエ

ATELIER OF WITCHAHAT

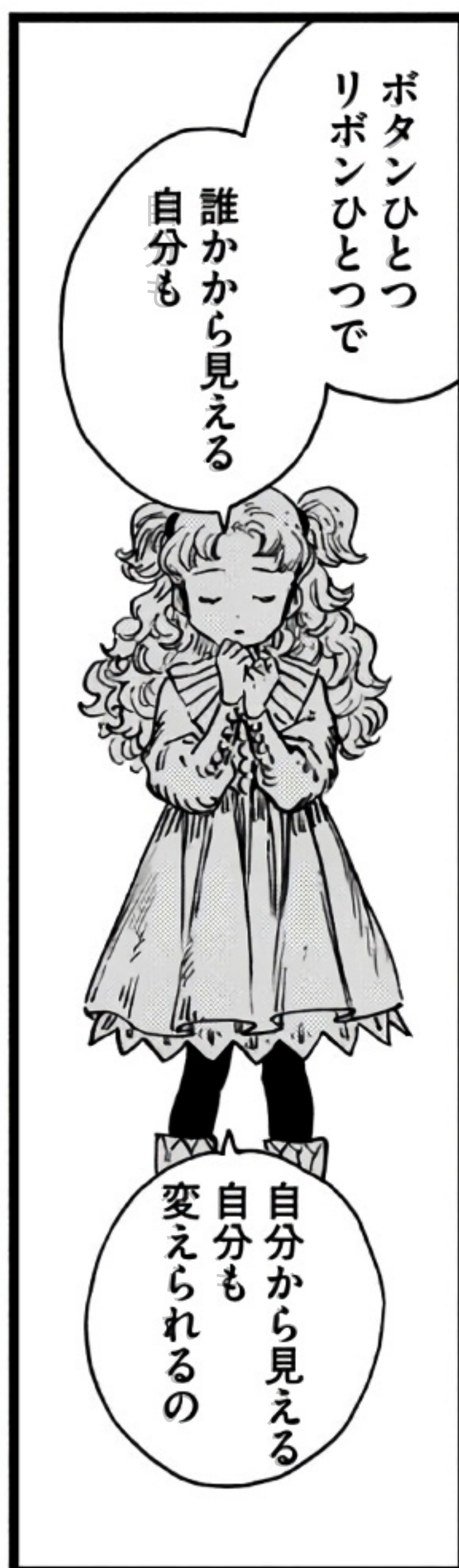




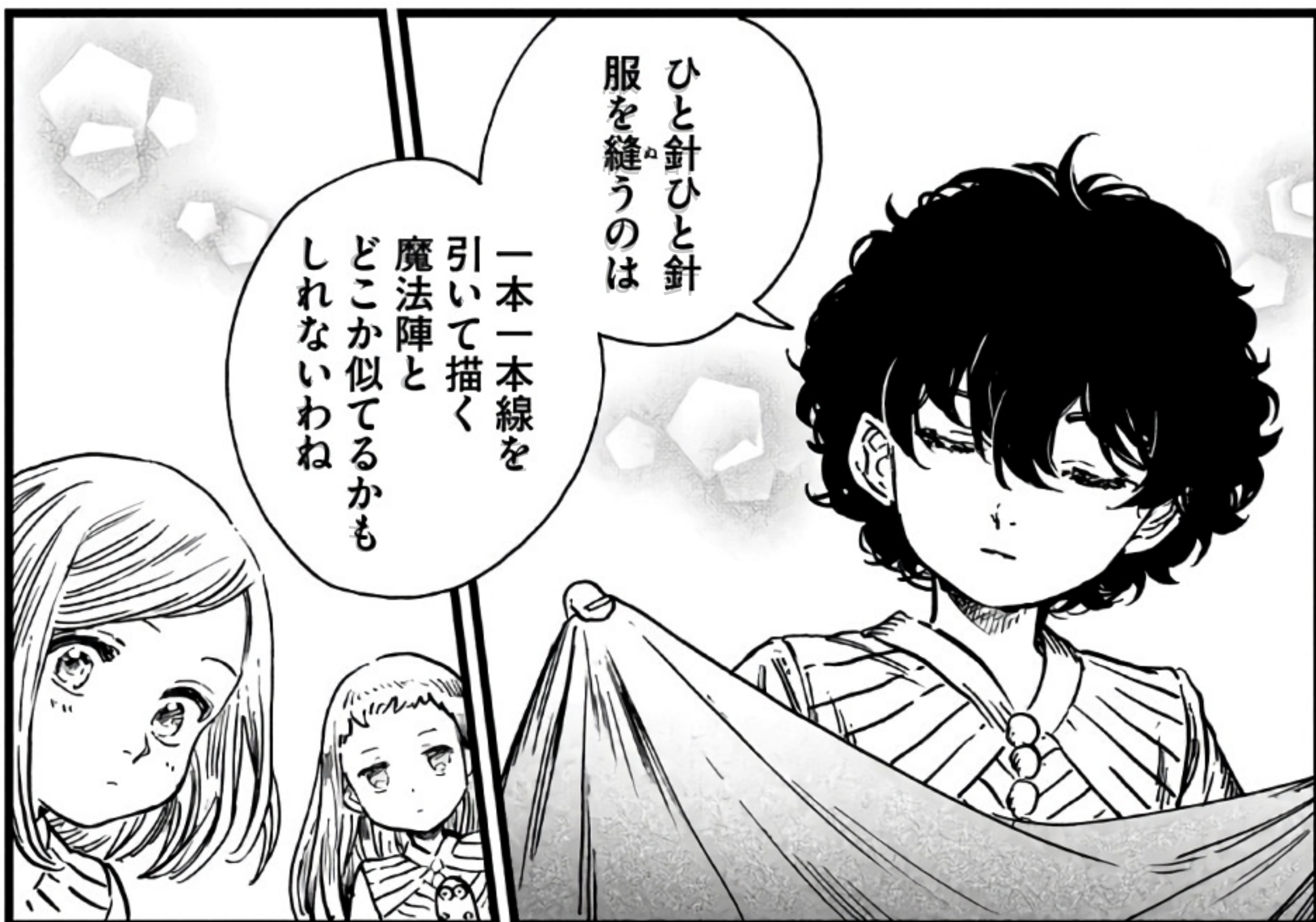
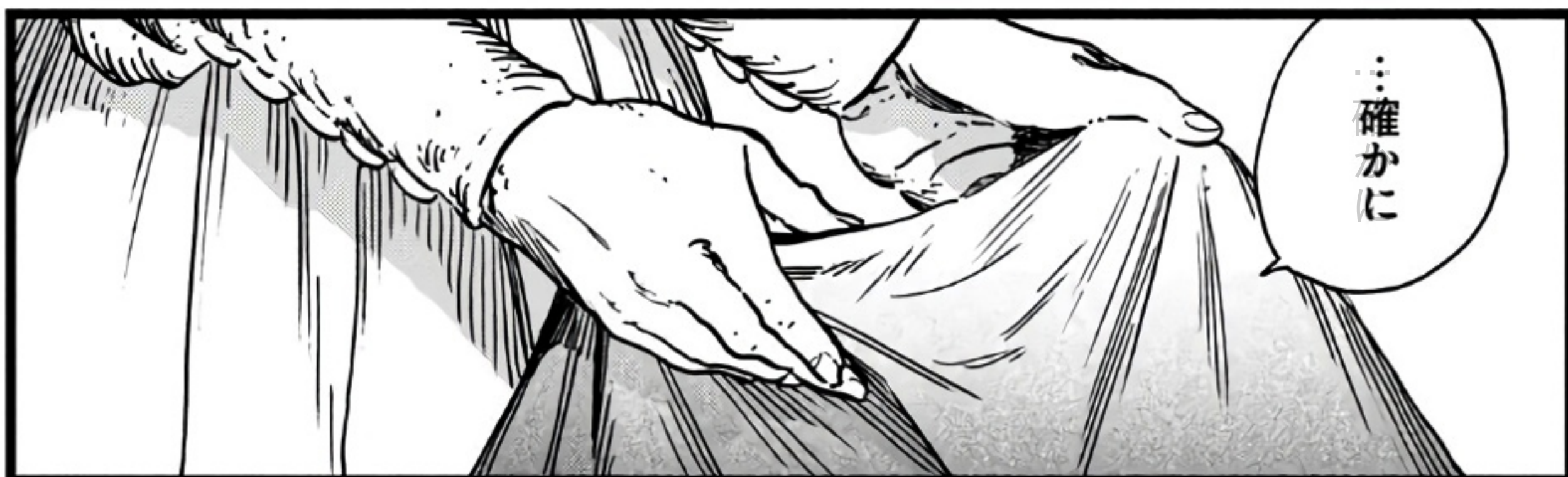


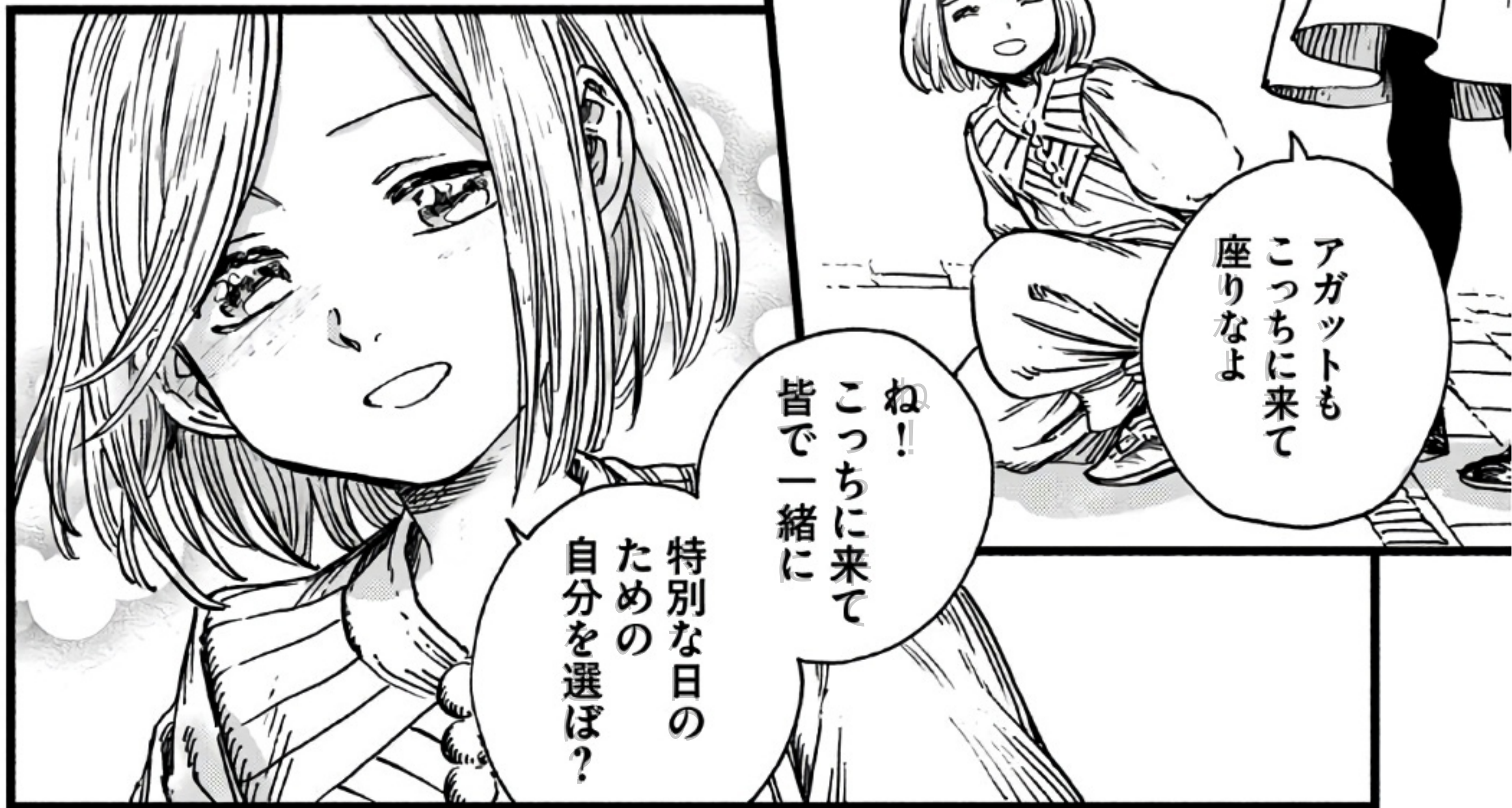












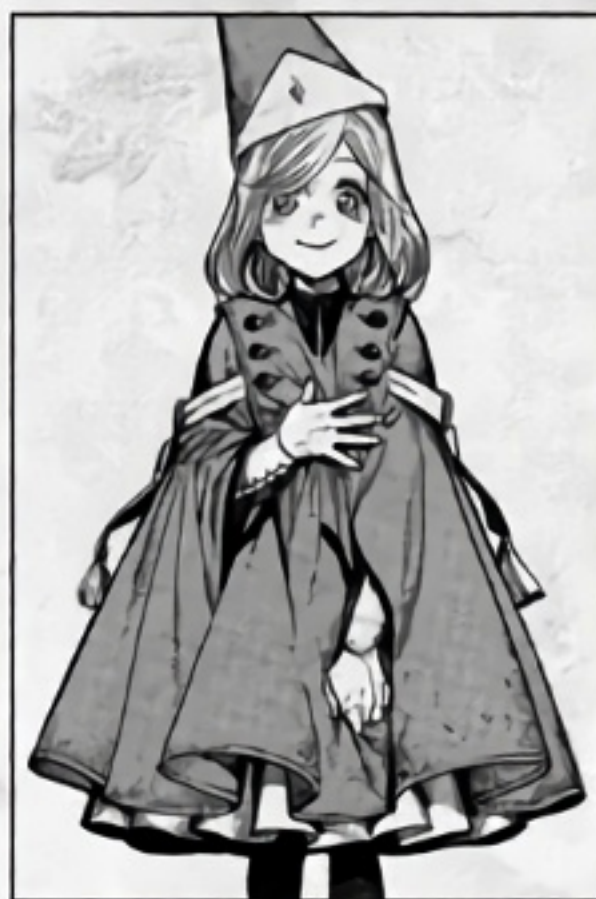
マント とんがり帽子の外套たち

魔法使いたちが身につけてる外套の特徴を紹介。



| FILE.01 | キーフリーの外套

淡い煙色の外套。襟には金色の飾りボタンがついている。雨に濡れるのが嫌いなため、布の裏地に水を弾く魔法を仕込んでいる。



| FILE.02 | ココたちの外套

鮮やかな浅瀬色の外套。黒い襟と黒いくるみボタンが特徴的。暖かい生地できているので、防寒具としても優秀。フデムシの毛がよく付く。



| FILE.03 | オルーギオの外套

重厚な夜色の外套。なめらかな手触りで、上等な生地を使っている。そのため布自体が少し重く、オルーギオがいつも猫背なのはそのせい。



| FILE.04 | 魔警団の外套

罪人の夢の中にのみ現れるという幻の鳥、罪告鳥の紅の羽を模した外套。大きなスリットが特徴的。防具としての役割も持ち、攻撃から身を守るための魔法が仕込まれている。



| FILE.05 | タータの外套

明るい新芽色の外套。魔材作りの邪魔にならないよう、軽くて柔らかい生地を使っている。汚れる作業が多い魔材屋は、あまり長い裾の外套を好まない。

運命を 変える

本物の
魔法使い
さまなの
ですよ





禁じられた魔法。

クスタスとダグダを窮地から救ったイニシアが見せたのは、

絶対に使ってはいけ**ないはず**の「人体に**かける魔法**」。

当たり前だと思**っていた**ものが、足下から崩れ始める…

波乱の予感に満ちた**銀夜祭**がついに幕を開ける！

ATELIER OF WITCH HAT
とんがり帽子の**アトリエ** 9巻

※この物語はフィクションです。実在の人物・団体・出来事などとは、一切関係ありません。

※収録されている内容は、作品の執筆年代・執筆された状況を考慮し、コミックス発売当時のまま掲載しています。

とんがり帽子のアトリエ(8)

2020年12月1日発行(01)

著 白浜鷗

©KAMOME SHIRAHAMA 2020

発行者 森田浩章

発行所 株式会社・講談社
〒112-8001
東京都文京区音羽 2-12-21